

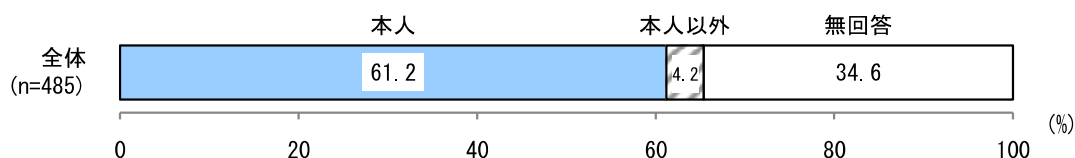
第3章 若年者調査の結果

1 回答者の基本属性

(1) 調査票の記入者

Q 調査票を記入された方をお教えてください。〈あてはまる方に○を付けてください。〉

【図 1-1 調査票の記入者】

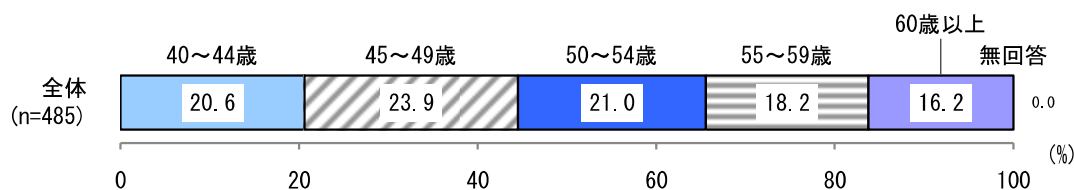


調査票の記入者は、「本人」が61.2%、「本人以外」が4.2%となっています。(図 1-1)

(2) 回答者の年齢

問 1 Q 1 あなた（あて名の御本人。以下の問も同じです。）の年齢をお教えてください。〈○は1つ〉

【図 1-2 回答者の年齢】

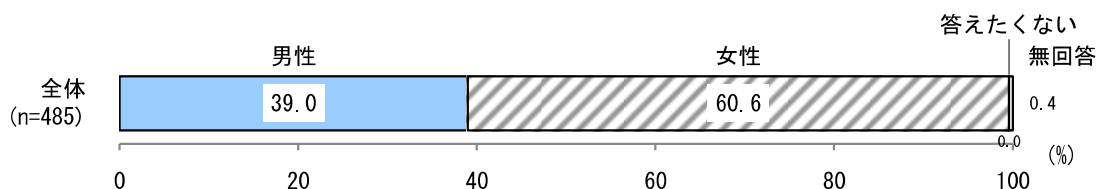


回答者の年齢は、「45~49歳」が23.9%で最も多く、次いで「50~54歳」が21.0%となっています。(図 1-2)

(3) 回答者の性別

問 1 Q 2 あなたの性別をお教えてください。〈○は1つ〉

【図 1-3 回答者の性別】

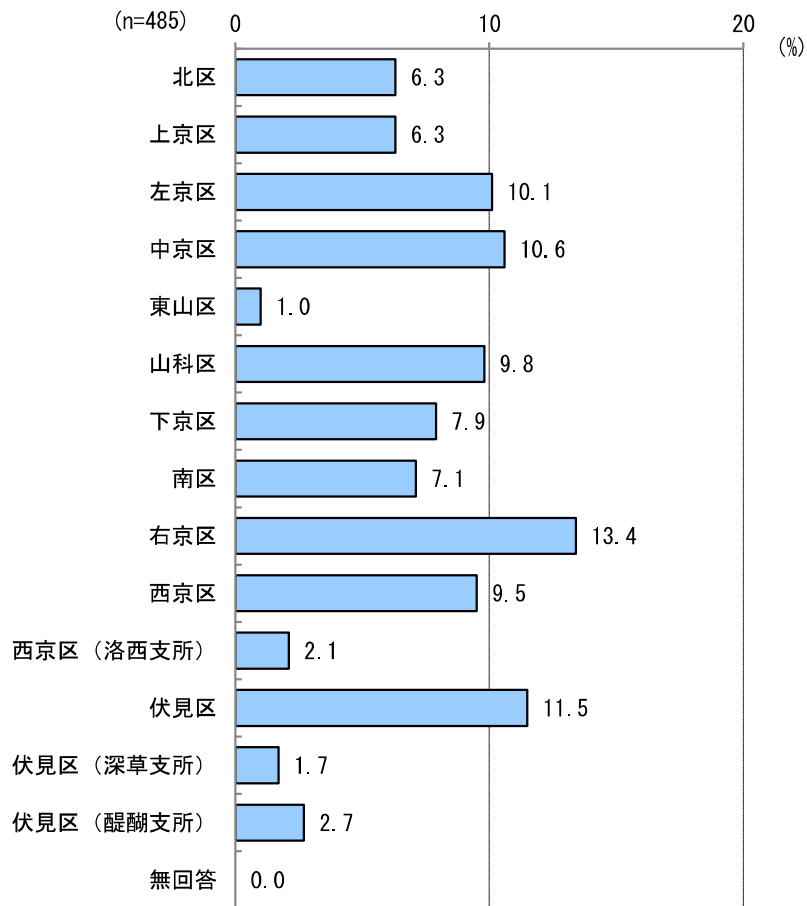


回答者の性別は、「男性」が39.0%、「女性」が60.6%となっています。(図 1-3)

(4) 回答者が住む区・支所

問1 Q3 あなたがお住まいの区・支所をお教えてください。〈〇は1つ〉

【図1-4 回答者が住む区・支所】

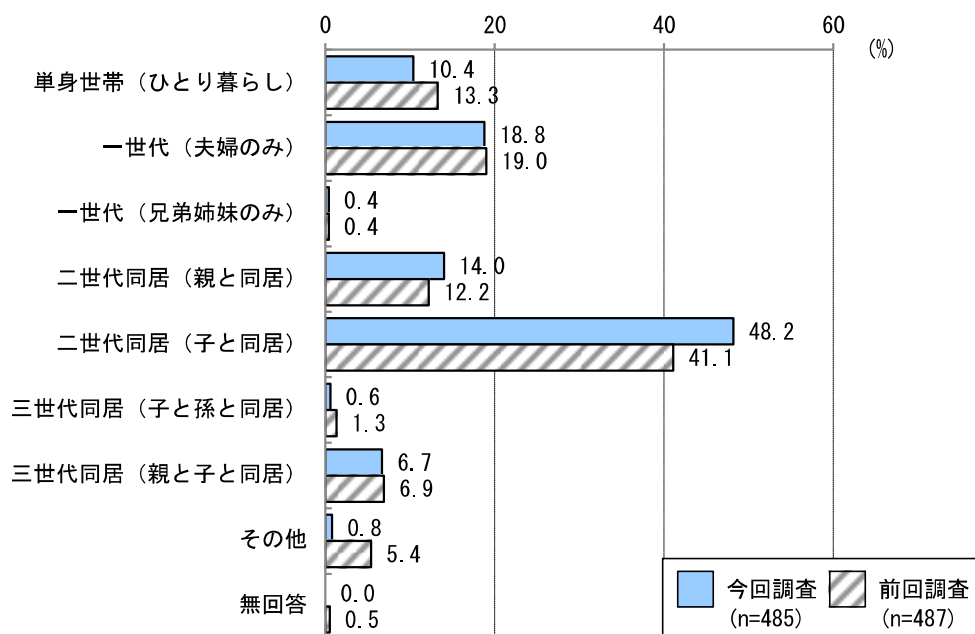


回答者が住む区・支所については、「右京区」が13.4%で最も多く、次いで「伏見区」が11.5%、「中京区」が10.6%となっています。(図1-4)

(5) 家族構成

問1Q4 あなたの同居者（家族）の構成をお教えてください。〈〇は1つ〉

【図1-5 家族構成】



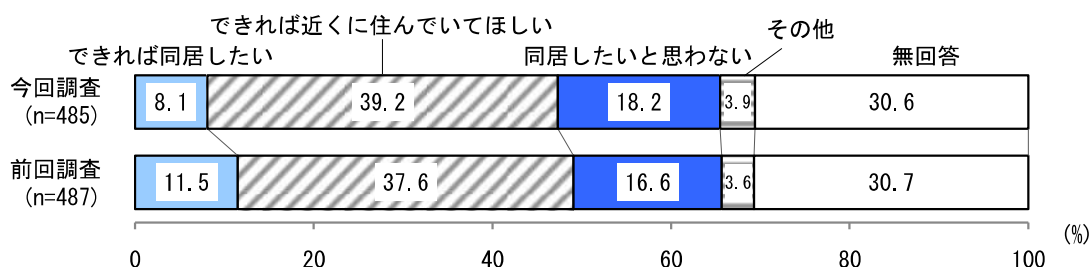
回答者の家族構成については、「二世世代同居（子と同居）」が48.2%で最も多く、次いで「一世代（夫婦のみ）」が18.8%となっています。

前回調査と比較すると、大きな差異はみられません。（図1-5）

(6) 子どもとの同居意向

問1Q4-1 子がおられる方にお聞きます。子と同居したい（し続けたい）ですか。〈〇は1つ〉

【図1-6 子どもとの同居意向】



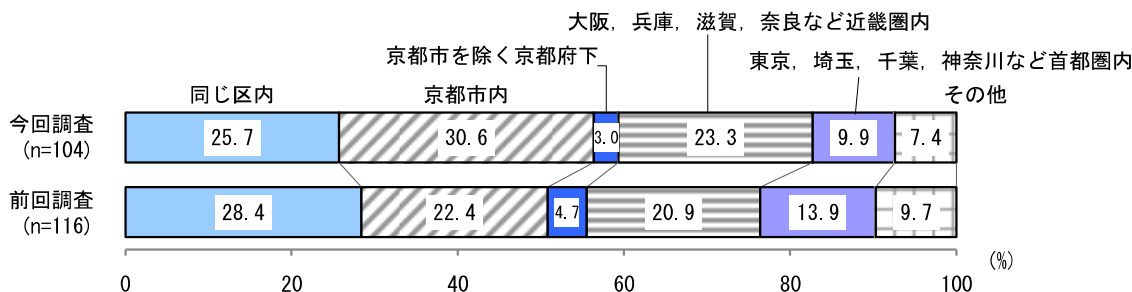
子どもがいる人に、子どもとの同居意向をたずねたところ、「できれば近くに住んでいてほしい」が39.2%で最も多く、次いで「同居したいと思わない」が18.2%となっています。

前回調査と比較すると、大きな差異はみられません。（図1-6）

(7) 最も近居の子の居住地

問1Q4-2 子がおられる方で、子と同居されていない方にお聞きします。子はどこに住んでおられますか。＜最も近くにお住まいの子の居住地1つに○＞

【図1-7 最も近居の子の居住地】



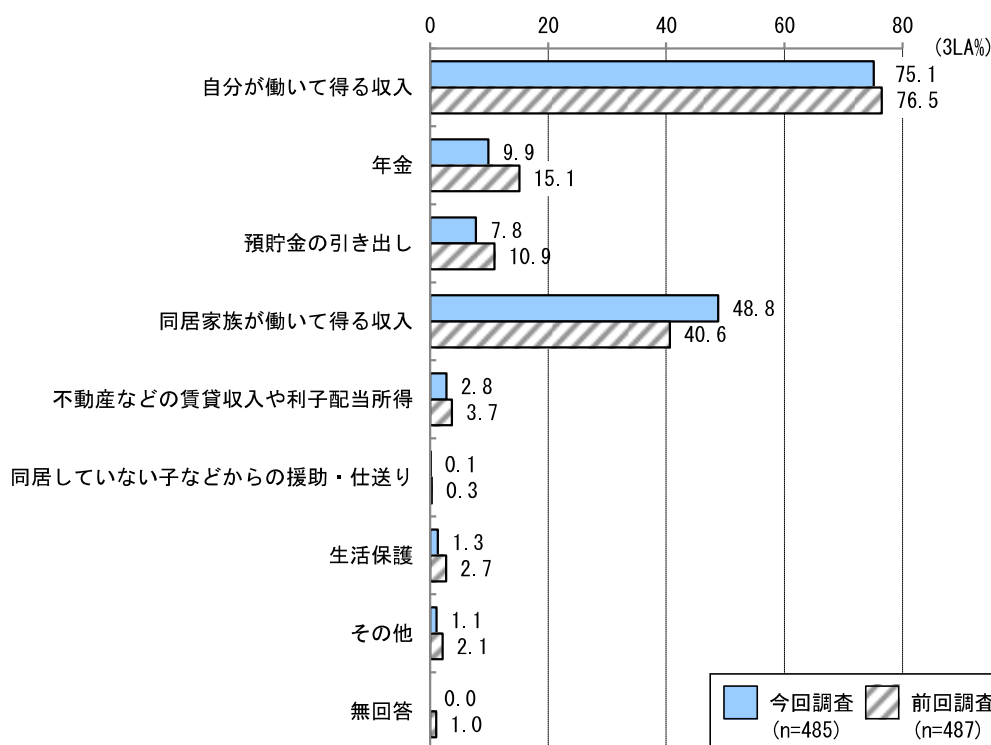
子どもと同居していない人に、最も近居の子どもの居住地をたずねたところ、「京都市内」が30.6%で最も多く、次いで「同じ区内」が25.7%となっています。

前回調査と比較すると、「京都市内」の割合は8.2ポイント高くなっています。(図1-7)

(8) 生活費の収入源

問1Q5 あなたは生活費をどのようにして得ていますか。＜○は3つまで＞

【図1-8 生活費の収入源】



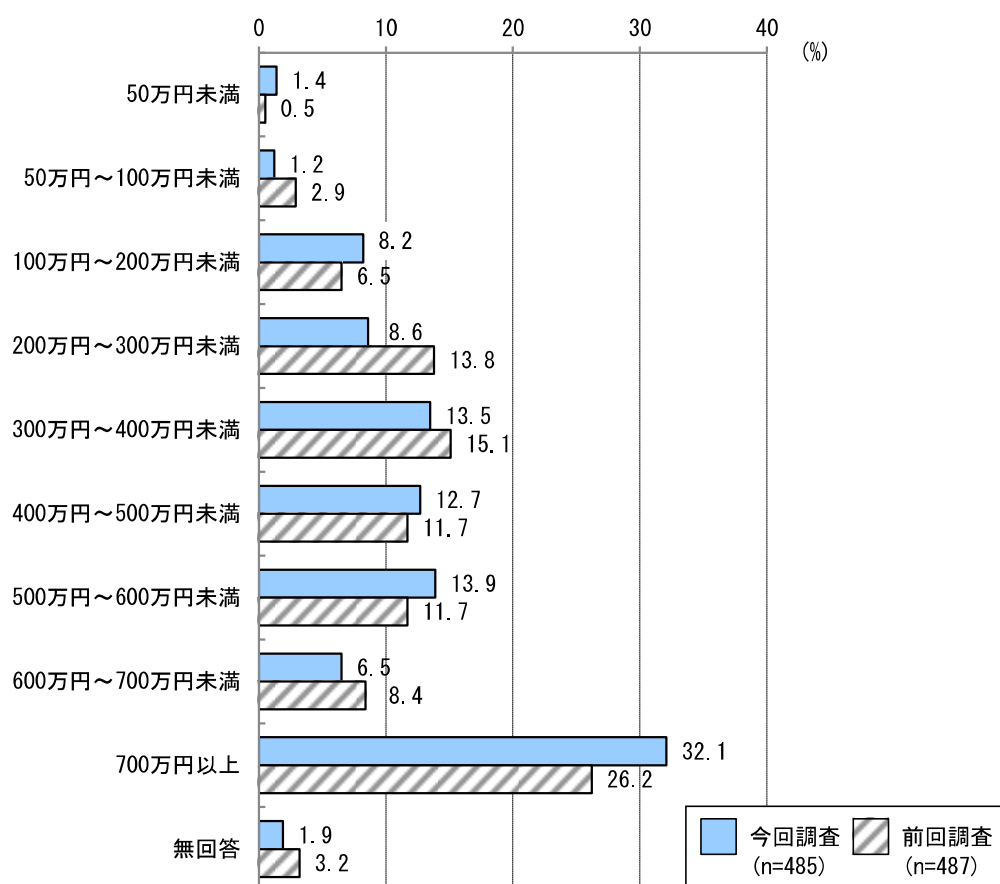
生活費の収入源については、「自分が働いて得る収入」が75.1%で最も多く、次いで「同居家族が働いて得る収入」が48.8%となっています。

前回調査と比較すると、「同居家族が働いて得る収入」の割合は8.2ポイント高くなっています。(図1-8)

(9) 世帯の年間総収入

問1Q6 あなたの世帯の年間総収入（年金収入を含む。税込）はどのくらいですか。
 <○は1つ>

【図1-9 世帯の年間総収入】



世帯の年間総収入については、「700万円以上」が32.1%で最も多く、次いで「500万円～600万円未満」が13.9%となっています。

前回調査と比較すると、「700万円以上」の割合は5.9ポイント高くなっています。(図1-9)

- 若年者調査の結果 -

年齢別で見ると、40～59歳では「700万円以上」が最も多く、60歳以上では「300万円～400万円未満」が最も多くなっています。(表1-9-1)

【表1-9-1 年齢別 世帯の年間総収入】

(単位：%)

	50万円未満	150万円未満	210万円未満	320万円未満	430万円未満	540万円未満	650万円未満	760万円未満	700万円以上	無回答
40～44歳 (n=100)	3.0	0.0	1.5	6.0	19.4	7.5	16.4	7.5	34.3	4.5
45～49歳 (n=116)	1.5	3.0	7.5	7.5	9.0	16.4	9.0	6.0	40.3	0.0
50～54歳 (n=102)	0.0	0.0	12.2	11.0	4.9	11.0	17.1	9.8	32.9	1.2
55～59歳 (n=88)	1.2	0.0	7.2	7.2	16.9	15.7	15.7	2.4	31.3	2.4
60歳以上 (n=79)	1.1	3.2	14.0	11.8	19.9	12.9	11.8	6.5	17.2	1.6

家族構成別で見ると、“単身世帯（ひとり暮らし）”では、「100万円～200万円未満」が最も多くなっています。また、“一世代（夫婦のみ）”と“二世代同居（親と同居）”と“二世代同居（子と同居）”では、「700万円以上」が最も多くなっています。(表1-9-2)

【表1-9-2 家族構成別 世帯の年間総収入】

(単位：%)

	50万円未満	150万円未満	210万円未満	320万円未満	430万円未満	540万円未満	650万円未満	760万円未満	700万円以上	無回答
単身世帯（ひとり暮らし） (n=50)	6.4	2.5	19.5	17.1	17.8	10.2	7.5	5.8	7.2	5.9
一世代（夫婦のみ） (n=91)	0.0	0.0	7.1	4.6	15.1	20.6	11.4	4.9	35.8	0.5
一世代（兄弟姉妹のみ） (n=2)	77.9	0.0	0.0	22.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
二世代同居（親と同居） (n=68)	0.6	3.2	16.5	14.8	16.2	10.0	15.3	0.6	18.4	4.4
二世代同居（子と同居） (n=234)	0.0	0.9	4.6	6.0	11.7	11.3	13.5	8.0	42.9	1.2
三世代同居（子と孫と同居） (n=3)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	57.1	28.6	14.3	0.0
三世代同居（親と子と同居） (n=33)	0.0	0.0	0.0	13.0	11.2	14.1	29.2	12.9	19.6	0.0
その他 (n=4)	37.2	10.6	41.7	0.0	10.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

- 若年者調査の結果 -

住まいの種類別で見ると，“持家（一戸建て）”“持家（分譲マンション）”“民間賃貸住宅（一戸建て）”“民間賃貸住宅（マンション・アパートなど）”では「700万円以上」が最も多くなっています。（表1-9-3）

【表 1-9-3 住まいの種類別 世帯の年間総収入】

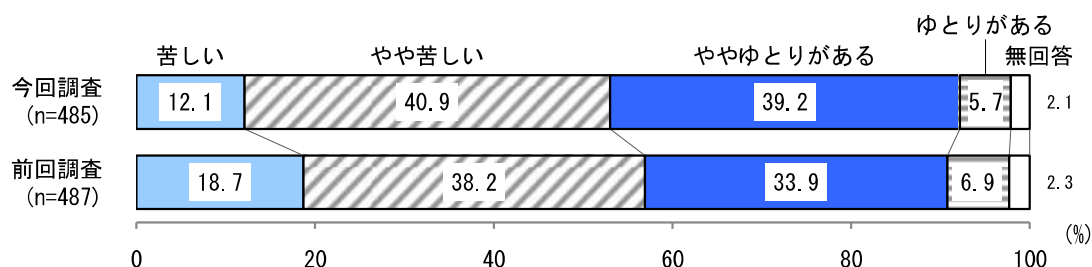
(単位：%)

	50万円未満	150万円未満	210万円未満	320万円未満	430万円未満	540万円未満	650万円未満	760万円未満	700万円以上	無回答
持家（一戸建て） (n=303)	0.8	1.0	6.4	6.3	13.5	14.9	17.2	6.1	32.2	1.6
持家（分譲マンション） (n=73)	0.0	0.6	9.7	11.6	12.0	3.6	12.0	9.0	41.5	0.0
民間賃貸住宅（一戸建て） (n=23)	0.0	7.6	13.8	6.5	10.2	20.8	5.5	6.5	27.2	1.9
民間賃貸住宅（マンション・ アパートなど）(n=58)	4.4	1.5	8.5	11.7	11.8	12.1	5.9	8.0	29.6	6.6
高齢者向け住宅（サ高住や有料老人 ホーム等）(n=0)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
公営住宅 (n=12)	0.0	0.0	30.6	21.1	25.0	3.6	3.6	3.6	12.5	0.0
社宅・官舎 (n=5)	0.0	0.0	0.0	29.0	8.2	33.7	29.0	0.0	0.0	0.0
間借・住み込み (n=5)	29.0	0.0	33.7	8.2	8.2	0.0	0.0	0.0	20.8	0.0
その他 (n=4)	0.0	0.0	0.0	27.9	62.6	0.0	0.0	0.0	9.5	0.0

(10) 主観的経済状況

問1 Q7 あなたは現在の暮らしの状況を経済的にみてどう感じていますか。〈○は1つ〉

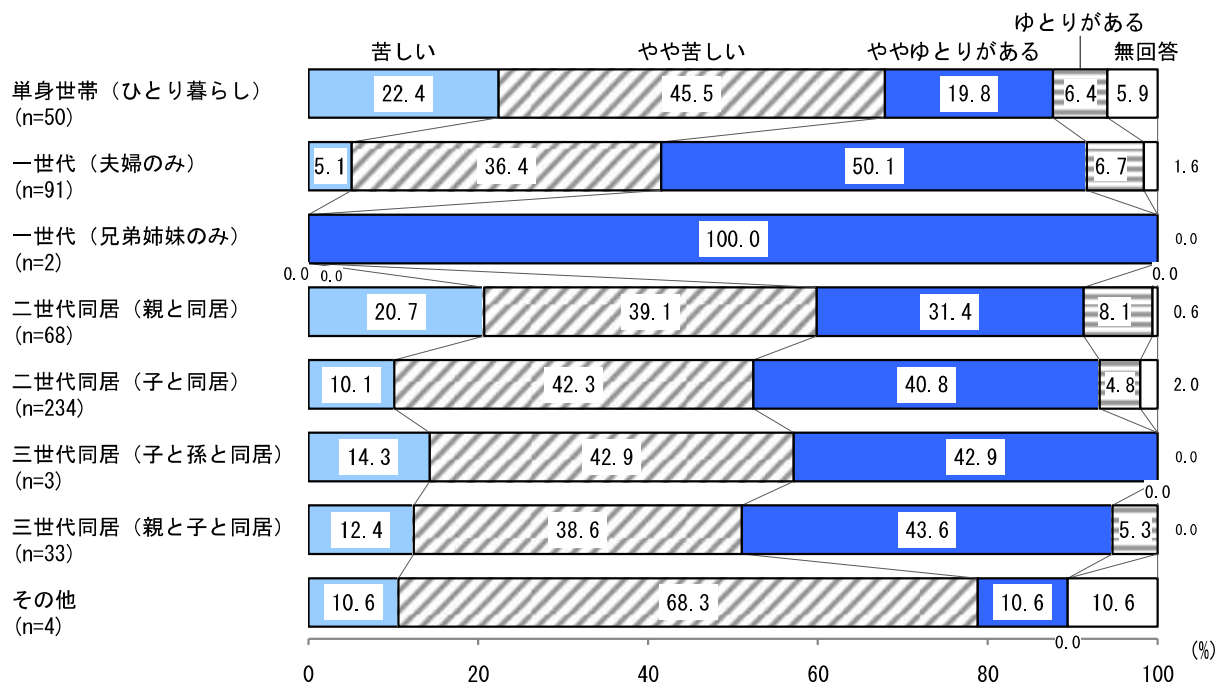
【図1-10 主観的経済状況】



主観的経済状況については、「やや苦しい」が40.9%で最も多く、次いで「ややゆとりがある」が39.2%となっています。「苦しい」と「やや苦しい」を合わせた『苦しい』割合は53.0%、「ゆとりがある」と「ややゆとりがある」を合わせた『ゆとりがある』は44.9%となっています。

前回調査と比較すると、『ゆとりがある』割合は4.1ポイント高くなっています。(図1-10) 家族構成別でみると、“単身世帯(ひとり暮らし)”では『苦しい』が67.9%、『ゆとりがある』が26.2%となっています。“一世代(夫婦のみ)”では『ゆとりがある』が56.8%と過半数を超えています。“二世帯同居(親と同居)”“二世帯同居(子と同居)”“三世帯同居(親と子と同居)”では、『苦しい』が過半数を超えています。(図1-10-1)

【図1-10-1 家族構成別 主観的経済状況】



- 若年者調査の結果 -

住まいの種類別で見ると，“持家（一戸建て）”と“民間賃貸住宅（マンション・アパートなど）”では「やや苦しい」が最も多く，“持家（分譲マンション）”“民間賃貸住宅（一戸建て）”では「ややゆとりがある」が最も多くなっています。（表 1-10-2）

【表 1-10-2 住まいの種類別 主観的経済状況】

(単位：%)

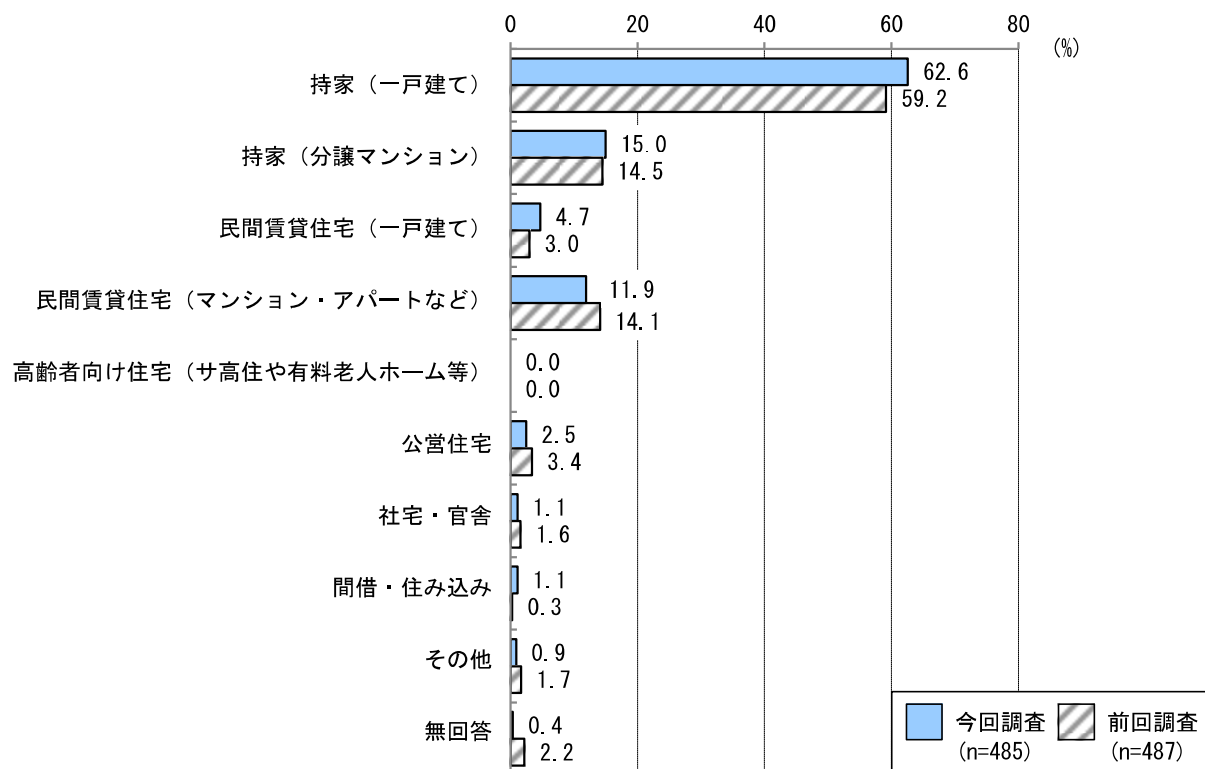
	苦しい	やや苦しい	ややゆとりがある	ゆとりがある	無回答
持家（一戸建て） (n=303)	10.1	42.0	39.4	6.9	1.7
持家（分譲マンション） (n=73)	7.2	34.0	50.6	6.7	1.5
民間賃貸住宅（一戸建て） (n=23)	26.1	29.9	38.4	0.0	5.6
民間賃貸住宅（マンション・ アパートなど）(n=58)	19.9	45.8	34.3	0.0	0.0
高齢者向け住宅（サ高住や有料老人 ホーム等）(n=0)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
公営住宅 (n=12)	19.4	53.8	10.7	3.6	12.5
社宅・官舎 (n=5)	0.0	29.0	16.5	33.7	20.8
間借・住み込み (n=5)	33.7	8.2	58.0	0.0	0.0
その他 (n=4)	27.9	62.6	9.5	0.0	0.0

2 住まいについて

(1) 住居形態

問2 Q1 あなたの現在のお住まいは、次のどれにあたりますか。〈○は1つ〉

【図 2-1 住居形態】



住居形態については、「持家（一戸建て）」が62.6%で最も多く、次いで「持家（分譲マンション）」が15.0%となっています。

前回調査と比較すると、大きな差異はみられません。（図 2-1）

- 若年者調査の結果 -

家族構成別でみると，“単身世帯（ひとり暮らし）”と“一世代（兄弟姉妹のみ）”を除いて、「持家（一戸建て）」が多くなっています。“単身世帯（ひとり暮らし）”は「民間賃貸住宅（マンション・アパートなど）」が最も多くなっています。（表 2-1-1）

【表 2-1-1 家族構成別 住居形態】

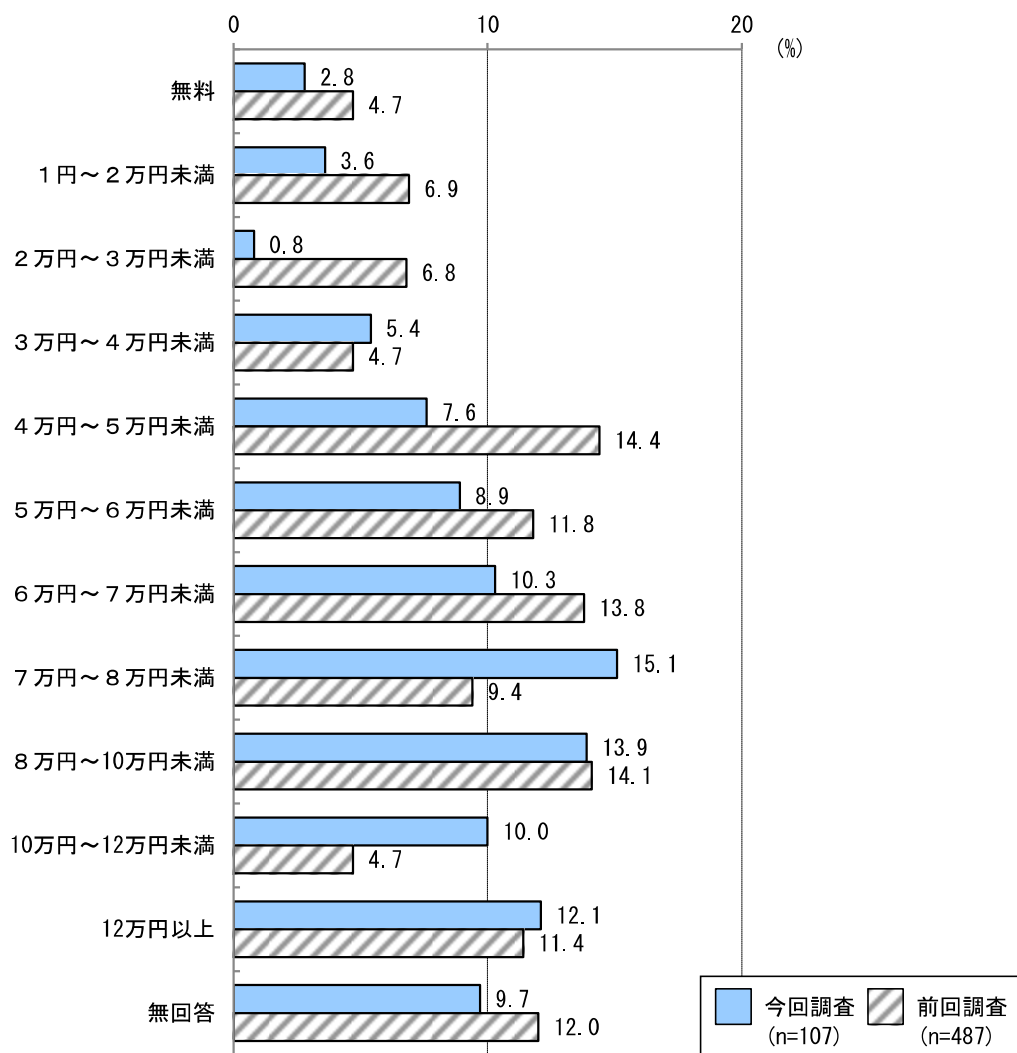
(単位：%)

	持家 （一戸建て）	持家 （分譲マンション）	民間賃貸住宅 （一戸建て）	民間賃貸住宅 （マンション・ アパートなど）	高齢者向け住宅 （サ高住や有料老人 ホーム等）	公営住宅	社宅・官舎	間借・住み込み	その他	無回答
単身世帯（ひとり暮らし） (n=50)	24.9	24.5	2.5	34.1	0.0	9.7	4.3	0.0	0.0	0.0
一世代（夫婦のみ） (n=91)	54.4	21.1	5.1	14.1	0.0	1.4	2.8	0.0	1.2	0.0
一世代（兄弟姉妹のみ） (n=2)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0
二世帯同居（親と同居） (n=68)	72.8	8.7	10.7	4.6	0.0	0.0	0.6	2.5	0.0	0.0
二世帯同居（子と同居） (n=234)	66.4	14.8	3.9	9.9	0.0	2.1	0.0	0.6	1.5	0.7
三世帯同居（子と孫と同居） (n=3)	71.4	0.0	0.0	0.0	0.0	28.6	0.0	0.0	0.0	0.0
三世帯同居（親と子と同居） (n=33)	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
その他 (n=4)	41.7	10.6	10.6	37.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

(2) 住居費

問2 Q1-1 Q1で「3. 民間賃貸住宅（一戸建て）」～「9. その他」と回答した方にお聞きします。現在のお住まいに係る住居費（月額、共益費含む。）は、次のどれにあたりますか。〈〇は1つ〉

【図2-2 住居費】



持家以外に住んでいる人に住居費についてたずねたところ、「7万円～8万円未満」が15.1%で最も多く、次いで「8万円～10万円未満」が13.9%となっています。

前回調査と比較すると、「2万円～3万円未満」の割合は6.0ポイント、「4万円～5万円未満」の割合は6.8ポイント低くなっています。また「7万円～8万円未満」の割合は5.7ポイント、「10万円～12万円未満」の割合は5.3ポイント高くなっています。(図2-2)

- 若年者調査の結果 -

住まいの種類別で見ると，“民間賃貸住宅（一戸建て）”は「6万円～7万円未満」が，“民間賃貸住宅（マンション・アパートなど）”は「7万円～8万円未満」がそれぞれ最も多くなっています。（表 2-2-1）

【表 2-2-1 住まいの種類別 住居費】

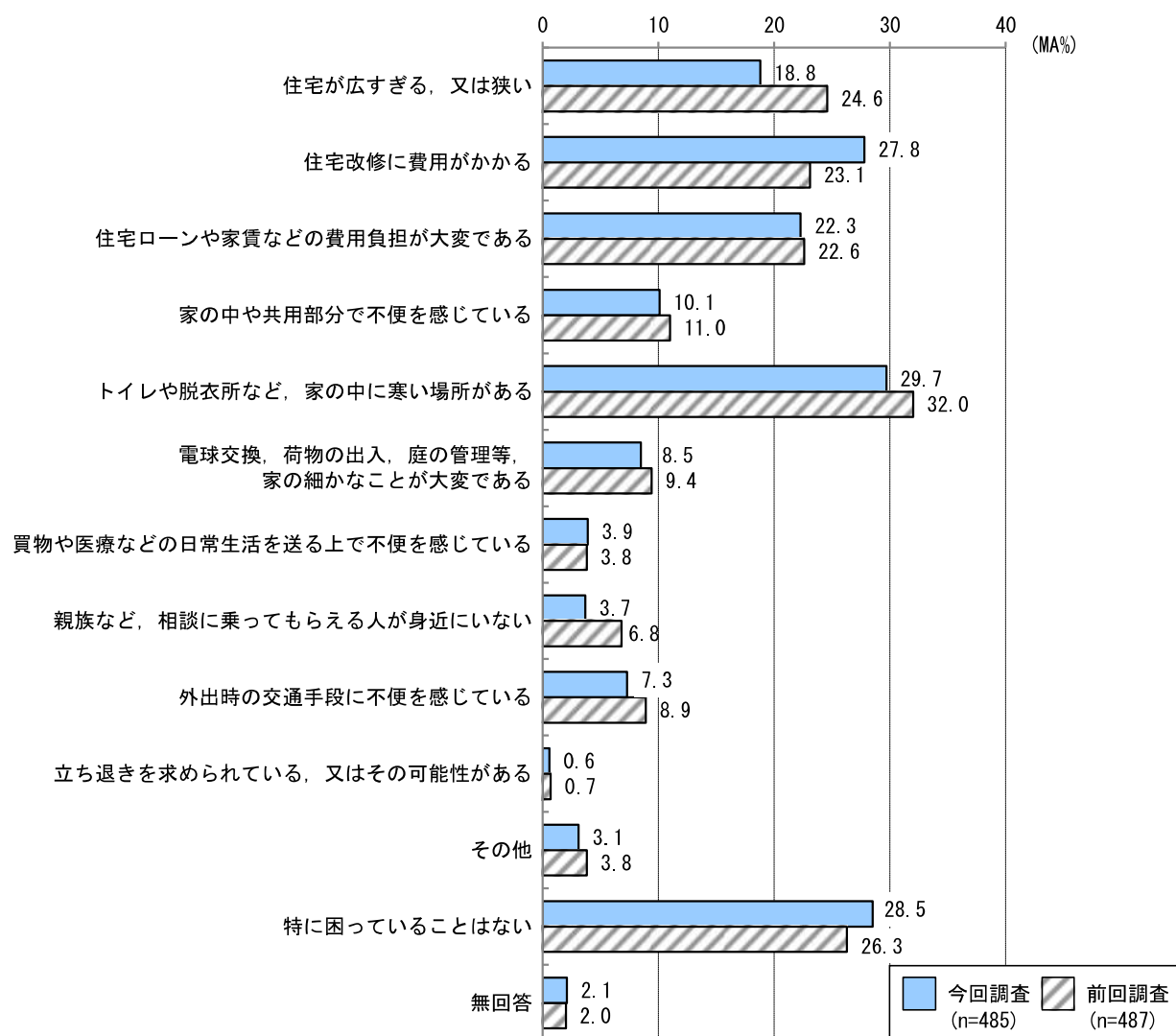
(単位：%)

	無料	1万円～2万円未満	2万円～3万円未満	3万円～4万円未満	4万円～5万円未満	5万円～6万円未満	6万円～7万円未満	7万円～8万円未満	8万円～10万円未満	10万円～12万円未満	12万円以上	無回答
民間賃貸住宅（一戸建て） (n=23)	0.0	1.9	0.0	14.1	16.0	1.9	20.4	8.4	16.8	7.6	13.1	0.0
民間賃貸住宅（マンション・アパートなど） (n=58)	0.0	0.0	0.0	1.8	7.7	8.3	7.0	19.2	17.7	12.9	16.6	8.8
高齢者向け住宅（サ高住や有料老人ホーム等） (n=0)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
公営住宅 (n=12)	0.0	10.5	7.1	9.0	0.0	12.5	16.1	18.1	3.6	0.0	3.6	19.6
社宅・官舎 (n=5)	0.0	33.7	0.0	8.2	0.0	0.0	0.0	20.8	8.2	8.2	0.0	20.8
間借・住み込み (n=5)	0.0	8.2	0.0	0.0	0.0	33.7	8.2	0.0	0.0	20.8	0.0	29.0
その他 (n=4)	66.7	0.0	0.0	0.0	0.0	23.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	9.5

(3) 住まいの困りごと

問2Q2 あなたの現在のお住まいについてお困りのことは、次のどれですか。
 <あてはまるものすべてに○>

【図 2-3 住まいの困りごと】



現在の住まいの困りごとについては、「トイレや脱衣所など, 家の中に寒い場所がある」が 29.7%で最も多く, 次いで「住宅改修に費用がかかる」が 27.8%, 「住宅ローンや家賃などの費用負担が大変である」が 22.3%となっています。一方「特に困っていることはない」は 28.5%となっています。

前回調査と比較すると, 「住宅が広すぎる, 又は狭い」の割合は 5.8 ポイント低くなっています。また「住宅改修に費用がかかる」の割合は 4.7 ポイント高くなっています。(図 2-3)

- 若年者調査の結果 -

住まいの種類別でみると、“持家（一戸建て）”では「住宅改修に費用がかかる」（37.5%）が、“民間賃貸住宅（マンション・アパートなど）”では「住宅が広すぎる，又は狭い」（39.2%）が最も多くなっています。“持家（分譲マンション）”では「特に困っていることはない」が46.9%で最も多くなっています。（表2-3-1）

【表2-3-1 住まいの種類別 住まいの困りごと】

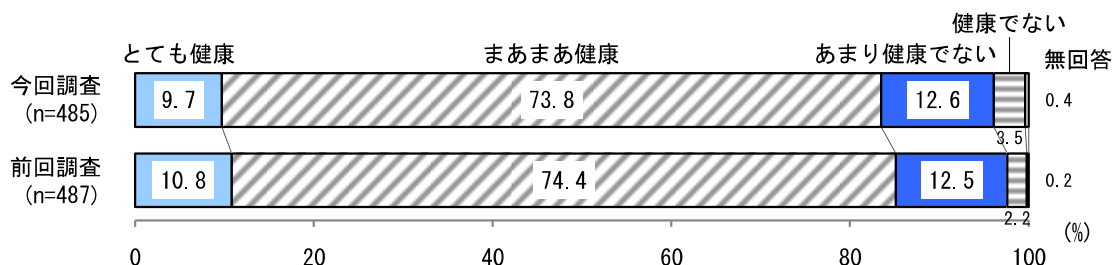
	(単位：MA%)												
	住宅が広すぎる，又は狭い	住宅改修に費用がかかる	住宅ローンや家賃などの費用負担が大変である	家の中や共用部分で不便を感じている	トイレや脱衣所などに寒い場所がある	変電管理など，家の細かな出入り，庭の電球交換	買物や医療などの日常生活を送る上で不便を感じている	親族などが身近にいない	外出時の交通手段に不便を感じている	立ち退きを求められている	特に困っていることはない	その他	無回答
持家（一戸建て） (n=303)	15.7	37.5	21.3	11.0	34.8	8.8	4.3	3.1	8.8	0.1	24.6	2.9	1.2
持家（分譲マンション） (n=73)	19.5	20.1	24.5	4.0	11.4	5.6	1.2	6.8	1.7	0.0	46.9	5.3	0.6
民間賃貸住宅（一戸建て） (n=23)	16.0	7.3	22.2	30.1	42.2	16.8	9.4	5.6	1.9	9.4	14.1	0.0	3.7
民間賃貸住宅（マンション・アパートなど） (n=58)	39.2	0.0	29.3	3.7	21.7	10.6	0.0	4.0	5.9	0.7	28.0	4.0	6.3
高齢者向け住宅（サ高住や有料老人ホーム等） (n=0)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
公営住宅 (n=12)	0.0	10.5	9.0	14.0	21.7	0.0	14.6	0.0	18.1	0.0	39.3	0.0	12.5
社宅・官舎 (n=5)	29.0	8.2	0.0	8.2	37.2	8.2	0.0	0.0	0.0	0.0	54.5	0.0	0.0
間借・住み込み (n=5)	37.3	29.0	33.7	0.0	37.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.8	0.0	8.2
その他 (n=4)	0.0	38.8	23.9	37.4	37.4	0.0	27.9	0.0	27.9	0.0	0.0	0.0	0.0

3 健康について

(1) 主観的健康観

問3 Q1 あなたは普段、御自分で健康だと思いますか。〈〇は1つ〉

【図 3-1 主観的健康観】

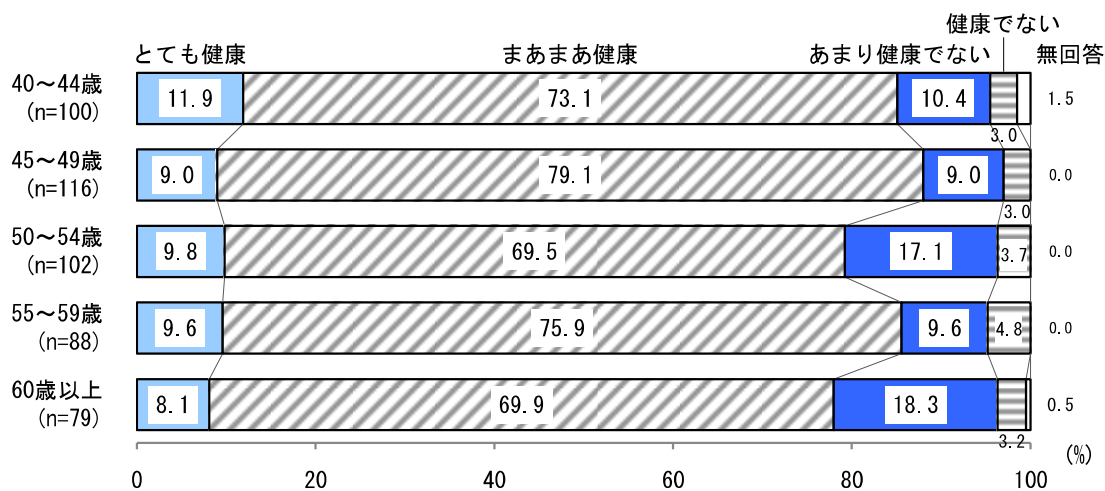


主観的健康観については、「まあまあ健康」が 73.8%で最も多く、次いで「あまり健康でない」が 12.6%となっています。

前回調査と比較すると、大きな差異はみられません。(図 3-1)

年齢別でみると、「あまり健康でない」と「健康でない」を合わせた『健康でない』割合は、60歳以上で 21.5%と最も高くなっています。(図 3-1-1)

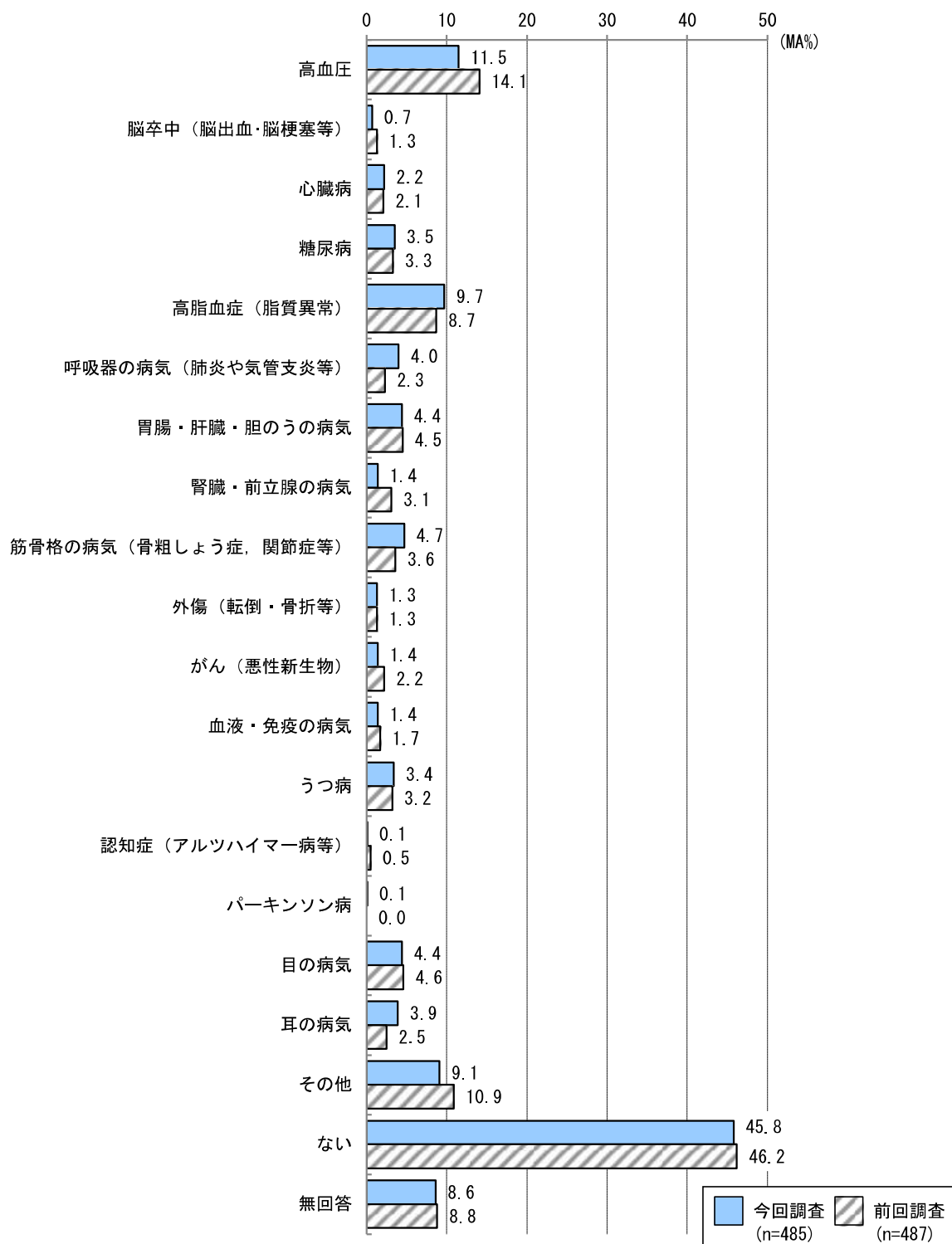
【図 3-1-1 年齢別 主観的健康観】



(2) 現在治療中の病気

問3 Q2 あなたは現在治療中又は後遺症のある病気はありますか。〈あてはまるものすべてに○〉

【図 3-2 現在治療中の病気】



現在治療中または後遺症のある病気については、「高血圧」が11.5%で最も多く、次いで「高脂血症 (脂質異常)」が9.7%となっています。一方「ない」は45.8%となっています。

前回調査と比較すると、大きな差異はみられません。(図 3-2)

- 若年者調査の結果 -

年齢別でみると、「高血圧」「脳卒中（脳出血・脳梗塞等）」「目の病気」の割合は年齢が上がるほど高くなっています。一方、「ない」割合は年齢が上がるほど低くなっています。（表 3-2-1）

【表 3-2-1 年齢別 現在治療中の病気】

(単位：MA%)

	高血圧	脳卒中（脳出血・脳梗塞等）	心臓病	糖尿病	高脂血症（脂質異常）	呼吸器の病気（肺炎や気管支炎等）	胃腸・肝臓・胆のうの病気	腎臓・前立腺の病気	筋骨格の病気（骨粗しょう症・関節症等）	外傷（転倒・骨折等）	がん（悪性新生物）	血液・免疫の病気	うつ病	認知症（アルツハイマー病等）	パーキンソン病	目の病気	耳の病気	その他	ない	無回答
40～44歳 (n=100)	1.5	0.0	0.0	1.5	1.5	3.0	3.0	0.0	3.0	1.5	0.0	3.0	1.5	0.0	0.0	1.5	3.0	9.0	61.2	11.9
45～49歳 (n=116)	7.5	0.0	0.0	0.0	10.4	6.0	1.5	1.5	3.0	0.0	1.5	0.0	3.0	0.0	0.0	1.5	6.0	4.5	55.2	11.9
50～54歳 (n=102)	12.2	0.0	6.1	2.4	11.0	2.4	7.3	1.2	2.4	2.4	1.2	2.4	7.3	0.0	0.0	3.7	2.4	11.0	39.0	8.5
55～59歳 (n=88)	16.9	1.2	1.2	8.4	10.8	4.8	3.6	1.2	7.2	1.2	1.2	0.0	2.4	0.0	0.0	8.4	1.2	9.6	37.3	6.0
60歳以上 (n=79)	23.1	3.2	4.3	7.0	16.1	3.8	7.5	3.8	9.7	1.6	3.2	1.6	2.7	0.5	0.5	8.6	7.0	12.9	30.6	2.2

主観的健康観別でみると、“とても健康”である人と、“まあまあ健康”である人は「ない」が最も多くなっています。“あまり健康でない”人では「高血圧」が 22.5%で最も多くなっています。“健康でない”人では「筋骨格の病気（骨粗しょう症，関節症等）」が最も多くなっています。（表 3-2-2）

【表 3-2-2 主観的健康観別 現在治療中の病気】

(単位：MA%)

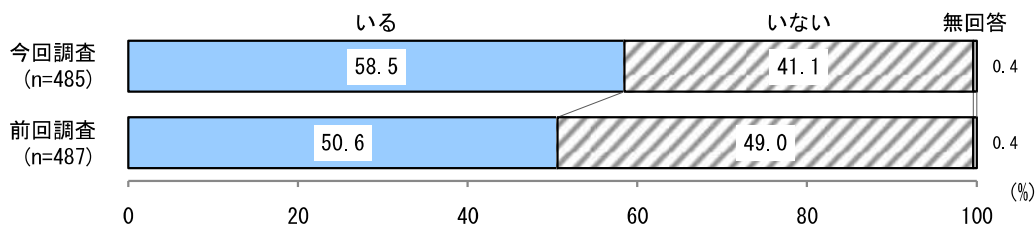
	高血圧	脳卒中（脳出血・脳梗塞等）	心臓病	糖尿病	高脂血症（脂質異常）	呼吸器の病気（肺炎や気管支炎等）	胃腸・肝臓・胆のうの病気	腎臓・前立腺の病気	筋骨格の病気（骨粗しょう症・関節症等）	外傷（転倒・骨折等）	がん（悪性新生物）	血液・免疫の病気	うつ病	認知症（アルツハイマー病等）	パーキンソン病	目の病気	耳の病気	その他	ない	無回答
とても健康 (n=47)	5.8	0.0	4.9	0.9	0.9	3.7	2.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.9	2.6	7.2	64.1	7.2
まあまあ健康 (n=358)	9.9	0.7	1.3	2.0	9.5	2.3	3.3	0.4	3.3	1.3	0.1	1.1	1.3	0.1	0.0	3.1	2.4	7.6	51.2	9.9
あまり健康でない (n=61)	22.5	1.4	5.5	11.4	13.8	8.7	7.5	5.9	6.6	2.4	4.8	1.4	14.1	0.0	0.0	12.8	6.5	21.7	14.0	4.2
健康でない (n=17)	22.1	2.5	0.0	2.5	24.9	25.3	22.4	12.7	41.4	0.0	19.0	11.3	20.9	0.0	2.5	10.2	27.7	0.0	0.0	0.0

(3) かかりつけ医等の有無

問3 Q3 あなたはふだんから健康について相談や指導を受けられる以下のような人はいますか。〈(1)から(3)までそれぞれ〇は1つつつ〉

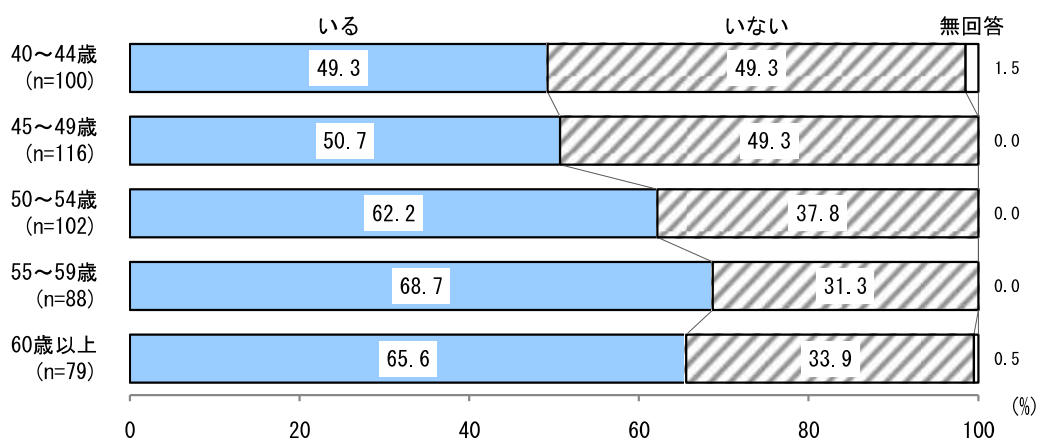
(1) かかりつけ医

【図 3-3-1 かかりつけ医の有無】



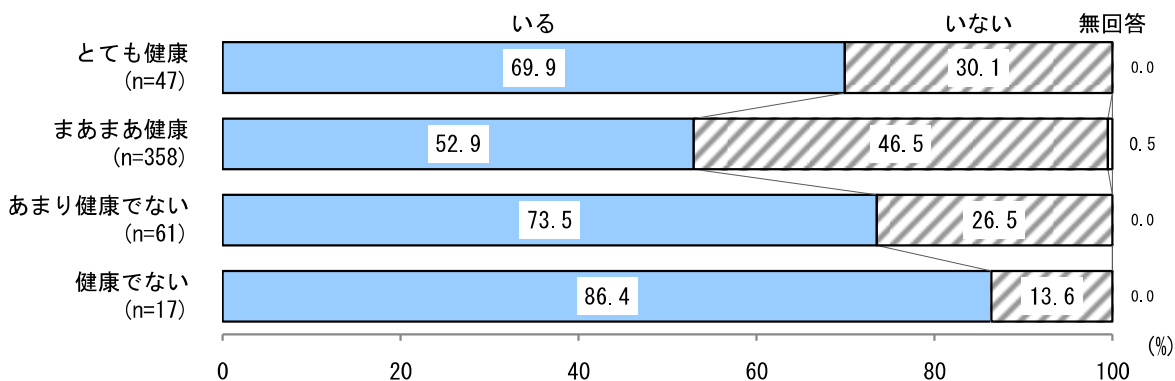
かかりつけ医の有無については、「いる」が58.5%、「いない」が41.1%となっています。前回調査と比較すると、「いる」割合が7.9ポイント高くなっています。(図 3-3-1) 年齢別でみると、「いる」割合は55～59歳で68.7%と最も高くなっています。(図 3-3-1-1)

【図 3-3-1-1 年齢別 かかりつけ医の有無】



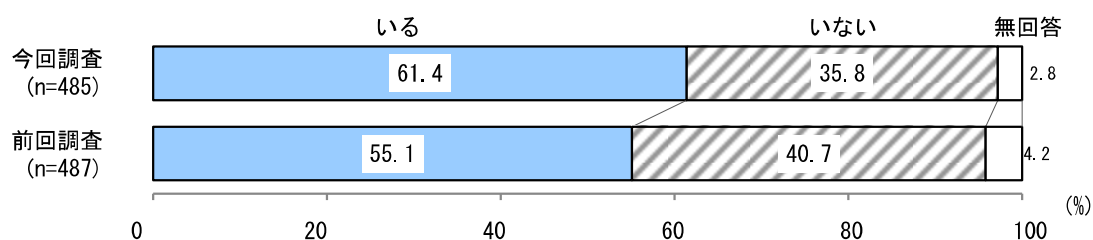
主観的健康観別でみると、「いる」割合は“まあまあ健康”である人で52.9%と最も低くなっています。(図 3-3-1-2)

【図 3-3-1-2 主観的健康観別 かかりつけ医の有無】



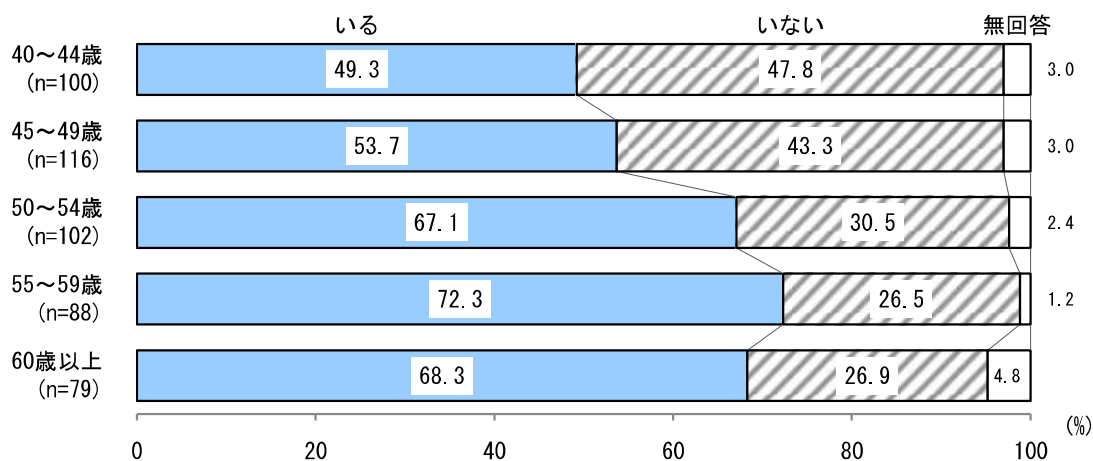
(2) かかりつけ歯科医

【図 3-3-2 かかりつけ歯科医の有無】



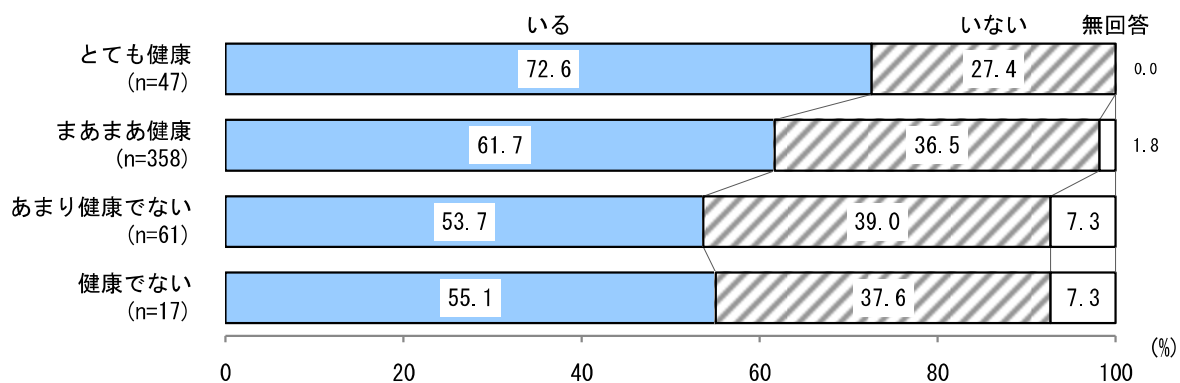
かかりつけ歯科医の有無については、「いる」が61.4%、「いない」が35.8%となっています。前回調査と比較すると、「いる」割合は6.3ポイント高くなっています。(図 3-3-2) 年齢別でみると、「いる」割合は55～59歳で72.3%と最も高くなっています。(図 3-3-2-1)

【図 3-3-2-1 年齢別 かかりつけ歯科医の有無】



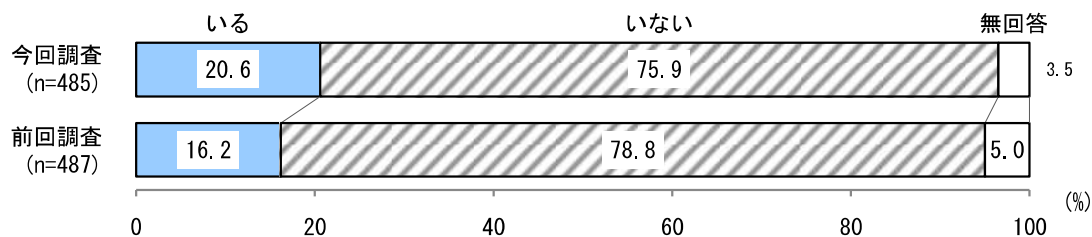
主観的健康観別でみると、「いる」割合は、健康でない人ほど低い傾向となっています。(図 3-2-2-2)

【図 3-3-2-2 主観的健康観別 かかりつけ歯科医の有無】



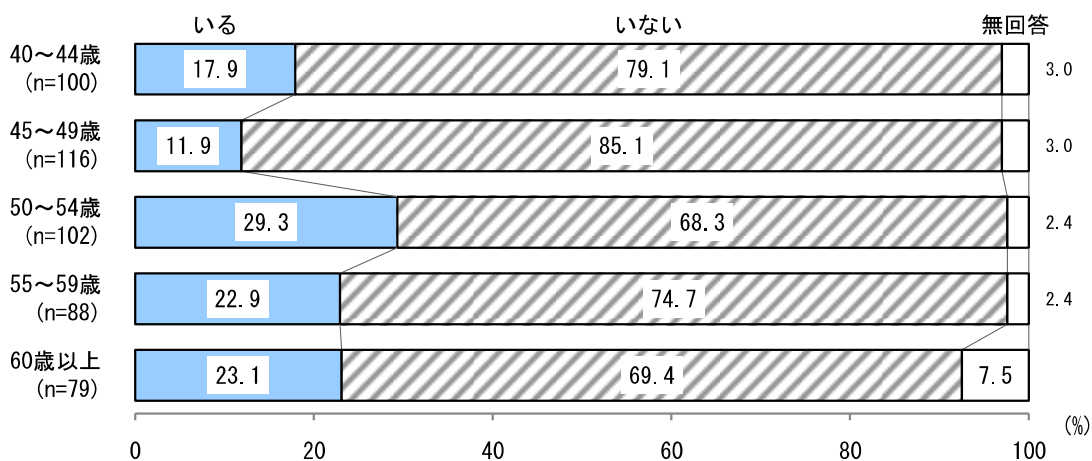
(3) かかりつけ薬剤師

【図 3-3-3 かかりつけ薬剤師の有無】



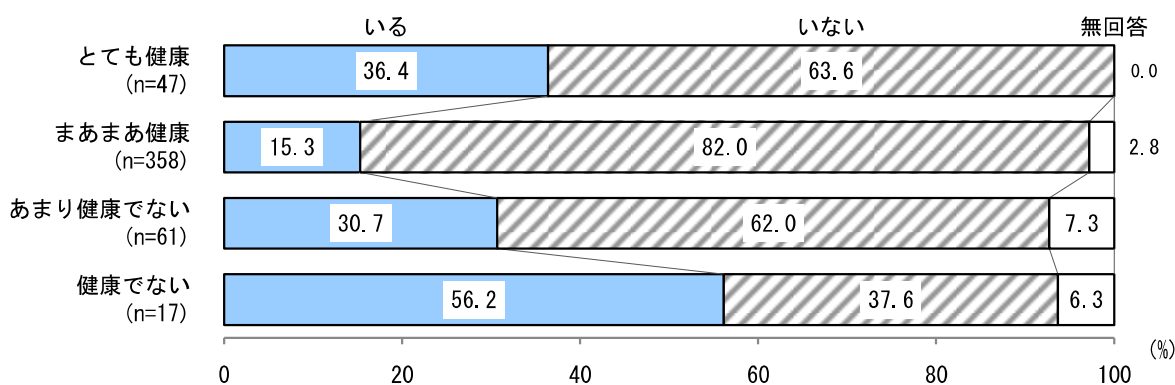
かかりつけ薬剤師の有無については、「いる」が20.6%、「いない」が75.9%となっています。前回調査と比較すると、「いる」割合は4.4ポイント高くなっています。(図 3-3-3) 年齢別でみると、「いる」は50～54歳で29.3%と最も高くなっています。(図 3-3-3-1)

【図 3-3-3-1 年齢別 かかりつけ薬剤師の有無】



主観的健康観別でみると、「健康でない」人の「いる」割合は56.2%で過半数を超えています。それ以外の健康観では4割以下となっています。(図 3-3-3-2)

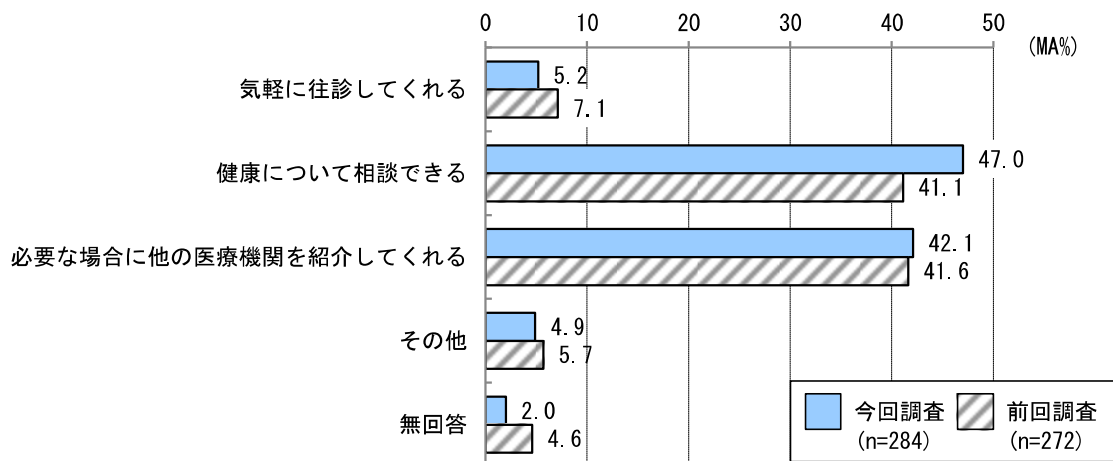
【図 3-3-3-2 主観的健康観 かかりつけ薬剤師の有無】



(4) かかりつけ医とのつながり

問3 Q3-1 Q3 (1) でかかりつけ医が「1. いる」と回答した方にお聞きます。
かかりつけ医はどのような方ですか。〈〇は1つ〉

【図 3-4 かかりつけ医とのつながり】



※複数の回答があったためすべて有効とした。

かかりつけ医がいると回答した人に、かかりつけ医とのつながりについてたずねたところ、「健康について相談できる」が47.0%で最も多く、次いで「必要な場合に他の医療機関を紹介してくれる」が42.1%となっています。

前回調査と比較すると、「健康について相談できる」割合は5.9ポイント高くなっています。(図 3-4)

主観的健康観別でみると、“まあまあ健康”な人では「必要な場合に他の医療機関を紹介してくれる」が47.7%で最も多く、それ以外の健康観では「健康について相談できる」が最も多くなっています。(表 3-4-1)

【表 3-4-1 主観的健康観別 かかりつけ医とのつながり】

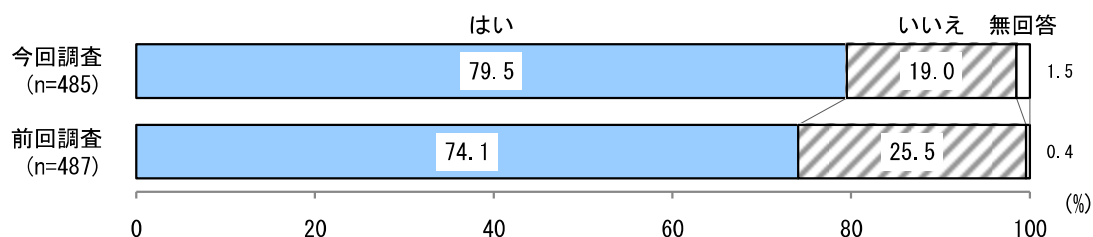
(単位: MA%)

	気軽に往診してくれる	健康について相談できる	必要な場合に他の医療機関を紹介してくれる	その他	無回答
とても健康 (n=33)	5.8	53.3	29.3	10.3	1.3
まあまあ健康 (n=189)	4.6	42.5	47.7	4.7	2.1
あまり健康でない (n=45)	4.3	62.0	31.0	3.7	0.0
健康でない (n=15)	14.5	41.8	35.1	0.0	8.5

(5) 定期健診の受診有無

問3 Q4 あなたは定期的に健康診断を受診していますか。〈〇は1つ〉

【図 3-5 定期健診の受診有無】

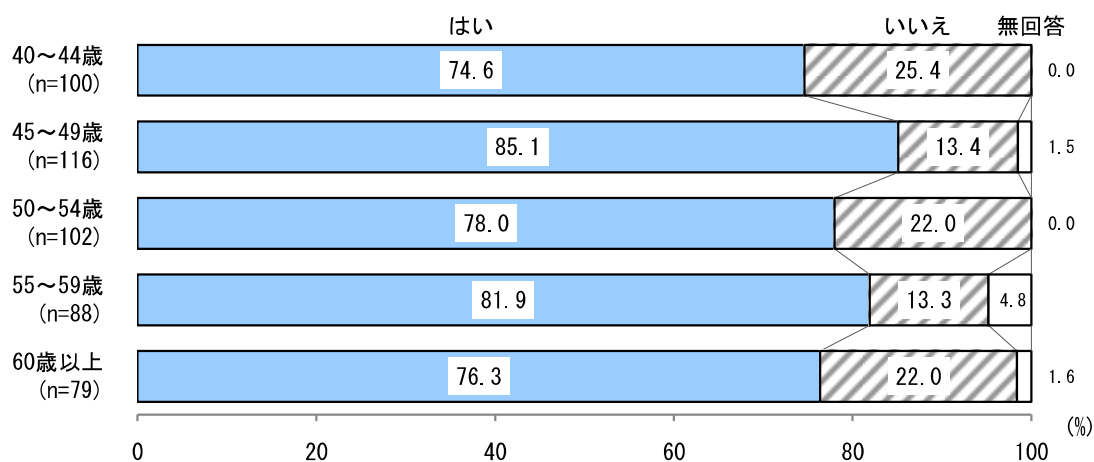


定期健診の受診の有無については、「はい (受診している)」が 79.5%、「いいえ (受診していない)」が 19.0%となっています。

前回調査と比較すると、「はい」の割合が 5.4 ポイント高くなっています。(図 3-5)

年齢別でみると、「はい」の割合は 45～49 歳で 85.1%と最も高くなっています。(図 3-5-1)

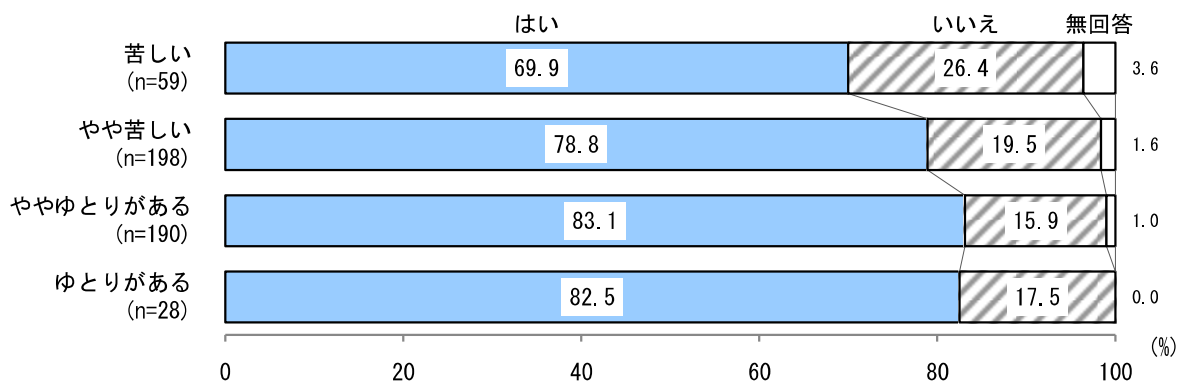
【図 3-5-1 年齢別 定期健診の受診有無】



主観的経済状況別でみると、「はい」の割合は概ねゆとりがあるほど高い傾向となっています。

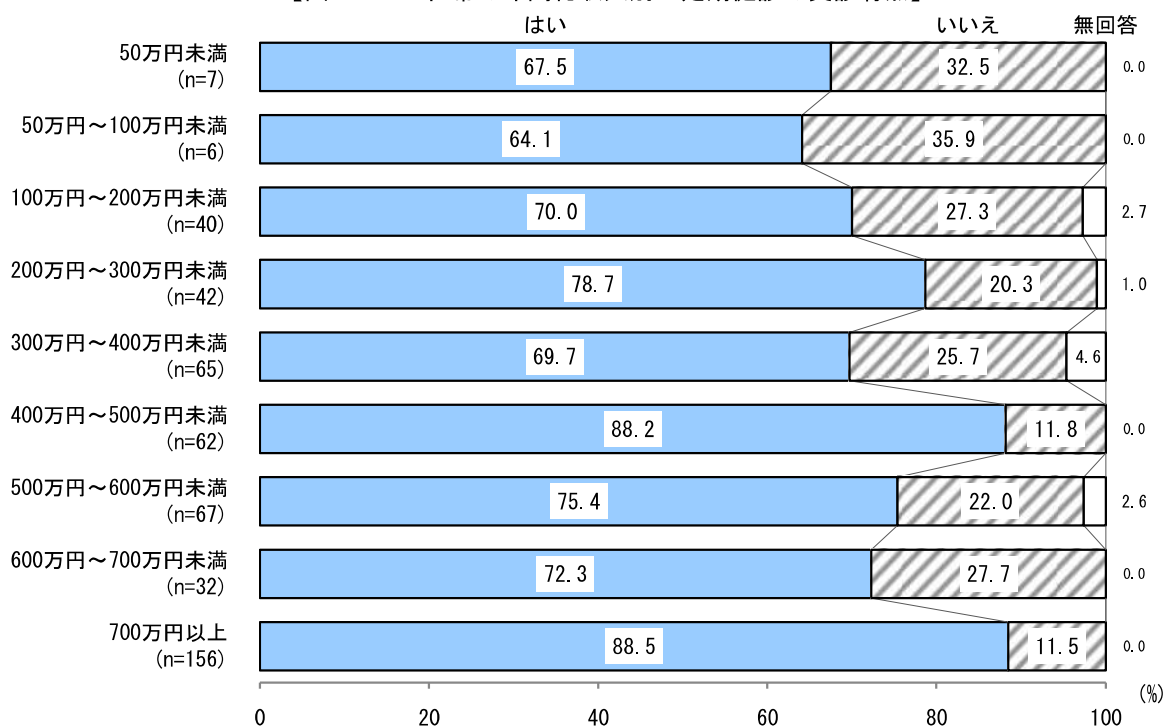
(図 3-5-2)

【図 3-5-2 主観的経済状況別 定期健診の受診有無】



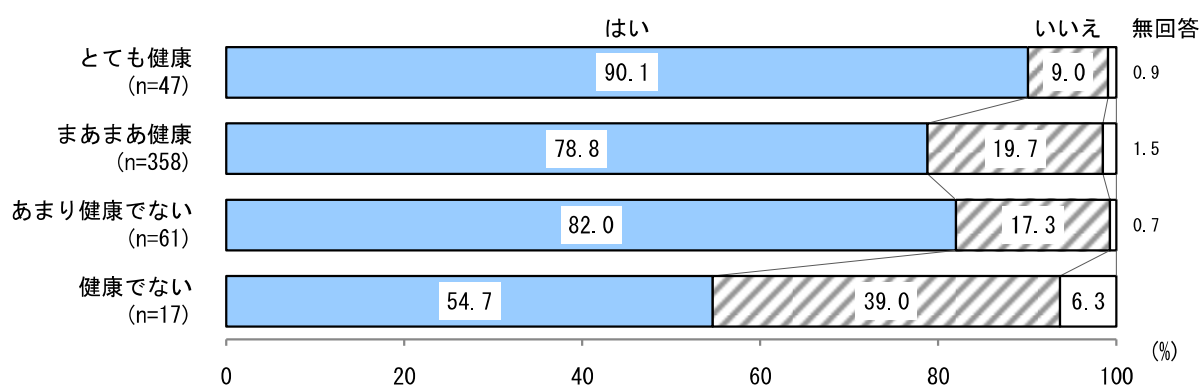
世帯の年間総収入別でみると、「はい」の割合は“700万円以上”で88.5%と最も高くなっています。(図3-5-3)

【図3-5-3 世帯の年間総収入別 定期健診の受診有無】



主観的健康観別でみると、概ね健康である人ほど「はい」の割合が高い傾向となっており、“とても健康”な人の「はい」は90.1%と高い割合になっています。(図3-5-4)

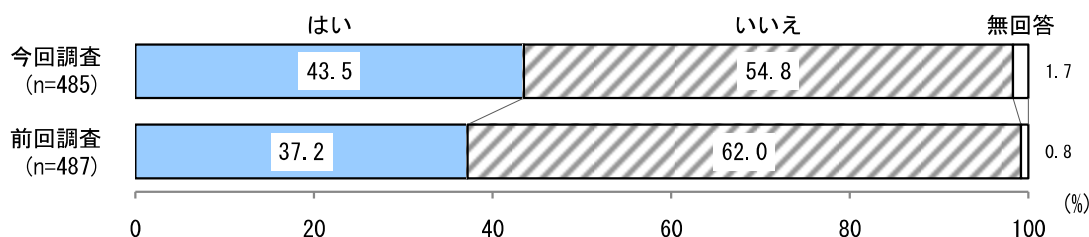
【図3-5-4 主観的健康観別 定期健診の受診有無】



(6) 定期的な歯科受診の有無

問3Q5 あなたは定期的に歯科受診（健診を含む）をしていますか。〈〇は1つ〉

【図3-6 定期的な歯科受診の有無】

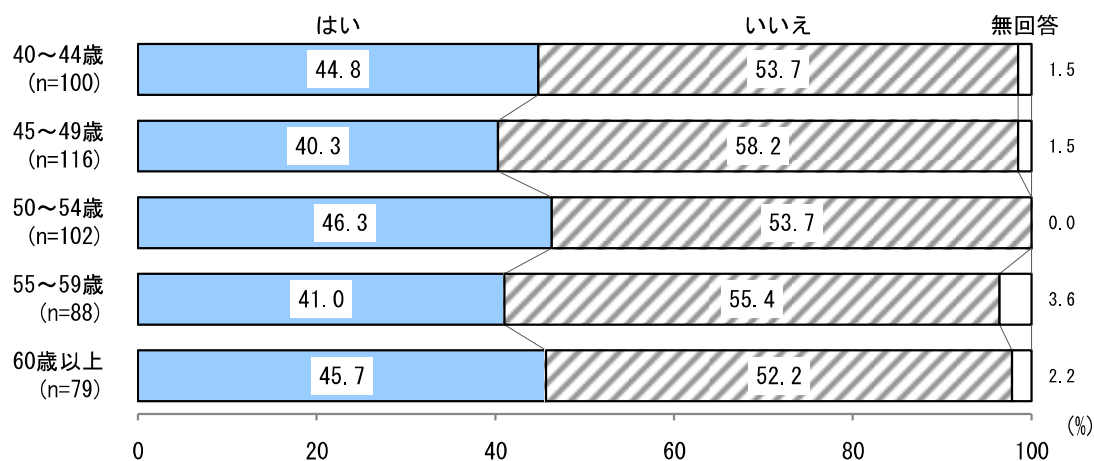


定期的な歯科受診の有無については、「はい（受診している）」が 43.5%、「いいえ（受診していない）」が 54.8%となっています。

前回調査と比較すると、「はい」の割合は 6.3 ポイント高くなっています。（図 3-6）

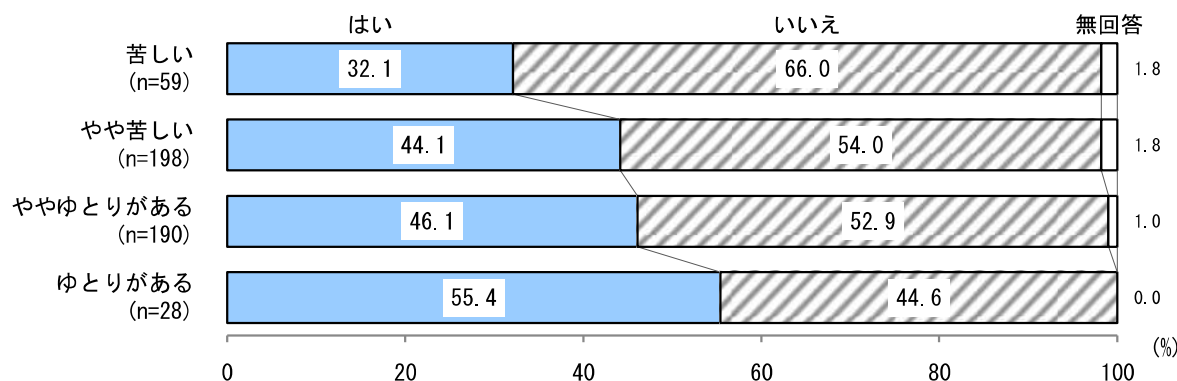
年齢別でみると、「はい」の割合は 50～54 歳が 46.3%で最も高くなっています。（図 3-6-1）

【図3-6-1 年齢別 定期的な歯科受診の有無】



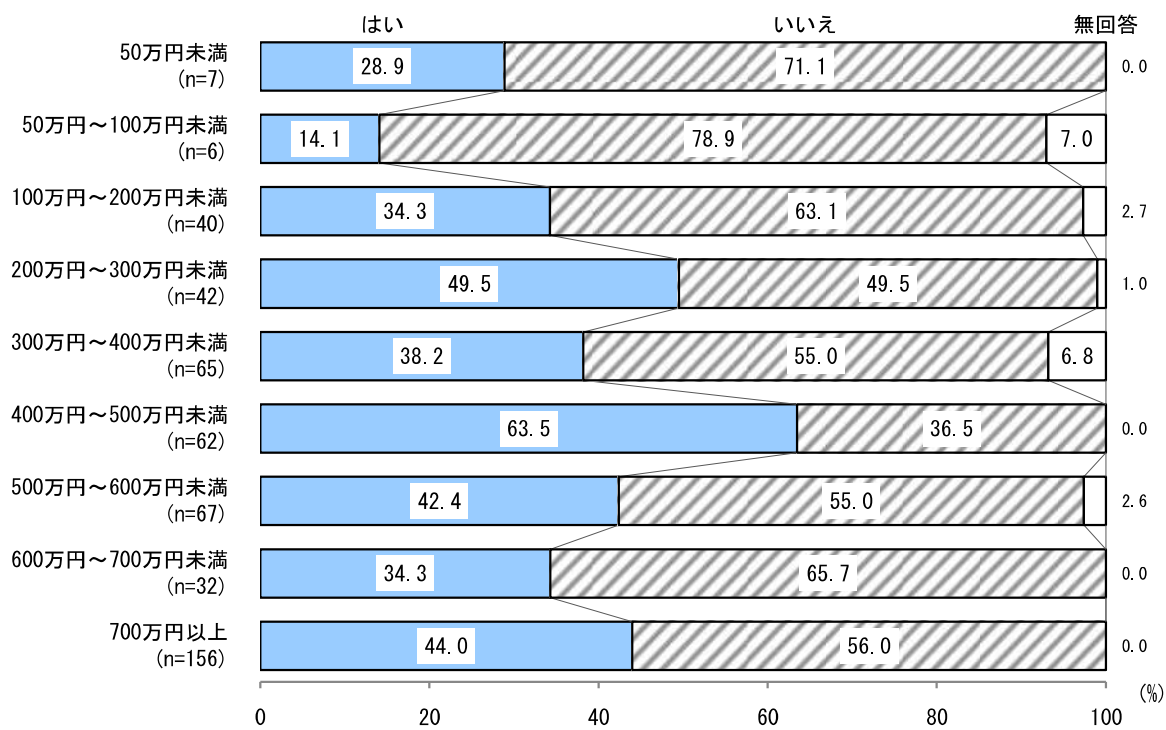
主観的経済状況別でみると、「はい」の割合はゆとりがあるほど高い傾向となっています。（図 3-6-2）

【図3-6-2 主観的経済状況別 定期的な歯科受診の有無】



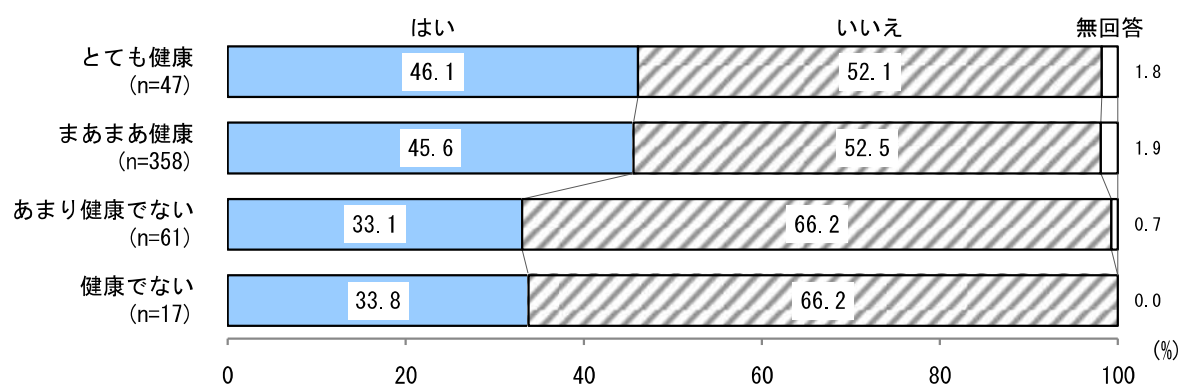
世帯の年間総収入別でみると、「はい」の割合は“400万円～500万円未満”で63.5%と最も高くなっています。(図3-6-3)

【図3-6-3 主観的経済状況別 定期的な歯科受診の有無】



主観的健康観別でみると、「はい」の割合は概ね健康な人ほど高い傾向となっており、“とても健康”な人で46.1%と最も高くなっています。(図3-6-4)

【図3-6-4 主観的健康観別 定期的な歯科受診の有無】

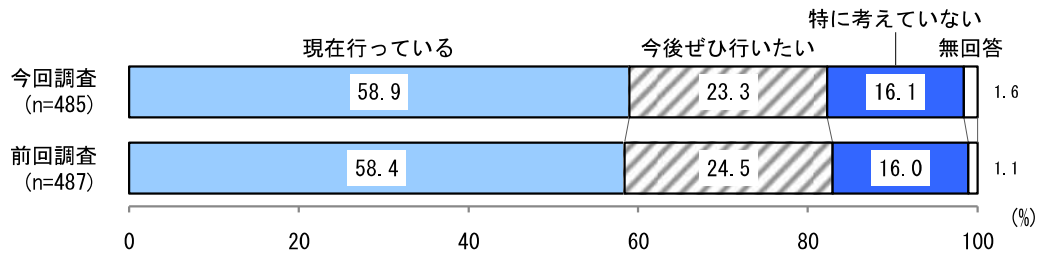


(7) 病気の予防や健康づくりのための取組状況

問3Q6 あなたは以下のような病気の予防や健康づくりのための取組を現在行っていますか。
また行っていない場合は、今後どのように考えていますか。
<(1)から(5)までそれぞれ〇は1つずつ>

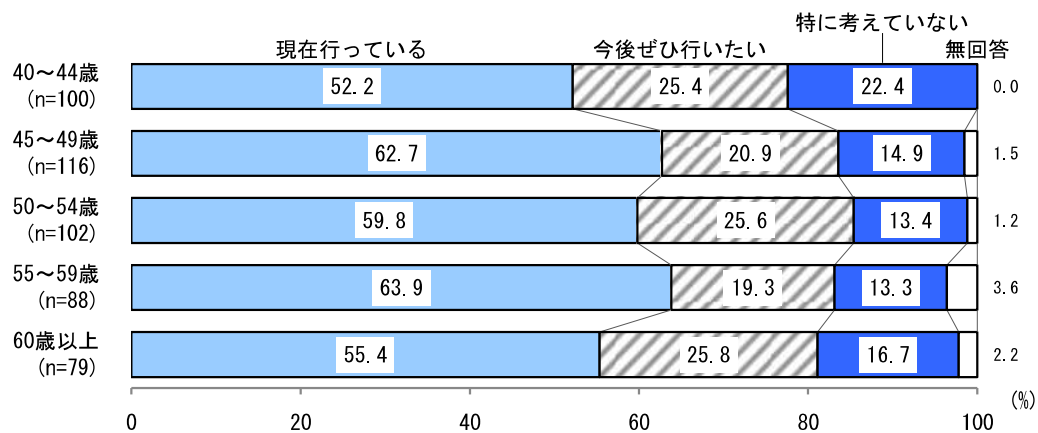
(1) 早寝・早起きなど規則正しい生活を送る

【図 3-7-1 規則正しい生活を送る】



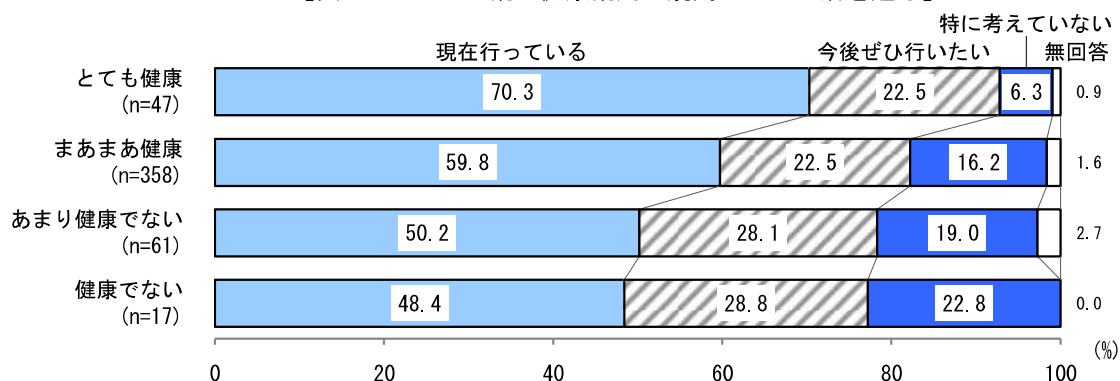
早寝・早起きなど規則正しい生活を送っているかについては、「現在行っている」が58.9%、「今後ぜひ行いたい」が23.3%、「特に考えていない」が16.1%となっています。前回調査と比較すると、大きな差異はみられません。(図 3-7-1)
年齢別でみると、「現在行っている」の割合は55～59歳で63.9%と最も高くなっています。(図 3-7-1-1)

【図 3-7-1-1 年齢別 規則正しい生活を送る】



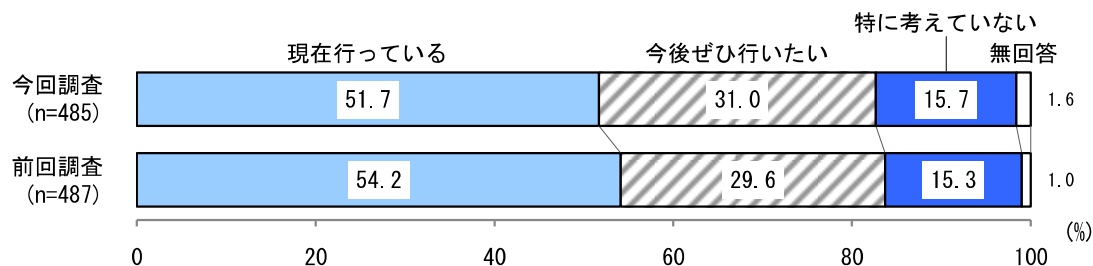
主観的健康観別でみると、「現在行っている」割合は、健康である人ほど高くなっています。(図 3-7-1-2)

【図 3-7-1-2 主観的健康観別 規則正しい生活を送る】



(2) ふだんの生活の中で、意識的に歩いたり運動などをする

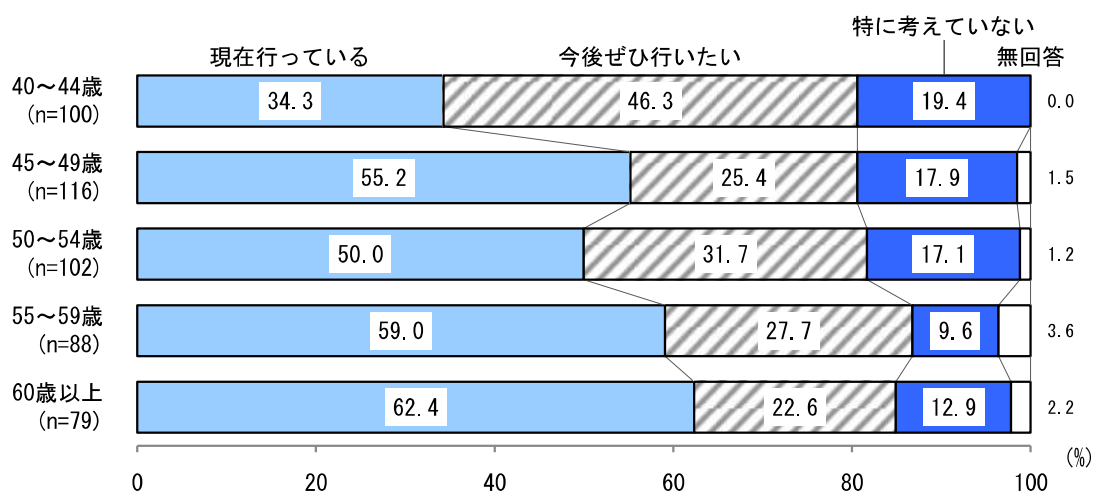
【図 3-7-2 意識的に歩いたり運動などをする】



ふだんの生活の中で、意識的に歩いたり運動などを行っているかについては、「現在行っている」が 51.7%、「今後ぜひ行いたい」が 31.0%、「特に考えていない」が 15.7%となっています。

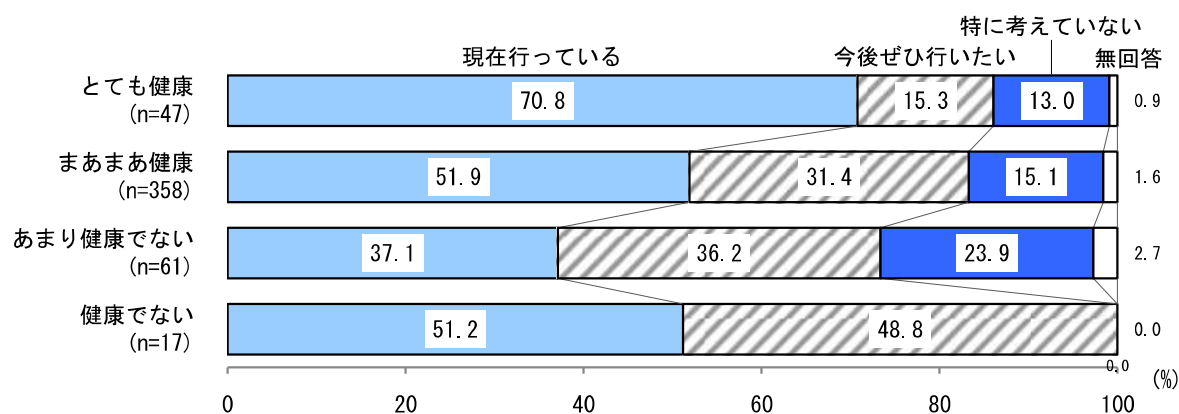
前回調査と比較すると、「現在行っている」割合は 2.5 ポイント低くなっています。(図 3-7-2) 年齢別でみると、「現在行っている」割合は概ね年齢が上がるほど高くなっています。(図 3-7-2-1)

【図 3-7-2-1 年齢別 意識的に歩いたり運動などをする】



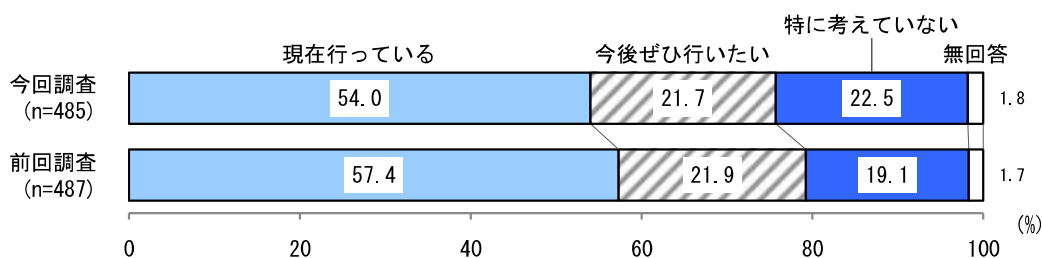
主観的健康観別でみると、「現在行っている」割合は“とても健康”な人で 70.8%と最も高くなっています。(3-7-2-2)

【図 3-7-2-2 主観的健康観別 意識的に歩いたり運動などをする】



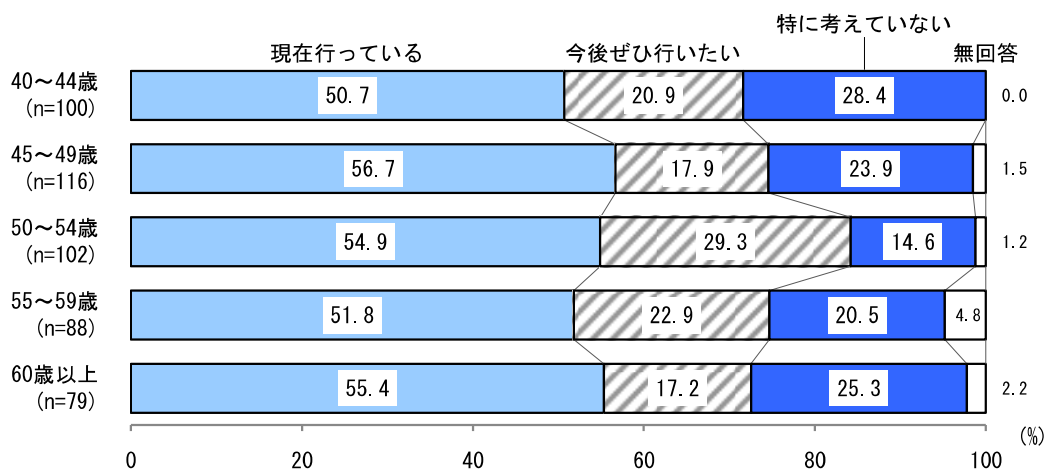
(3) ふだんから頭をよく使うようにしている

【図 3-7-3 ふだんから頭をよく使うようにしている】



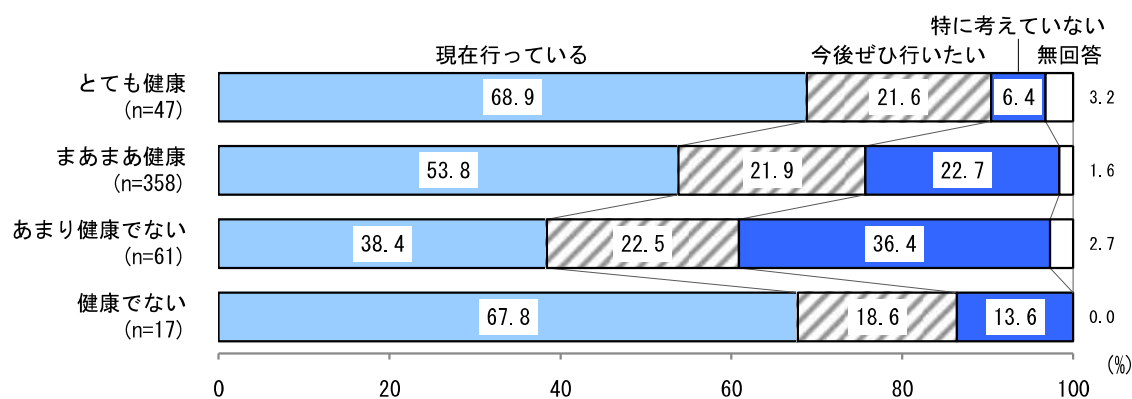
読み書きや計算などふだんから頭をよく使うようにしているかについては、「現在行っている」が54.0%、「今後ぜひ行いたい」が21.7%、「特に考えていない」が22.5%となっています。前回調査と比較すると、「現在行っている」割合は3.4ポイント低くなっています。(図 3-7-3) 年齢別でみると、「現在行っている」はどの年齢も5割台で、45～49歳で56.7%と最も高い割合となっています。(図 3-7-3-1)

【図 3-7-3-1 年齢別 ふだんから頭をよく使うようにしている】



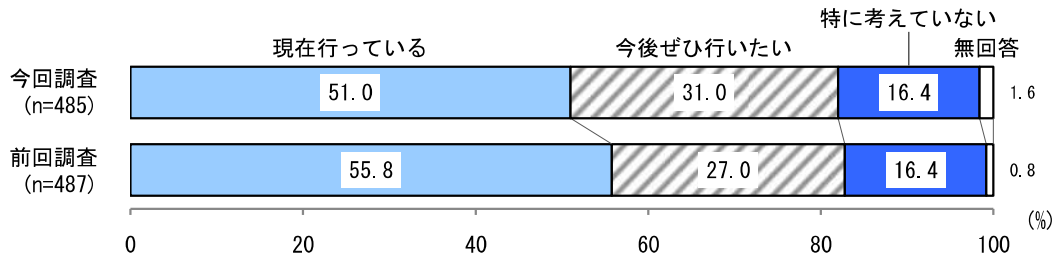
主観的健康観別でみると、「現在行っている」割合は、“とても健康”な人で68.9%と最も高くなっています。(図 3-7-3-2)

【図 3-7-3-2 主観的健康観別 ふだんから頭をよく使うようにしている】



(4) 栄養バランスを考えた食事をする

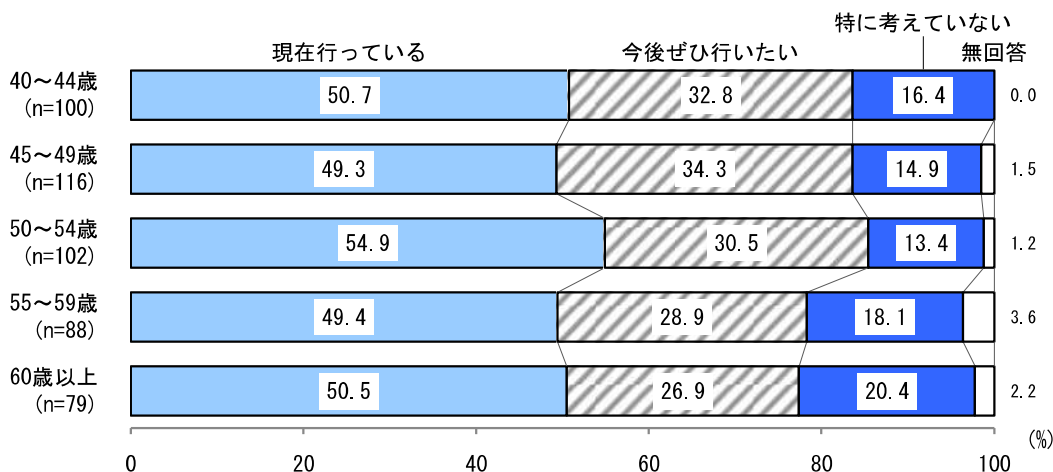
【図 3-7-4 栄養バランスを考えた食事をする】



栄養バランスを考えた食事をするようにしているかについては、「現在行っている」が 51.0%、「今後ぜひ行いたい」が 31.0%、「特に考えていない」が 16.4%となっています。

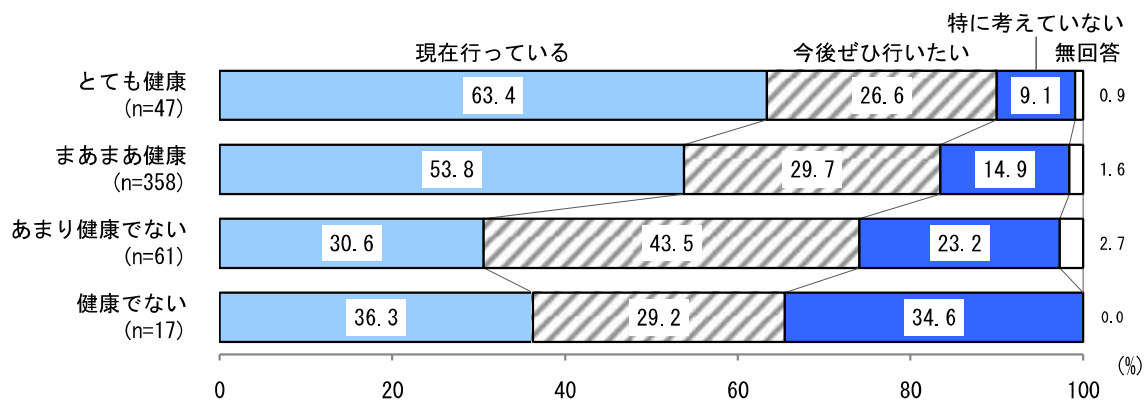
前回調査と比較すると、「現在行っている」割合は 4.8 ポイント低くなっています。(図 3-7-4) 年齢別でみると、どの年齢も「現在行っている」は 5 割前後で、50～54 歳で 54.9%と最も高い割合となっています。(図 3-7-4-1)

【図 3-7-4-1 年齢別 栄養バランスを考えた食事をする】



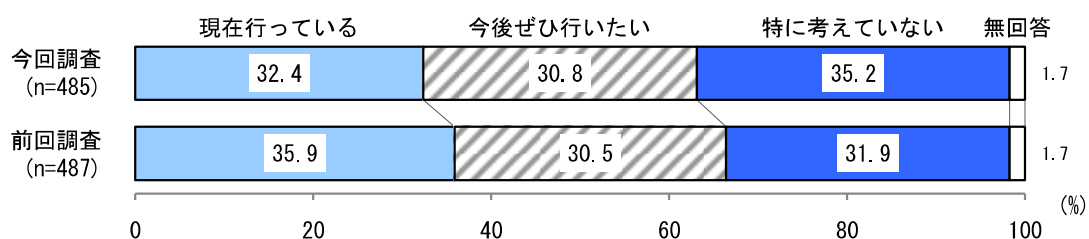
主観的健康観別でみると、「現在行っている」割合は“とても健康”と“まあまあ健康”な人では 5 割を超え、概ね健康である人ほど高い傾向となっています。(図 3-7-4-2)

【図 3-7-4-2 主観的健康観別 栄養バランスを考えた食事をする】



(5) 健康に関する情報を集める

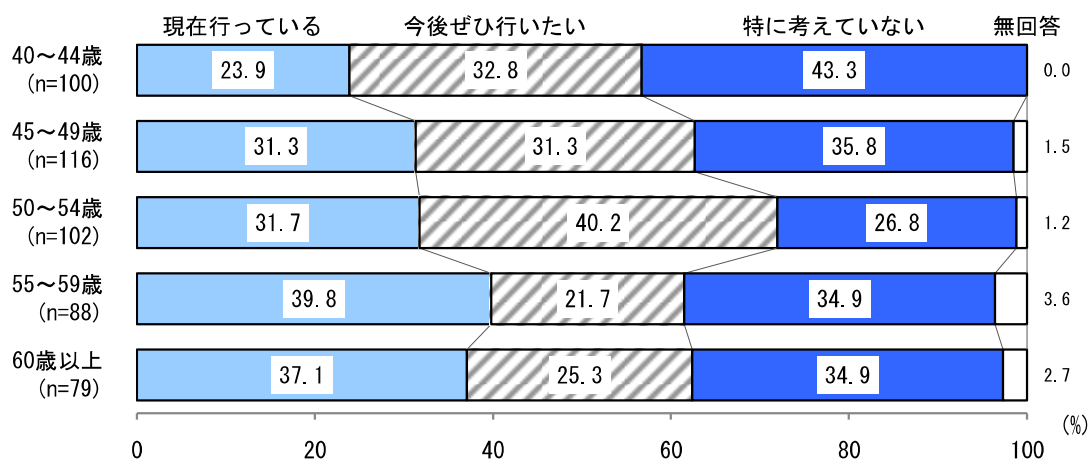
【図 3-7-5 健康に関する情報を集める】



健康に関する情報を集めているかについては、「現在行っている」が32.4%、「今後ぜひ行いたい」が30.8%、「特に考えていない」が35.2%となっています。

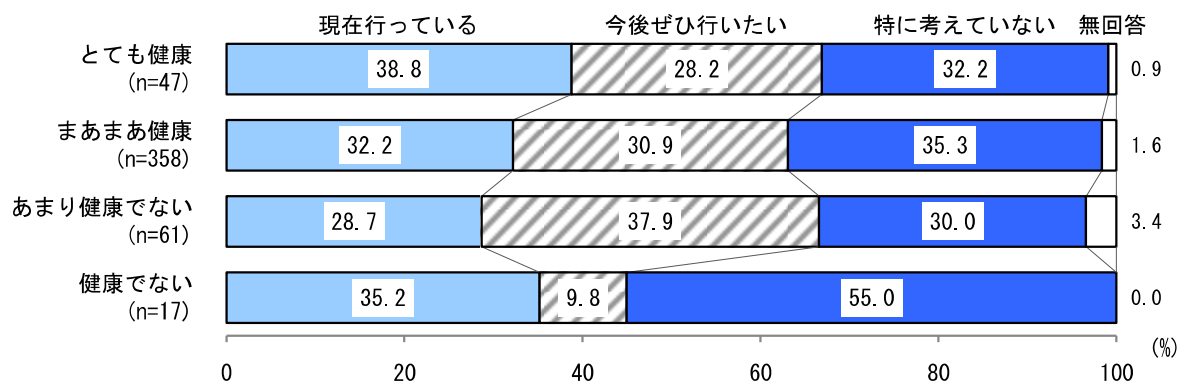
前回調査と比較すると、「現在行っている」割合は3.5ポイント低くなっています。(図 3-7-5) 年齢別でみると、「現在行っている」割合は概ね年齢が上がるほど高い傾向となっています。(図 3-7-5-1)

【図 3-7-5-1 年齢別 健康に関する情報を集める】



主観的健康観別でみると、「特に考えていない」割合は“健康でない”人で55.0%と最も高くなっています。(図 3-7-5-2)

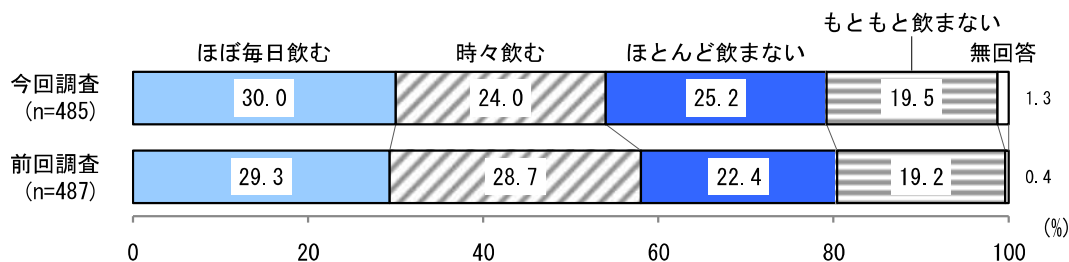
【図 3-7-5-2 主観的健康別 健康に関する情報を集める】



(8) 飲酒習慣

問3 Q7 あなたはお酒を飲みますか。〈○は1つ〉

【図 3-8 飲酒習慣】

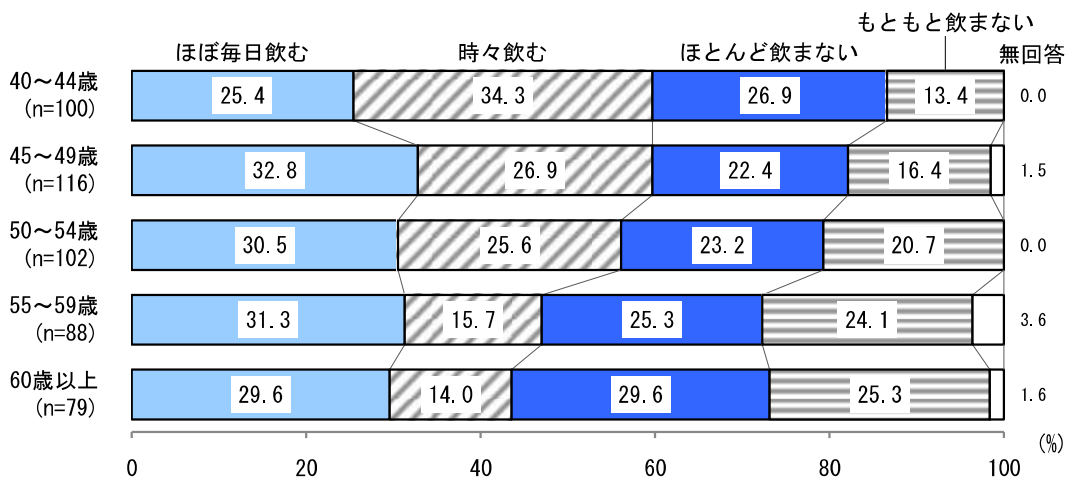


飲酒習慣については、「ほぼ毎日飲む」が 30.0%で最も多く、次いで「ほとんど飲まない」が 25.2%となっています。

前回調査と比較すると、大きな差異はみられません。(図 3-8)

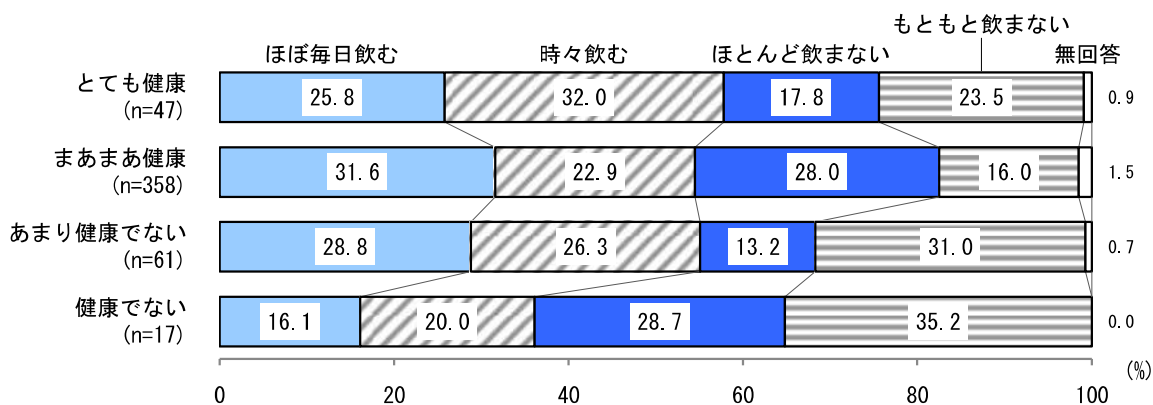
年齢別でみると、「ほぼ毎日飲む」と「時々飲む」を合わせた『飲む』割合は、年齢が上がるほど低くなっています。(図 3-8-1)

【図 3-8-1 年齢別 飲酒習慣】



主観的健康観別でみると、『飲む』割合は概ね健康である人ほど高い傾向となっています。(図 3-8-2)

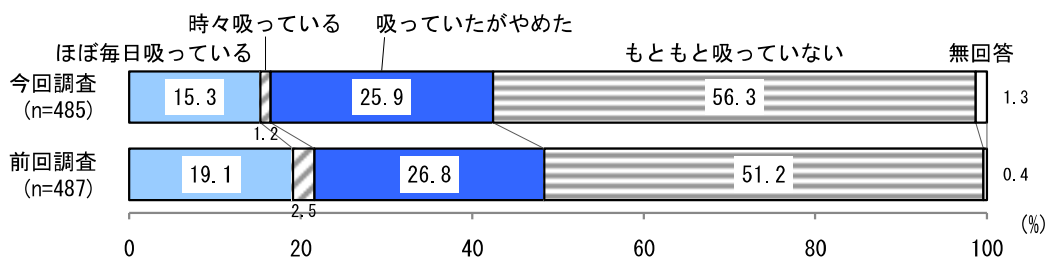
【図 3-8-2 主観的健康観別 飲酒習慣】



(9) 喫煙習慣

問3Q8 あなたはタバコを吸っていますか。〈〇は1つ〉

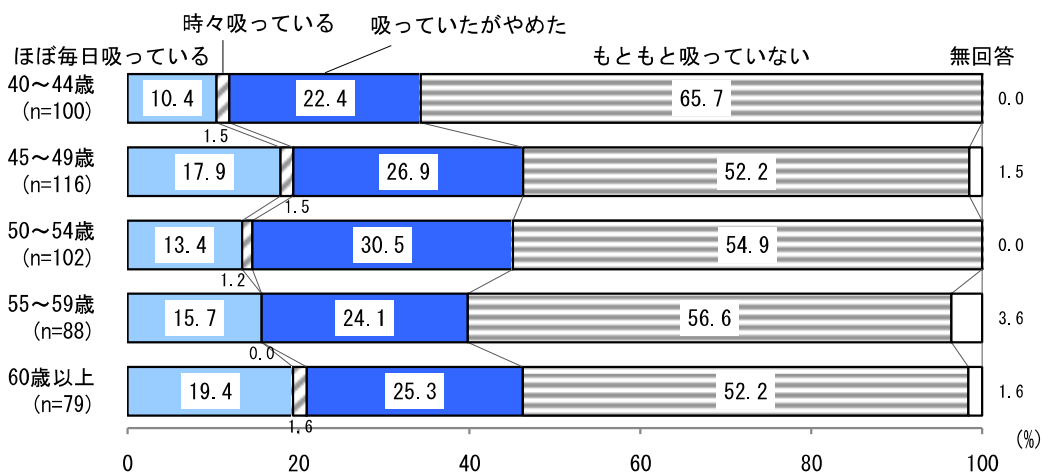
【図 3-9 喫煙習慣】



喫煙習慣については、「もともと吸っていない」が 56.3%で最も多く、次いで「吸っていたがやめた」が 25.9%となっています。

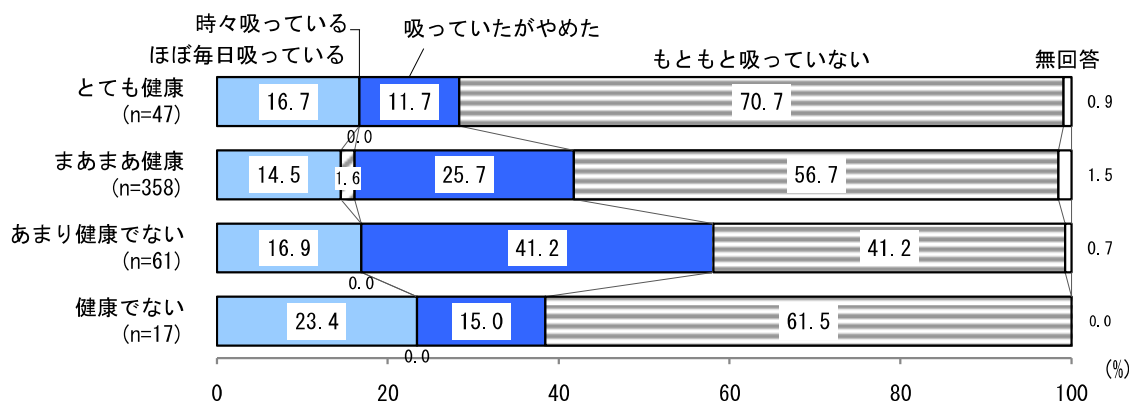
前回調査と比較すると、「ほぼ毎日吸っている」割合は 3.8 ポイント低くなっています。(図 3-9) 年齢別でみると、「ほぼ毎日吸っている」と「時々吸っている」を合わせた『吸っている』割合は、60 歳以上で 21.0%と最も高くなっています。(図 3-9-1)

【図 3-9-1 年齢別 喫煙習慣】



主観的健康観別でみると、「ほぼ毎日吸っている」割合は“健康でない”人で 23.4%と最も高くなっています。(図 3-9-2)

【図 3-9-2 主観的健康観別 喫煙習慣】



(10) うつリスク

① 設問と評価

基本チェックリストでは、今回の調査票に含まれる以下の設問5問中2問以上に該当した場合にうつの「リスクあり」に該当します。

表 うつに関する設問

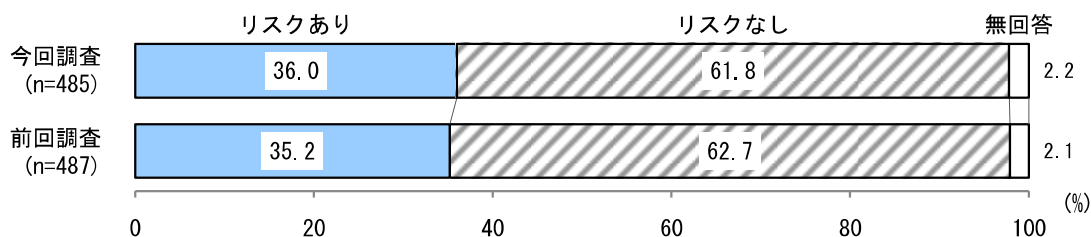
問番号	設問	該当する選択肢
問3Q9(1)	毎日の生活に充実感がない	「はい」
問3Q9(2)	これまで楽しんでやれていたことが楽しめなくなった	「はい」
問3Q9(3)	以前は楽にできていたことが、今ではおっくうに感じられる	「はい」
問3Q9(4)	自分が役に立つ人間だと思えない	「はい」
問3Q9(5)	わけもなく疲れたような感じがする	「はい」

② 評価結果

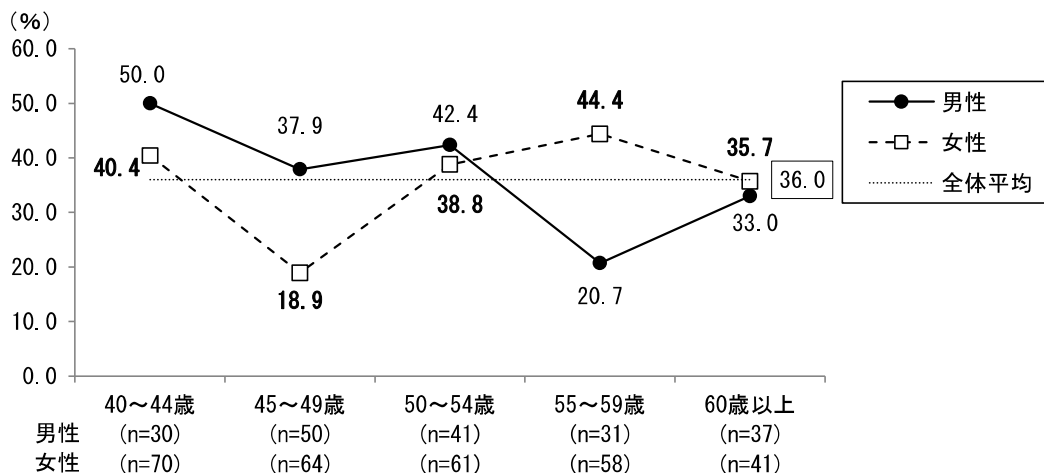
評価結果をみると、今回調査ではうつの「リスクあり」に該当する人の割合は36.0%となっています。前回調査と比較すると「リスクあり」は0.8ポイント高くなっています。(図3-10)

性・年齢別でみると、「リスクあり」に該当する割合は40～54歳では女性より男性のほうが高くなっています。男性では40～44歳が最も高く、女性では55～59歳が最も高い割合となっています。(図3-10-1)

【図 3-10 うつリスク】



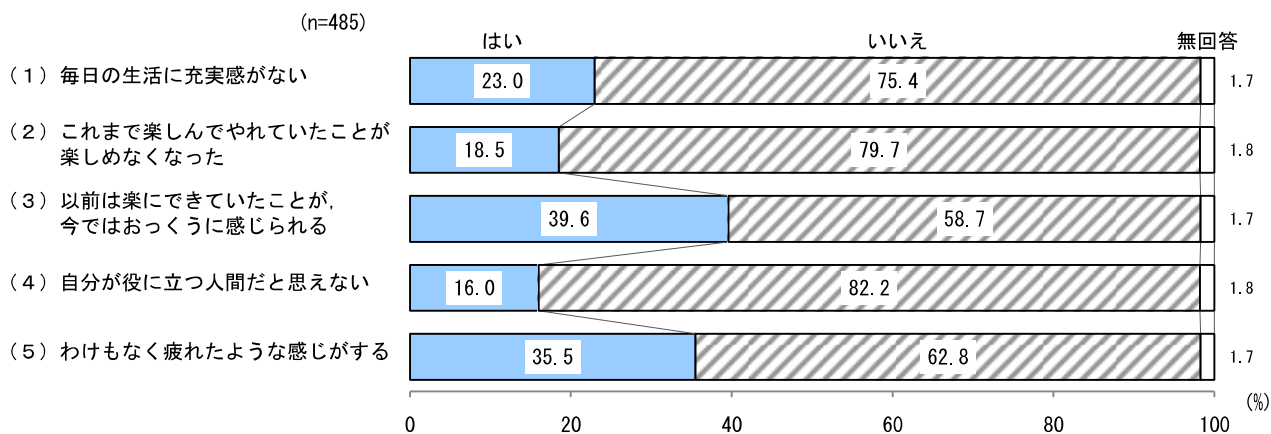
【図 3-10-1 性・年齢別 うつリスク】



③ うつリスク判定に係る項目の回答状況

問3Q9 あなたのここ2週間の心身の状況についておうかがいします。
 <(1)から(5)までそれぞれ〇は1つつつ>

【図3-10-2 ここ2週間の心身の状況】



ここ2週間の心身の状況について、“(3) 以前は楽にできていたことが、今ではおっくうに感じられる”と“(5) わけもなく疲れたような感じがする”は「はい」が3割台となっています。(図3-10-2)

4 日常生活等について

(1) 認知機能低下リスク

① 設問と評価

基本チェックリストでは、今回の調査票に含まれる以下の設問3問中1問以上に該当した場合に認知機能低下の「リスクあり」に該当します。

表 うつに関する設問

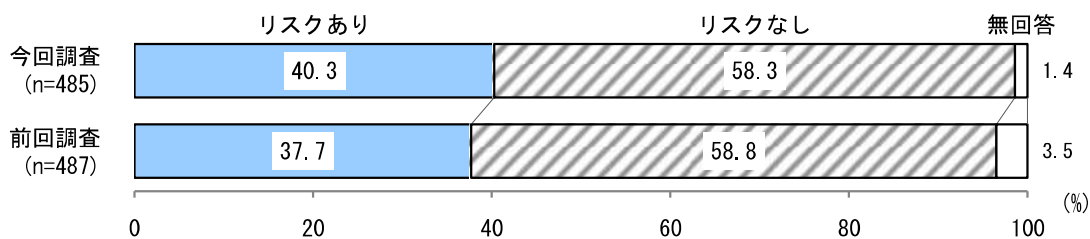
問番号	設問	該当する選択肢
問4 Q 1	あなたは周りの人から「いつも同じ事を聞く」などの物忘れがあると 言われますか	「はい」
問4 Q 2	あなたは自分で電話番号を調べて電話をかけることをしていますか	「いいえ」
問4 Q 3	あなたは今日が何月何日かわからない時がありますか	「はい」

② 評価結果

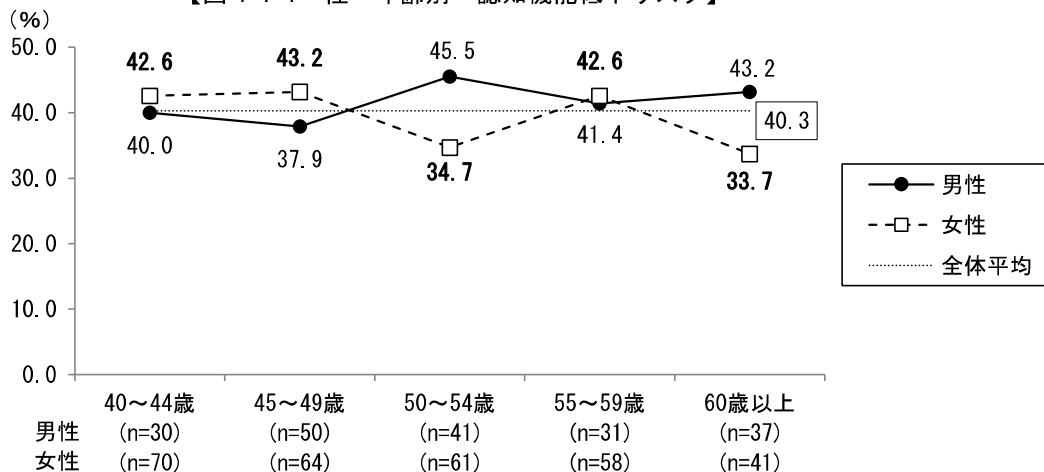
評価結果をみると、今回調査では認知機能低下の「リスクあり」に該当する人の割合は40.3%となっています。前回調査と比較すると「リスクあり」は2.6ポイント高くなっています。(図4-1)

性・年齢別でみると、「リスクあり」に該当する割合は、男性では50～54歳が45.5%で最も高く、女性では45～49歳が43.2%で最も高い割合となっています。(図4-1-1)

【図 4-1 認知機能低下リスク】



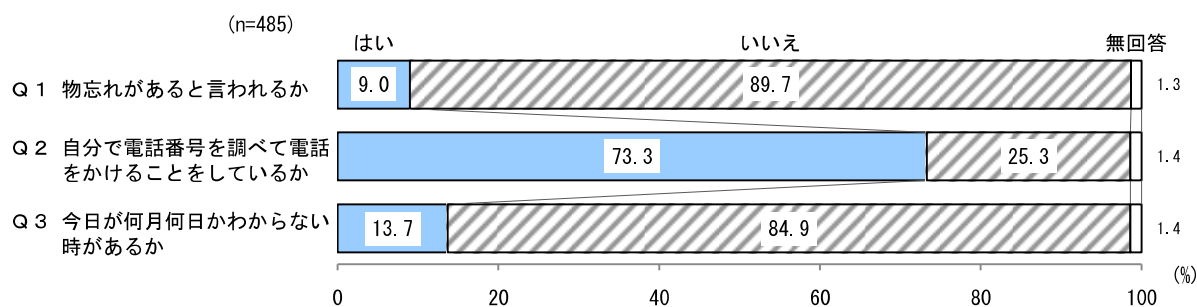
【図 4-1-1 性・年齢別 認知機能低下リスク】



③ 認知機能低下リスク判定に関する項目の回答状況

- 問4 Q1 あなたは周りの人から「いつも同じ事を聞く」などの物忘れがあるとされますか。
 問4 Q2 あなたは自分で電話番号を調べて電話をかけることをしていますか。
 問4 Q3 あなたは今日が何月何日かわからない時がありますか。

【図 4-1-2 物忘れ等について】

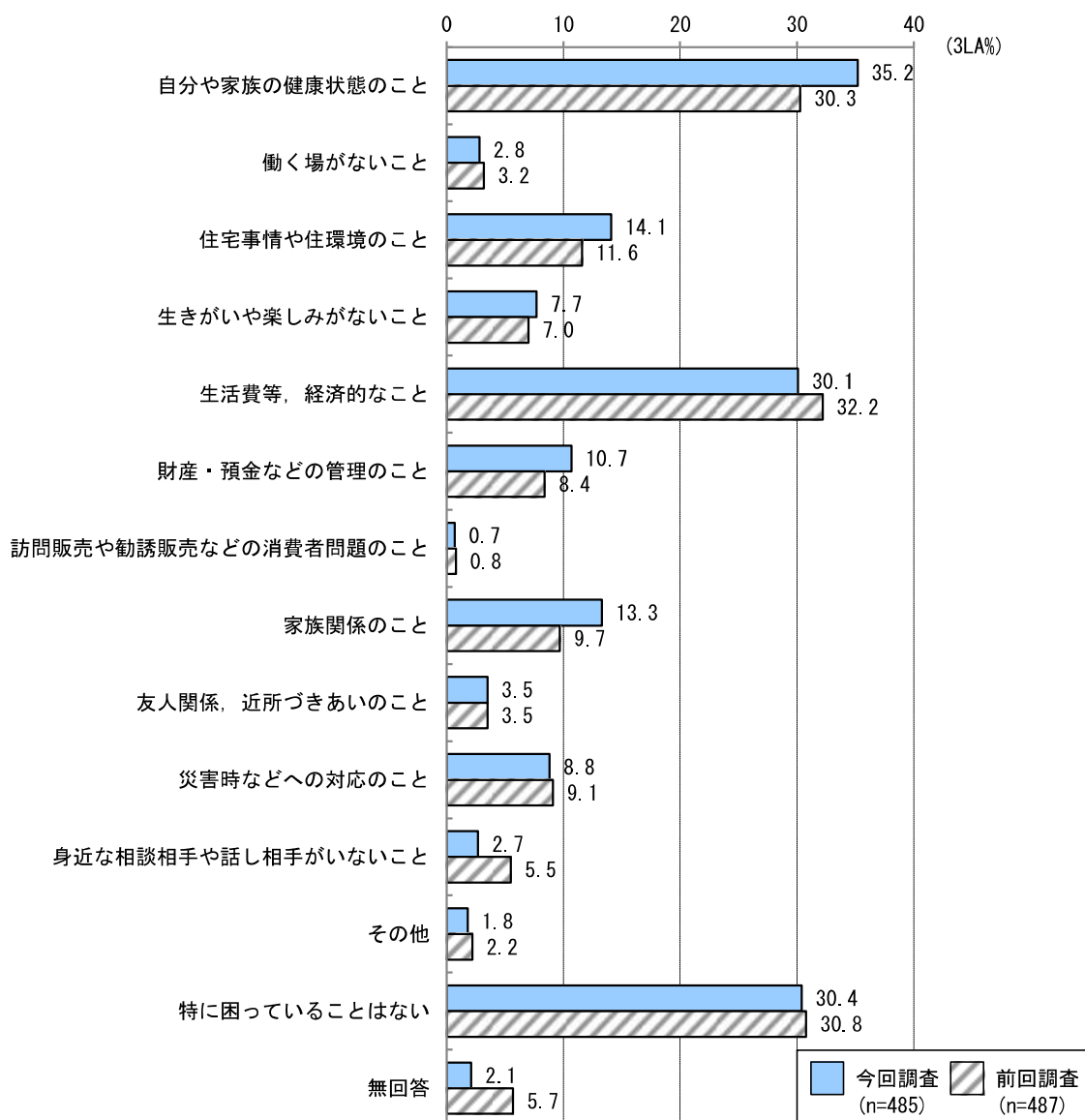


“Q1 物忘れがあるとされるか”と“Q3 今日が何月何日かわからない時があるか”は、「いいえ」が8割台となっています。“Q2 自分で電話番号を調べて電話をかけることをしているか”は「はい」が73.3%、「いいえ」が25.3%となっています。(図 4-1-2)

(2) 今の生活で困っていること

問4Q4 あなたは今の生活で何か困っていることがありますか。〈〇は3つまで〉

【図4-2 今の生活で困っていること】



今の生活で困っていることについては、「自分や家族の健康状態のこと」が 35.2%と最も多く、次いで「生活費等, 経済的なこと」が 30.1%となっています。一方「特に困っていることはない」は 30.4%となっています。

前回調査と比較すると、「自分や家族の健康状態のこと」の割合は 4.9 ポイント高くなっています。(図4-2)

- 若年者調査の結果 -

年齢別で見ると、40～49歳では「生活費等、経済的なこと」が最も多く、50歳以上では「自分や家族の健康状態のこと」が最も多くなっています。(表 4-2-1)

【表 4-2-1 年齢別 今の生活で困っていること】

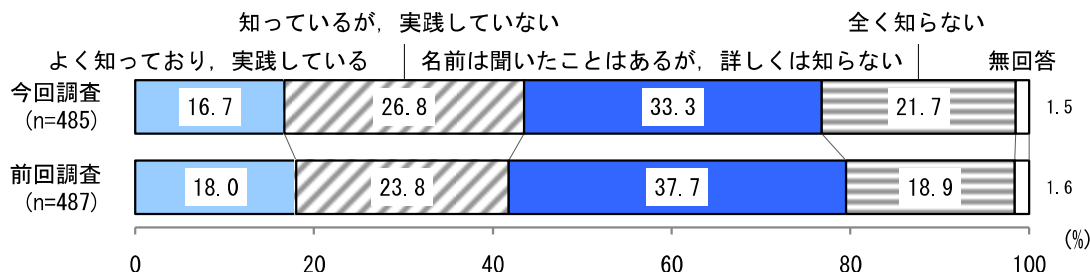
(単位：3LA%)

	自分や家族の健康状態のこと	働く場がないこと	住宅事情や住環境のこと	生きがいや楽しみがないこと	生活費等、経済的なこと	財産・預金などの管理のこと	訪問販売や勧誘販売などの消費者問題のこと	家族関係のこと	友人関係、近所づきあいのこと	災害時などへの対応のこと	身近な相談相手や話し相手がないこと	その他	特に困っていることはない	無回答
40～44歳 (n=100)	29.9	4.5	19.4	9.0	34.3	16.4	1.5	16.4	3.0	9.0	1.5	3.0	28.4	0.0
45～49歳 (n=116)	26.9	4.5	17.9	6.0	28.4	10.4	0.0	7.5	1.5	10.4	3.0	0.0	34.3	3.0
50～54歳 (n=102)	42.7	0.0	7.3	8.5	32.9	12.2	0.0	17.1	3.7	7.3	1.2	1.2	31.7	1.2
55～59歳 (n=88)	41.0	1.2	10.8	8.4	24.1	7.2	1.2	15.7	6.0	9.6	3.6	3.6	24.1	3.6
60歳以上 (n=79)	38.2	3.8	14.0	7.0	30.6	5.9	1.1	10.2	4.3	7.0	4.8	1.6	32.8	2.7

(3) 介護予防の認知度と実践の有無

問4 Q5 介護予防とは、なるべく要介護状態にならないように、また、介護が必要な人もそれ以上状態を悪化させないようにする取組の事です。あなたはこのことについて御存知でしたか。また、介護予防を実践していますか。〈〇は1つ〉

【図 4-3 介護予防の認知度と実践の有無】

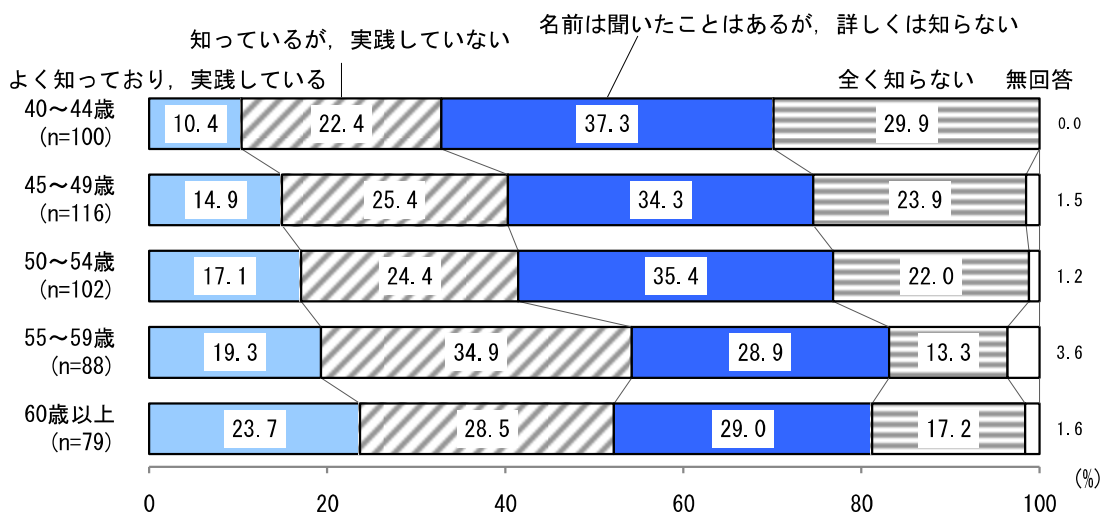


介護予防の認知度と実践の有無については、「名前は聞いたことがあるが、詳しくは知らない」が33.3%で最も多く、次いで「知っているが、実践していない」が26.8%となっています。

前回調査と比較すると、「名前は聞いたことがあるが、詳しくは知らない」は4.4ポイント低くなっています。(図4-3)

年齢別でみると、「よく知っており、実践している」割合は年齢が上がるほど高くなっています。(図4-3-1)

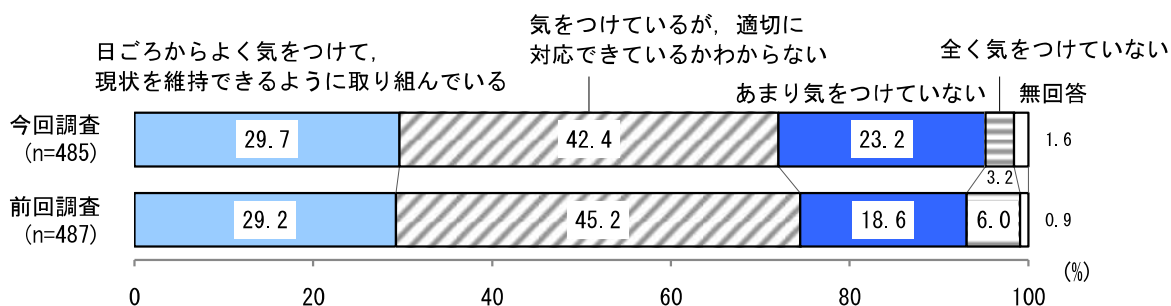
【図 4-3-1 年齢別 介護予防の認知度と実践の有無】



(4) 自身の心身の変化への気配り状況

問4Q6 あなたは日ごろ、御自分の心身の変化（足腰のおとろえなど）に気を配り、早めに改善していますか。〈〇は1つ〉

【図4-4 自身の心身の変化への気配り状況】

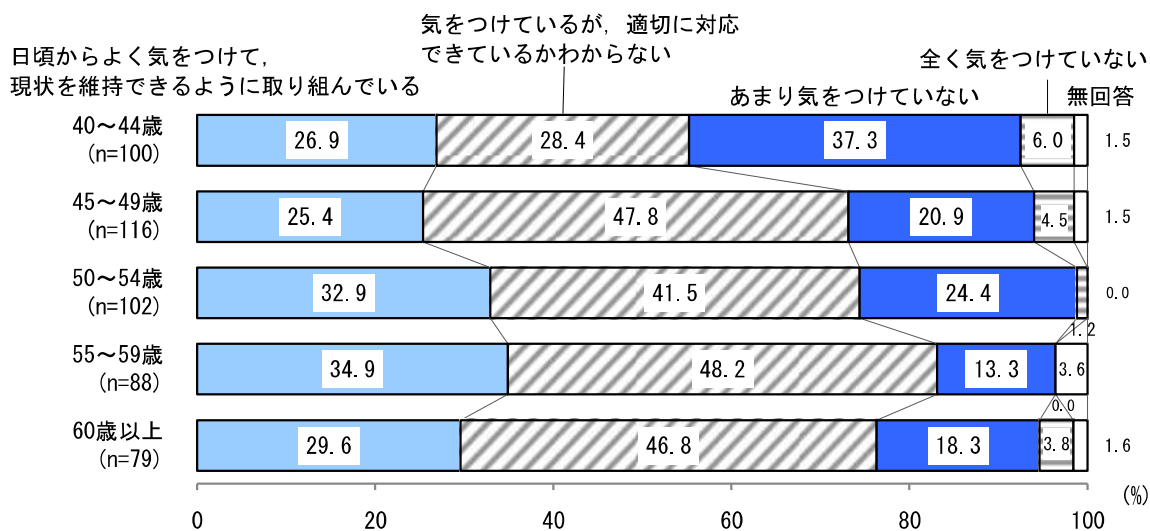


自身の心身の変化への気配り状況については、「気をつけているが、適切に対応できているかわからない」が42.4%で最も多く、次いで「日ごろからよく気をつけて、現状を維持できるように取り組んでいる」が29.7%となっています。

前回調査と比較すると、大きな差異はみられません。(図4-4)

年齢別でみると、「日頃からよく気をつけて、現状を維持できるように取り組んでいる」割合は55～59歳で34.9%と最も高くなっています。(図4-4-1)

【図4-4-1 年齢別 自身の心身の変化への気配り状況】

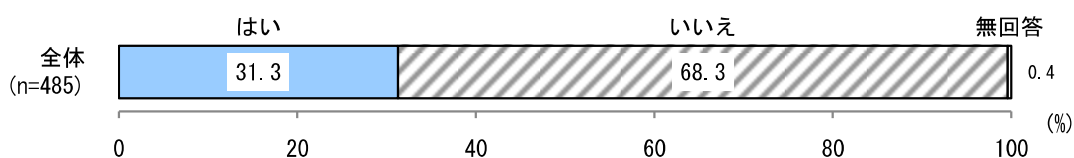


5 介護・介助に対する意識等について

(1) 認知症の症状や対応等について学んだことがあるか

問5 Q1 あなたは認知症（若年性認知症含む）の症状や認知症の方への対応等について学んだことはありますか。〈〇は1つ〉

【図 5-1 認知症の症状や対応等について学んだことがあるか】

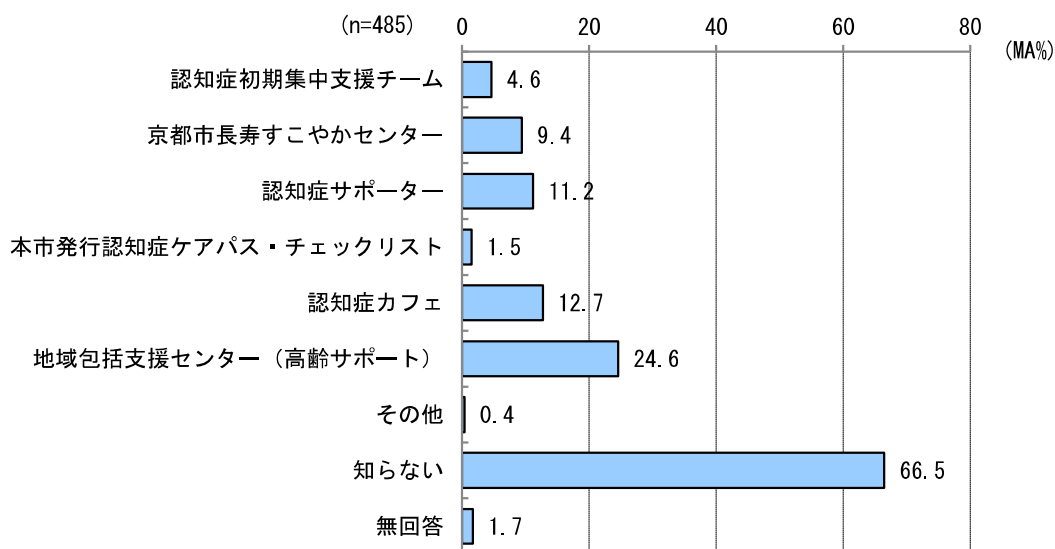


認知症の症状や対応等について学んだことがあるかについては、「はい」が31.3%、「いいえ」が68.3%となっています。（図 5-1）

(2) 若年性認知症の人に対する支援で知っている機関や取組

問5 Q2 若年性認知症とは65歳未満で発症する認知症のことです。あなたは若年性認知症の方を支援する機関や取組について知っていますか。〈あてはまるものすべてに〇〉

【図 5-2 若年性認知症の人に対する支援で知っている機関や取組】

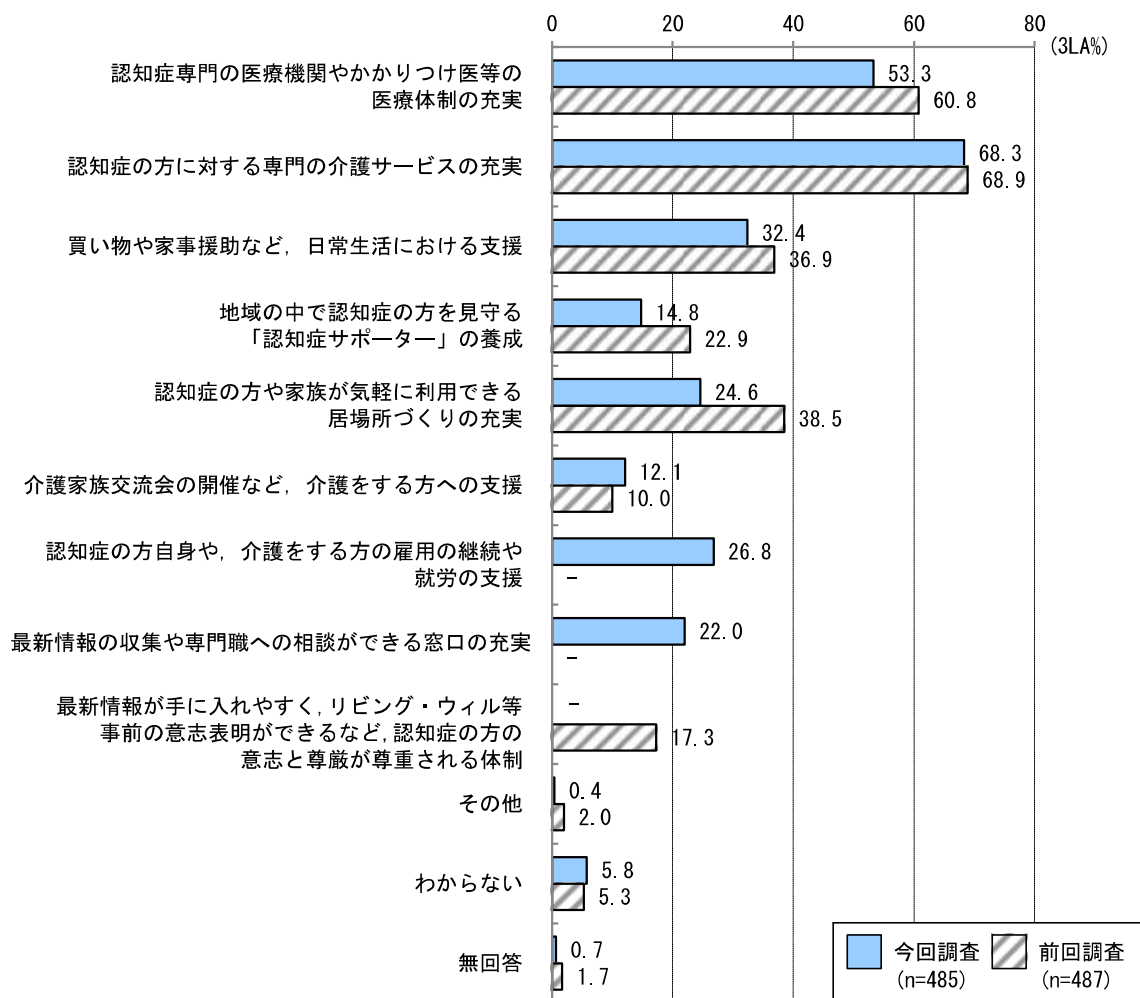


若年性認知症の人に対する支援で知っている機関や取組については、「地域包括支援センター（高齢サポート）」が24.6%で最も多く、次いで「認知症カフェ」が12.7%、「認知症サポーター」が11.2%となっています。一方「知らない」は66.5%となっています。（図 5-2）

(3) 自身や家族が認知症になった場合にあればよいと思う支援

問5 Q3 あなたやあなたの家族が認知症になった場合、どのような支援があればよいと思いますか。〈〇は3つまで〉

【図5-3 自身や家族が認知症になった場合にあればよいと思う支援】



※「認知症の方自身や、介護をする方の雇用の継続や就労の支援」「最新情報の収集や専門職への相談ができる窓口の充実」は、今回調査のみの選択肢

※「最新情報が手に入れやすく、リビング・ウィル等事前の意志表明ができるなど、認知症の方の意志と尊厳が尊重される体制」は、前回調査のみの選択肢

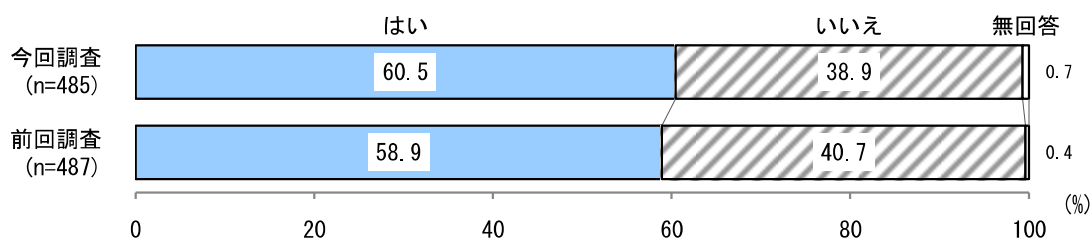
自身や家族が認知症になった場合にあればよいと思う支援については、「認知症の方に対する専門の介護サービスの充実」が68.3%で最も多く、次いで「認知症専門の医療機関やかかりつけ医等の医療体制の充実」が53.3%となっています。

前回調査とは選択肢が異なるので、一概には比較できませんが参考としてみると、「認知症の方や家族が気軽に利用できる居場所づくりの充実」は13.9ポイント低くなっています。(図5-3)

(4) 成年後見制度の認知度

問5 Q4 成年後見制度とは、認知症や障害などの理由で判断能力の不十分な人に代わり、財産を管理したり、身のまわりの世話のために介護などのサービスや施設への入所に関する契約を結んだりする支援を行う制度です。
あなたは成年後見制度を知っていますか。〈〇は1つ〉

【図 5-4 成年後見制度の認知度】



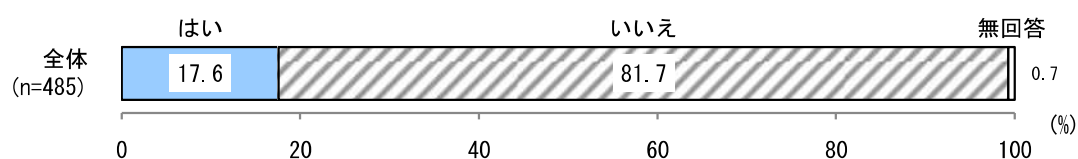
成年後見制度の認知度については、「はい (知っている)」が 60.5%、「いいえ (知らない)」が 38.9%となっています。

前回調査と比較すると、大きな差異はみられません。(図 5-4)

(5) 高齢者虐待に気づいた場合の対応の認知度

問5 Q5 あなたは介護疲れなどによる高齢者への虐待に気づいた場合の対応 (相談窓口等) について知っていますか。〈〇は1つ〉

【図 5-5 高齢者虐待に気づいた場合の対応の認知度】

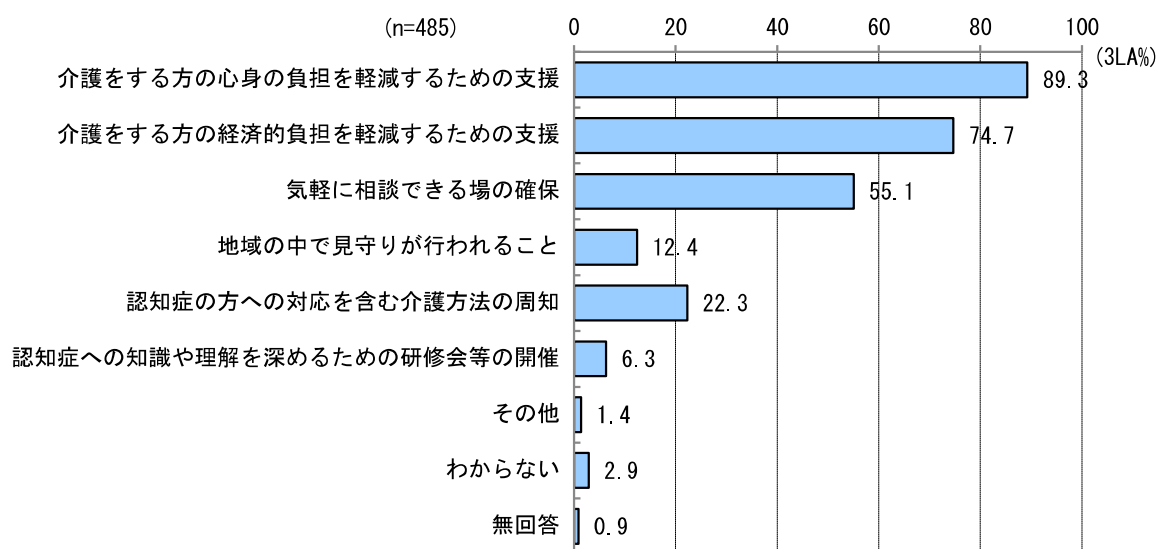


高齢者虐待に気づいた場合の対応の認知度については、「はい (知っている)」が 17.6%、「いいえ (知らない)」が 81.7%となっています。(図 5-5)

(6) 高齢者虐待を未然に防ぐためにあればよいと思う支援

問5 Q6 介護疲れなどによる高齢者虐待を未然に防ぐためにどのような支援があればよいと思いますか。〈〇は3つまで〉

【図 5-6 高齢者虐待を未然に防ぐためにあればよいと思う支援】

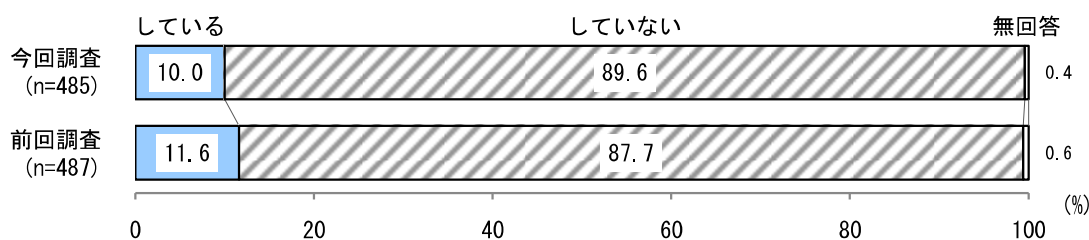


高齢者虐待を未然に防ぐためにあればよいと思う支援については、「介護をする方の心身の負担を軽減するための支援」が89.3%で最も多く、次いで「介護をする方の経済的負担を軽減するための支援」が74.7%、「気軽に相談できる場の確保」が55.1%となっています。(図 5-6)

(7) 要介護者の有無

問5 Q7 あなたは、現在、家族の介護をしていますか。〈○は1つ〉

【図 5-7 要介護者の有無】

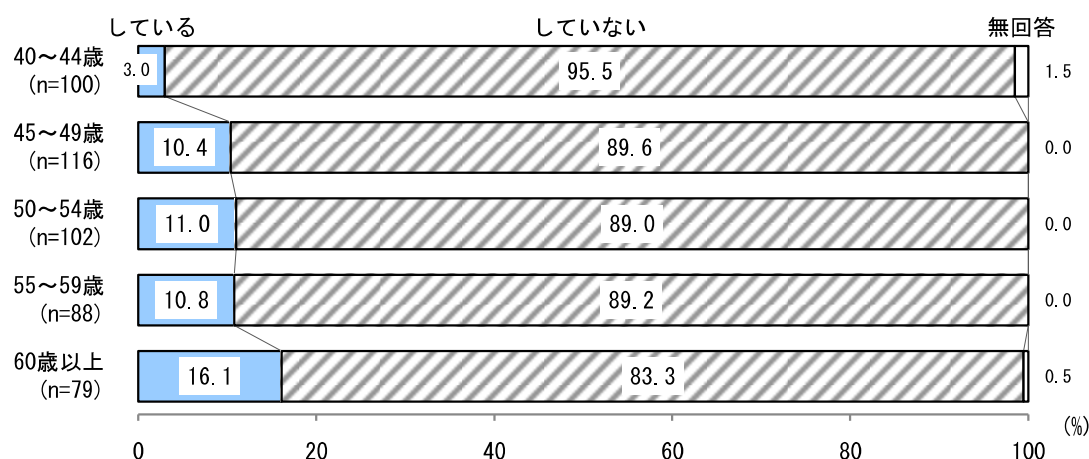


現在家族の介護をしているかについては、「している」が10.0%、「していない」が89.6%となっています。

前回調査と比較すると、大きな差異はみられません。(図 5-7)

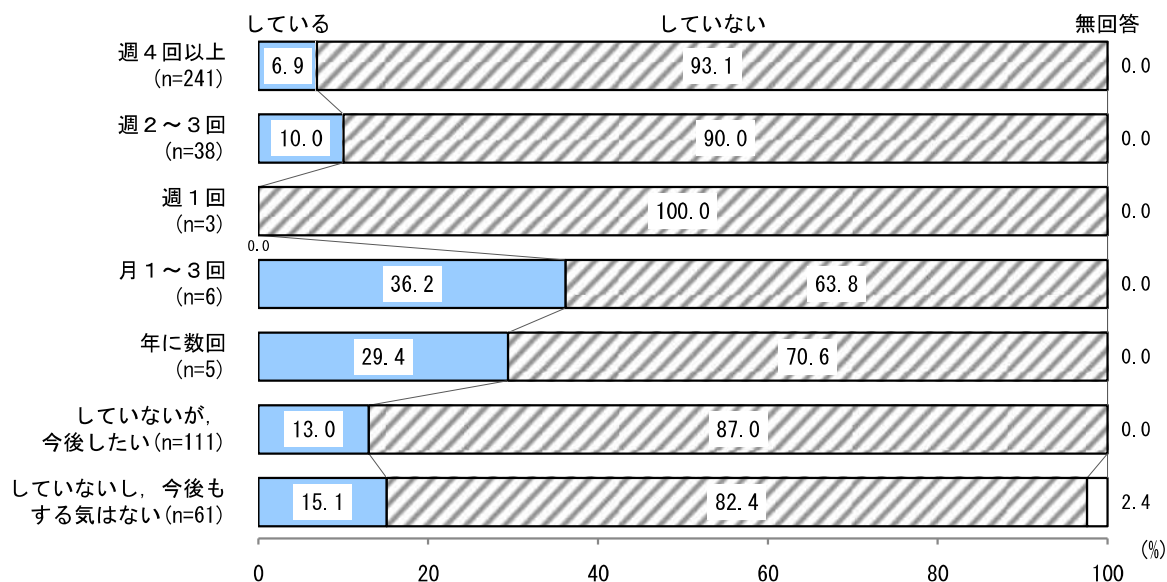
年齢別でみると、介護を「している」割合は概ね年齢が上がるほど高い傾向となっており、60歳以上で16.1%となっています。(図 5-7-1)

【図 5-7-1 年齢別 要介護者の有無】



収入のある仕事の参加頻度別でみると、“週4回以上”仕事をしている人の「(介護)している」割合は6.9%となっています。また“していないが、今後したい”“していないし、今後もある気はない”の「(介護)している」割合は、それぞれ13.0%と15.1%となっています。(図5-7-2)

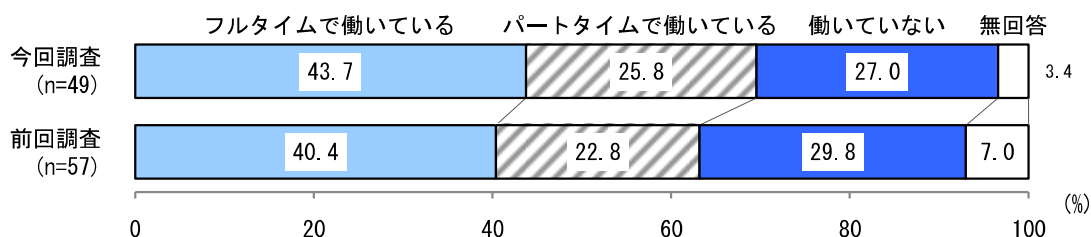
【図5-7-2 収入のある仕事の参加頻度別 要介護者の有無】



(8) 勤務形態

問5Q8 Q7で「1. している」と回答した方にお聞きします。
現在の勤務形態について、御回答ください。<〇は1つ>

【図5-8 勤務形態】

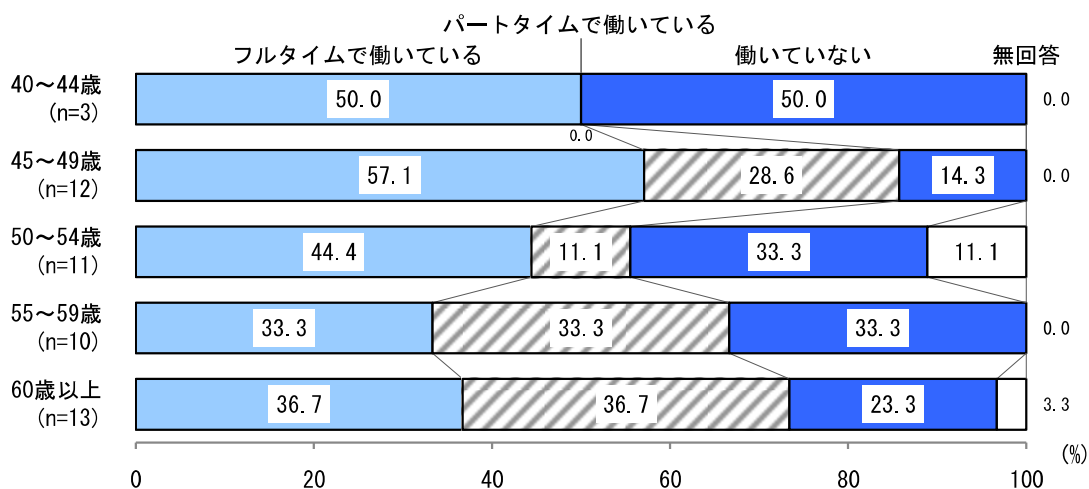


現在家族の介護をしている人に勤務形態をたずねたところ、「フルタイムで働いている」が43.7%で最も多く、次いで「働いていない」が27.0%となっています。「フルタイムで働いている」と「パートタイムで働いている」を合わせた『働いている』割合は69.5%となっています。

前回調査と比較すると、『働いている』割合は6.3ポイント高くなっています。(図5-8)

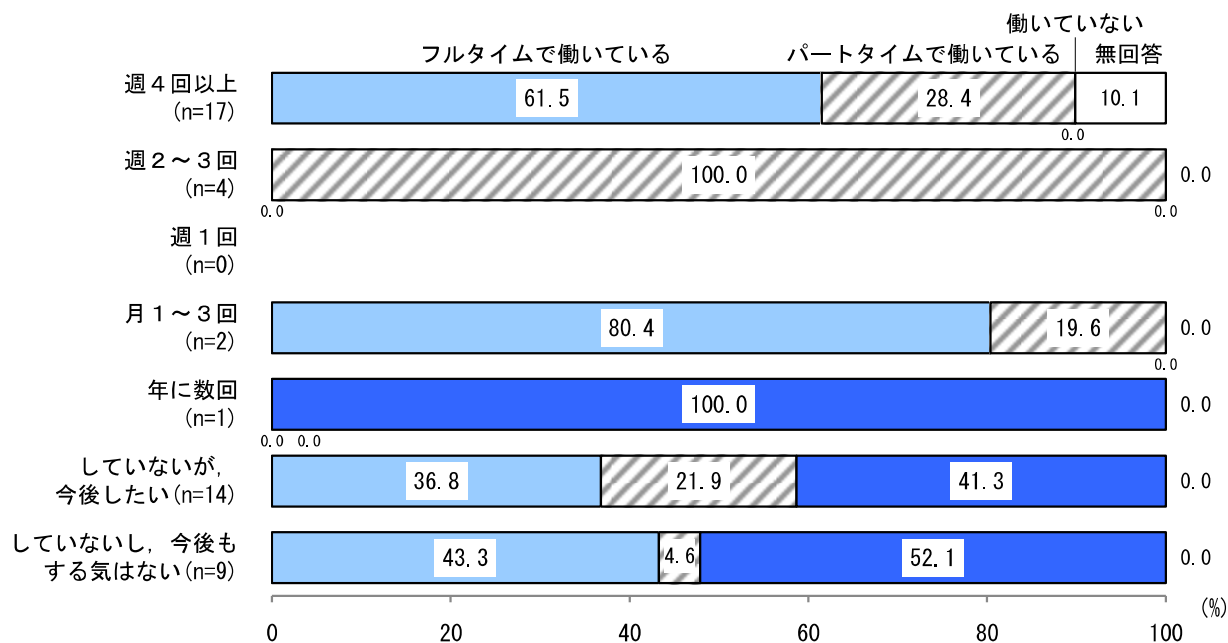
年齢別でみると、『働いている』割合はいずれの年齢も半数以上となっています。(図 5-8-1)

【図 5-8-1 年齢別 勤務形態】



収入のある仕事の参加頻度別でみると、“週 4 回以上” 参加している人は「フルタイムで働いている」が 61.5%となっています。(図 5-8-2)

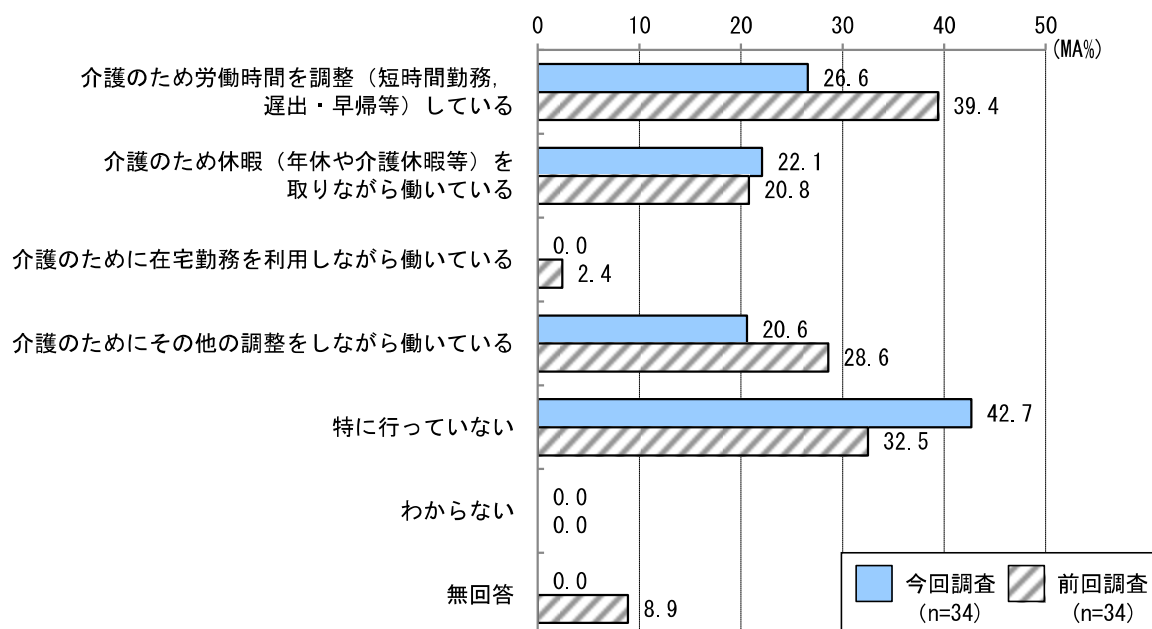
【図 5-8-2 収入のある仕事の参加頻度別 勤務形態】



(9) 働き方の調整等

問5 Q8-1 Q8で「1. フルタイムで働いている」、「2. パートタイムで働いている」と回答した方にお聞きします。介護をするに当たって、何か働き方についての調整等を行っていますか。〈あてはまるものすべてに○〉

【図 5-9 働き方の調整等】

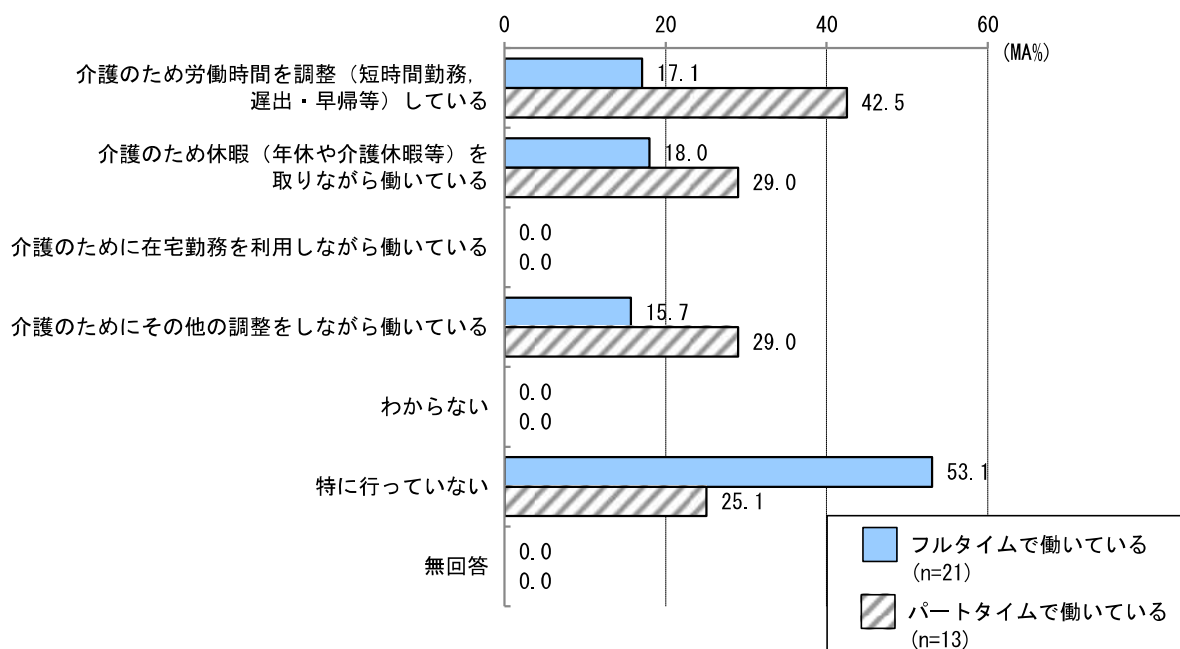


介護するに当たっての働き方の調整等については、「介護のため労働時間を調整（短時間勤務、遅出・早帰等）している」が26.6%で最も多く、次いで「介護のための休暇（年休や介護休暇等）を取りながら働いている」が22.1%となっています。一方「特に行っていない」は42.7%となっています。

前回調査と比較すると、「介護のための労働時間を調整（短時間勤務、遅出・早帰等）している」割合は12.8ポイント低くなっています。また「特に行っていない」の割合は10.2ポイント高くなっています。（図 5-9）

介護者の勤務形態別でみると，“フルタイムで働いている”人より“パートタイムで働いている”人のほうが働き方の調整等を行っている割合が高くなっています。「特に行っていない」割合は“フルタイムで働いている”人のほうが28.0ポイント高くなっています。(図5-9-1)

【図5-9-1 介護者の勤務形態別 働き方の調整等】



収入のある仕事の参加頻度別でみると，“週4回以上”の人は「特に行っていない」が最も多くなっています。(表5-9-2)

【表5-9-2 収入のある仕事の参加頻度別 働き方の調整等】

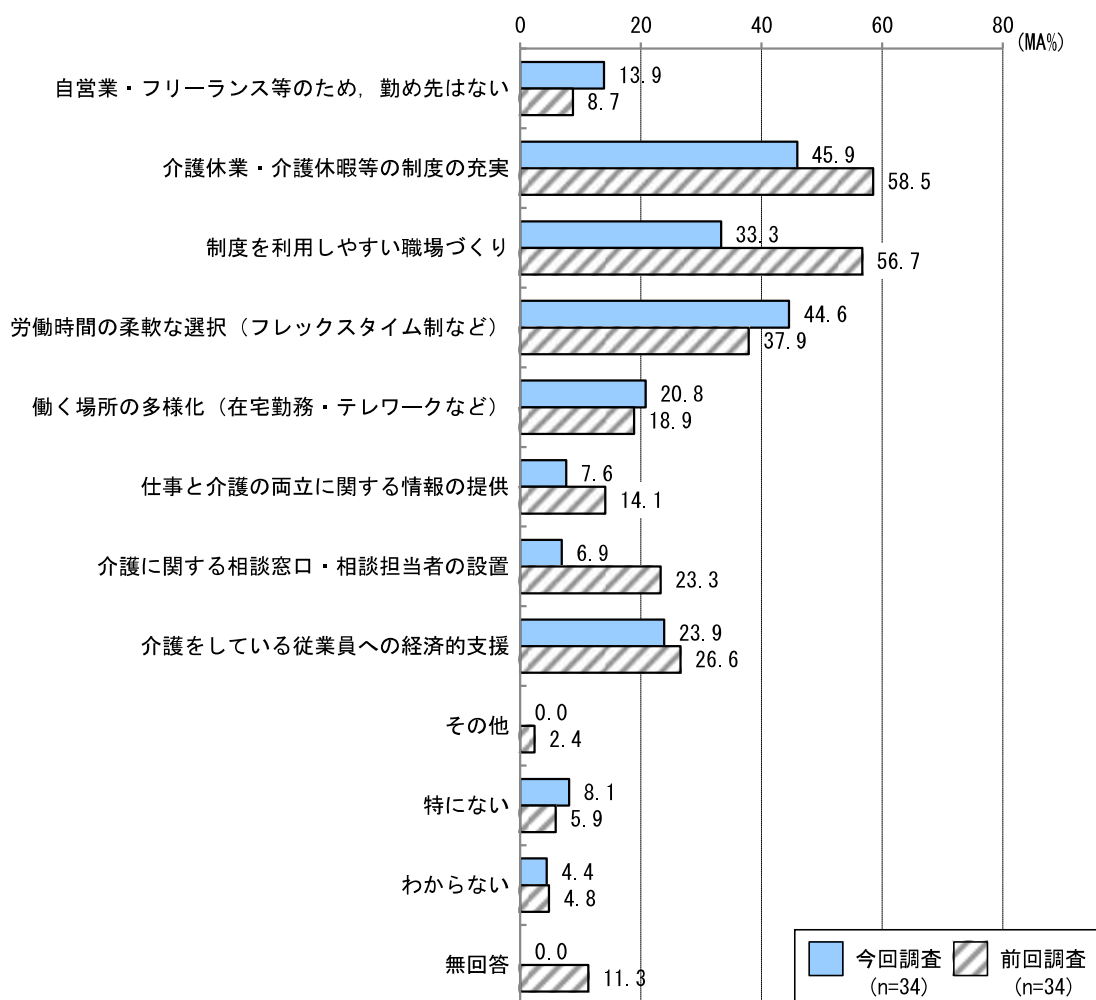
(単位：MA%)

	早帰等（短時間勤務）している	介護のため労働時間を調整している	介護のため休暇（年休や介護休暇等）を取りながら働いている	在宅勤務を利用しながら働いている	その他の調整をしながら働いている	わからない	特に行っていない	無回答
週4回以上 (n=15)	31.6	30.0	0.0	21.6	0.0	41.3	0.0	
週2～3回 (n=4)	89.0	11.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
週1回 (n=)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
月1～3回 (n=2)	19.6	80.4	0.0	19.6	0.0	0.0	0.0	
年に数回 (n=0)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
参加していないが、今後参加したい (n=8)	0.0	0.0	0.0	19.7	0.0	80.3	0.0	
参加していないし、今後も参加する気はない (n=4)	9.6	19.1	0.0	37.7	0.0	33.7	0.0	

(10) 仕事と介護の両立のための勤め先からの支援

問5 Q8-2 Q8で「1. フルタイムで働いている」、「2. パートタイムで働いている」と回答した方にお聞きします。勤め先からどのような支援があれば、仕事と介護の両立に効果があると思いますか。〈あてはまるものすべてに○〉

【図 5-10 仕事と介護の両立のための勤め先からの支援】

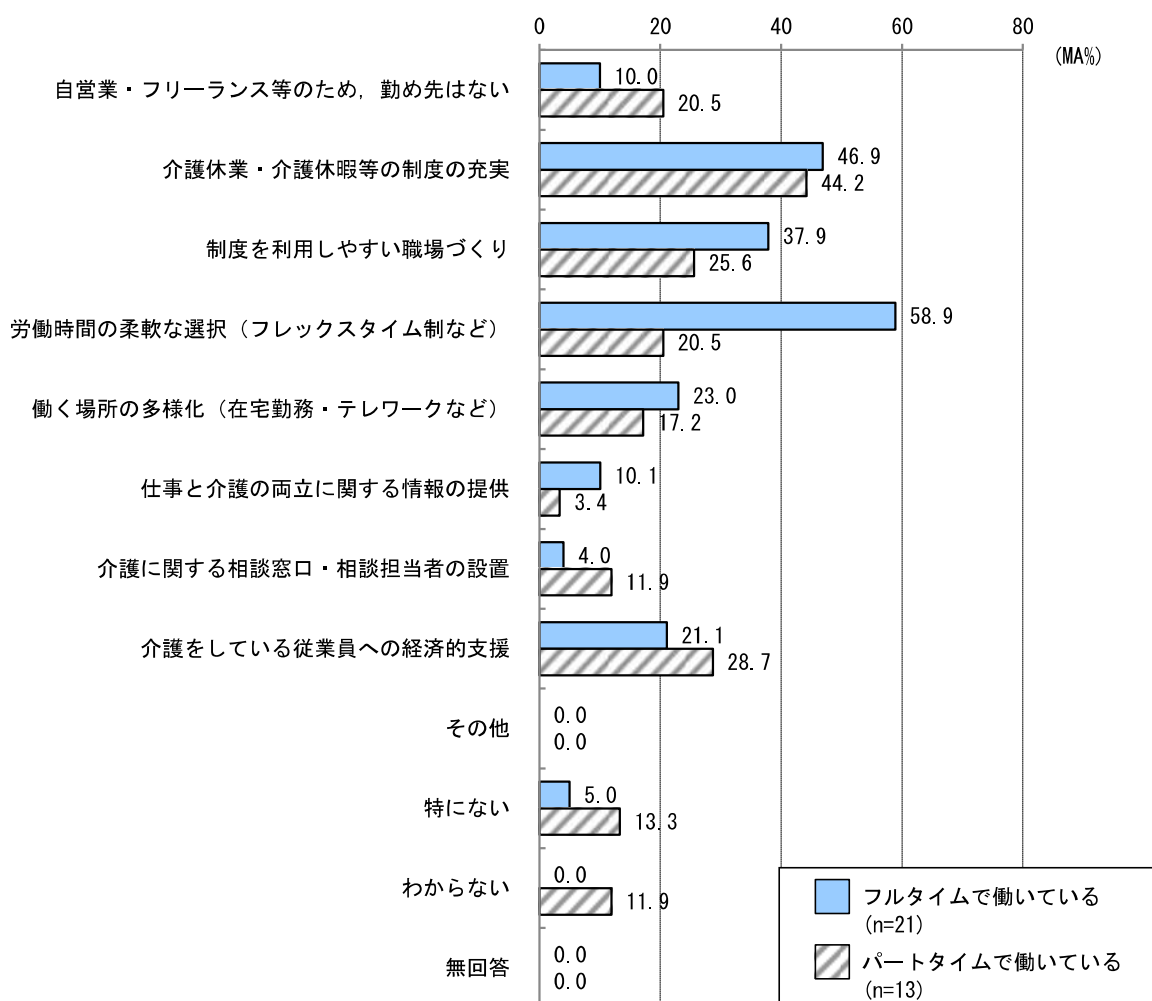


仕事と介護の両立のための勤め先からの支援については、「介護休業・介護休暇等の制度の充実」が45.9%で最も多く、次いで「労働時間の柔軟な選択（フレックスタイム制など）」が44.6%となっています。

前回調査と比較すると、「制度を利用しやすい職場づくり」の割合は23.4ポイント低くなっています。（図 5-10）

介護者の勤務形態別でみると、“フルタイムで働いている”人では「労働時間の柔軟な選択（フレックスタイム制など）」が58.9%で最も多くなっています。“パートタイムで働いている”人では「介護休業・介護休暇等の制度の充実」が44.2%で最も多くなっています。（図 5-10-1）

【図 5-10-1 介護者の勤務形態別 仕事と介護の両立のための勤め先からの支援】



収入のある仕事の参加頻度別でみると、“週4回以上”では「労働時間の柔軟な選択（フレックスタイム制など）」が最も多くなっています。（表 5-10-2）

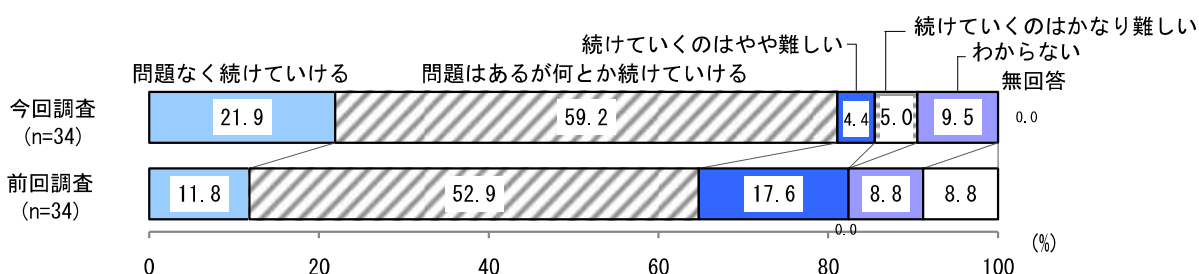
【表 5-10-2 収入のある仕事の参加頻度別 仕事と介護の両立のための勤め先からの支援】

	自営業・フリーランス等のため、勤め先はない	介護休業・介護休暇等の制度の充実	制度を利用しやすい職場づくり	労働時間の柔軟な選択（フレックスタイム制など）	働く場所の多様化（在宅勤務・テレワークなど）	仕事と介護の両立に関する情報の提供	介護に関する相談窓口・相談担当者の設置	介護をしている従業員への経済的支援	その他	特になし	わからない	無回答
週4回以上 (n=15)	2.8	42.8	48.3	74.4	34.4	17.3	0.0	34.4	0.0	0.0	7.1	0.0
週2～3回 (n=4)	45.0	22.0	11.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.0	0.0	11.0	11.0	0.0
週1回 (n=0)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
月1～3回 (n=2)	0.0	80.4	80.4	19.6	19.6	0.0	0.0	19.6	0.0	0.0	0.0	0.0
年に数回 (n=0)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
参加していないが、今後参加したい (n=8)	15.0	57.7	5.0	5.0	0.0	0.0	27.6	15.0	0.0	27.3	0.0	0.0
参加していないし、今後も参加する気はない (n=4)	28.7	37.7	33.7	71.3	33.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

(11) 仕事と介護の両立を継続できるか

問5 Q 8-3 Q 8で「1. フルタイムで働いている」、「2. パートタイムで働いている」と回答した方にお聞きします。今後も働きながら介護を続けていけそうですか。〈〇は1つ〉

【図 5-11 仕事と介護の両立を継続できるか】

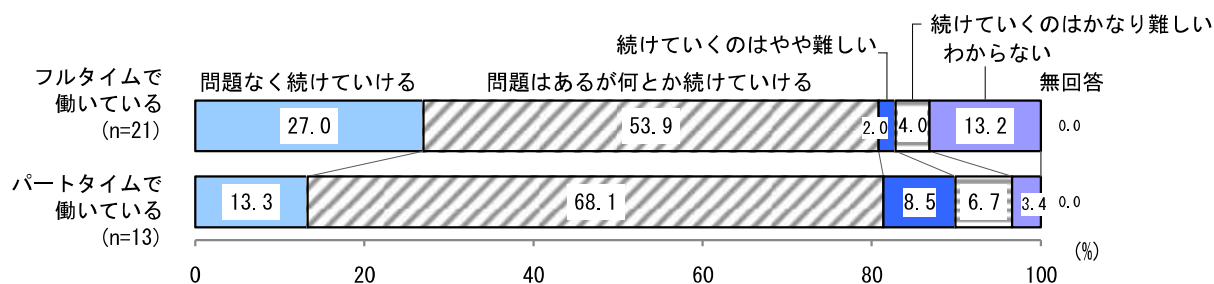


仕事と介護の両立を継続できるかについては、「問題はあるが何とか続けていける」が59.2%で最も多く、次いで「問題なく続けていける」が21.9%となっています。「問題なく続けていける」と「問題はあるが何とか続けていける」を合わせた『続けていける』は、81.1%となっています。

前回調査と比較すると、『続けていける』割合は、16.4ポイント高くなっています。(図 5-11)

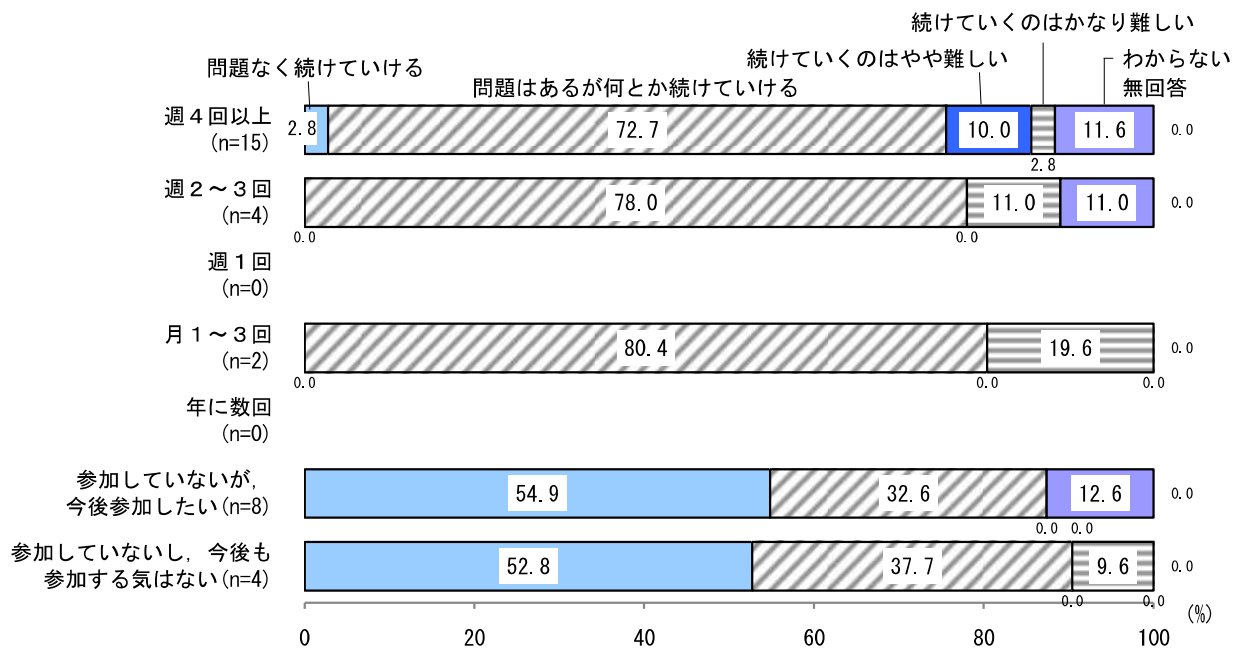
介護者の勤務形態別でみると、『続けていける』割合はフルタイム、パートタイムとも8割ほどとなっています。「続けていくのはやや難しい」と「続けていくのはかなり難しい」を合わせた『続けていくのは難しい』割合は“パートタイムで働いている”人のほうが高くなっています。(図 5-11-1)

【図 5-11-1 介護者の勤務形態別 仕事と介護の両立を継続できるか】



収入のある仕事の参加頻度別でみると、“週4回以上”では「問題はあるが何とか続けていける」が多くなっています。(図5-11-2)

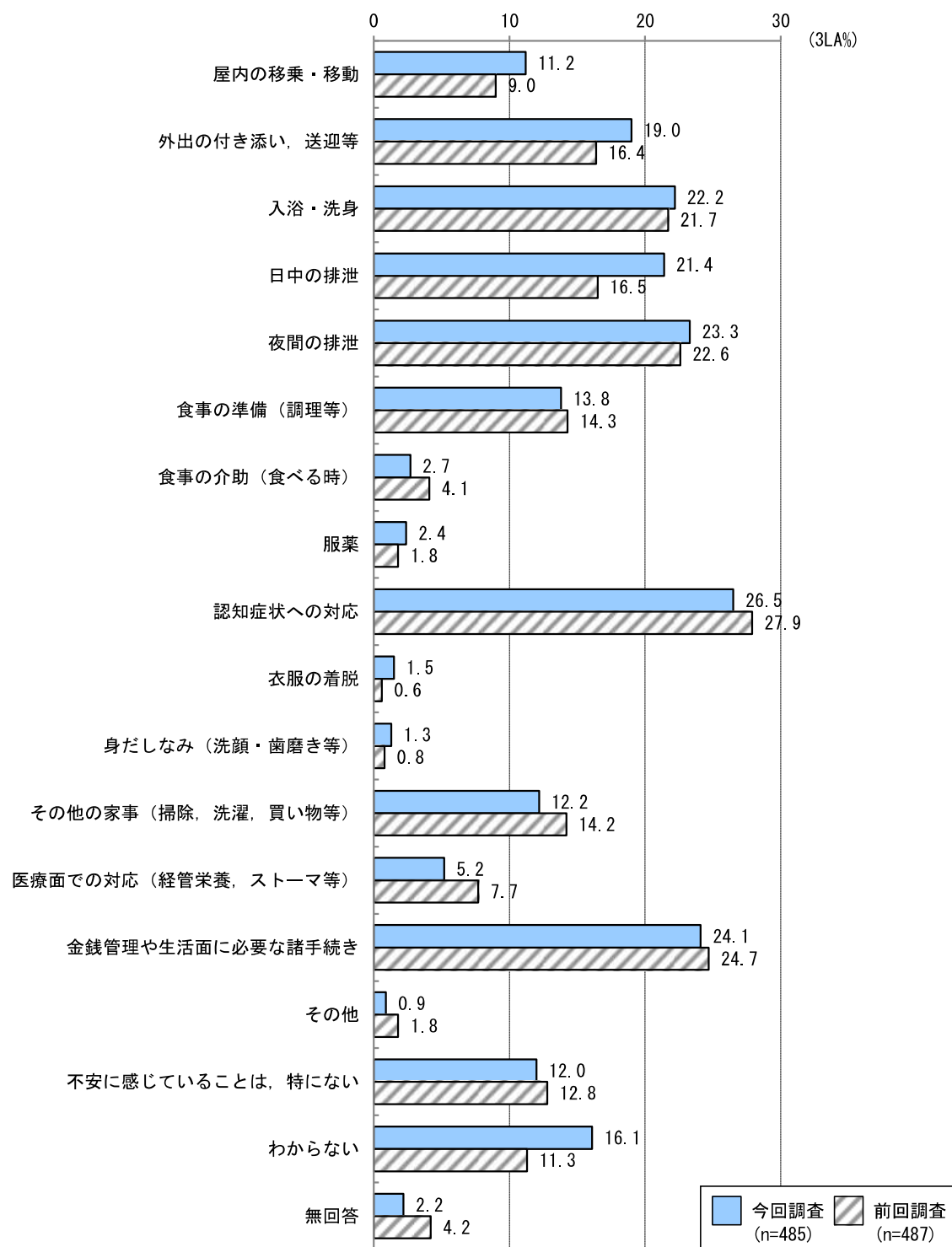
【図5-11-2 収入のある仕事の参加頻度別 仕事と介護の両立を継続できるか】



(12) 不安に感じる介護等

問5Q9 あなたが現在の生活を継続していくに当たって、不安に感じる介護等について、御回答ください（現状で行っているか否かは問いません）。<〇は3つまで>

【図 5-12 不安に感じる介護等】

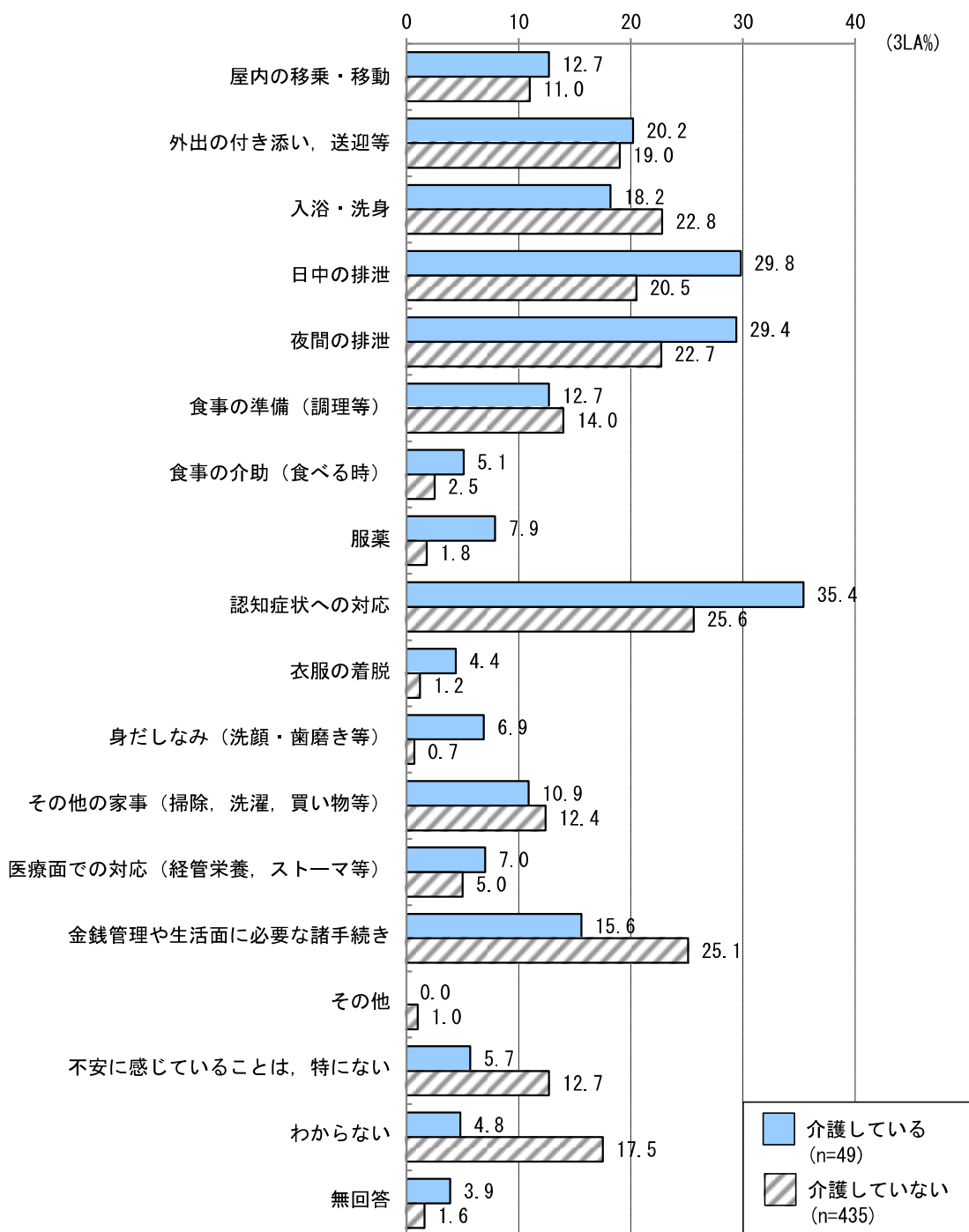


不安に感じる介護等については、「認知症状への対応」が 26.5%で最も多く、次いで「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が 24.1%、「夜間の排泄」が 23.3%となっています。

前回調査と比較すると、「日中の排泄」の割合は 4.9 ポイント高くなっています。(図 5-12)

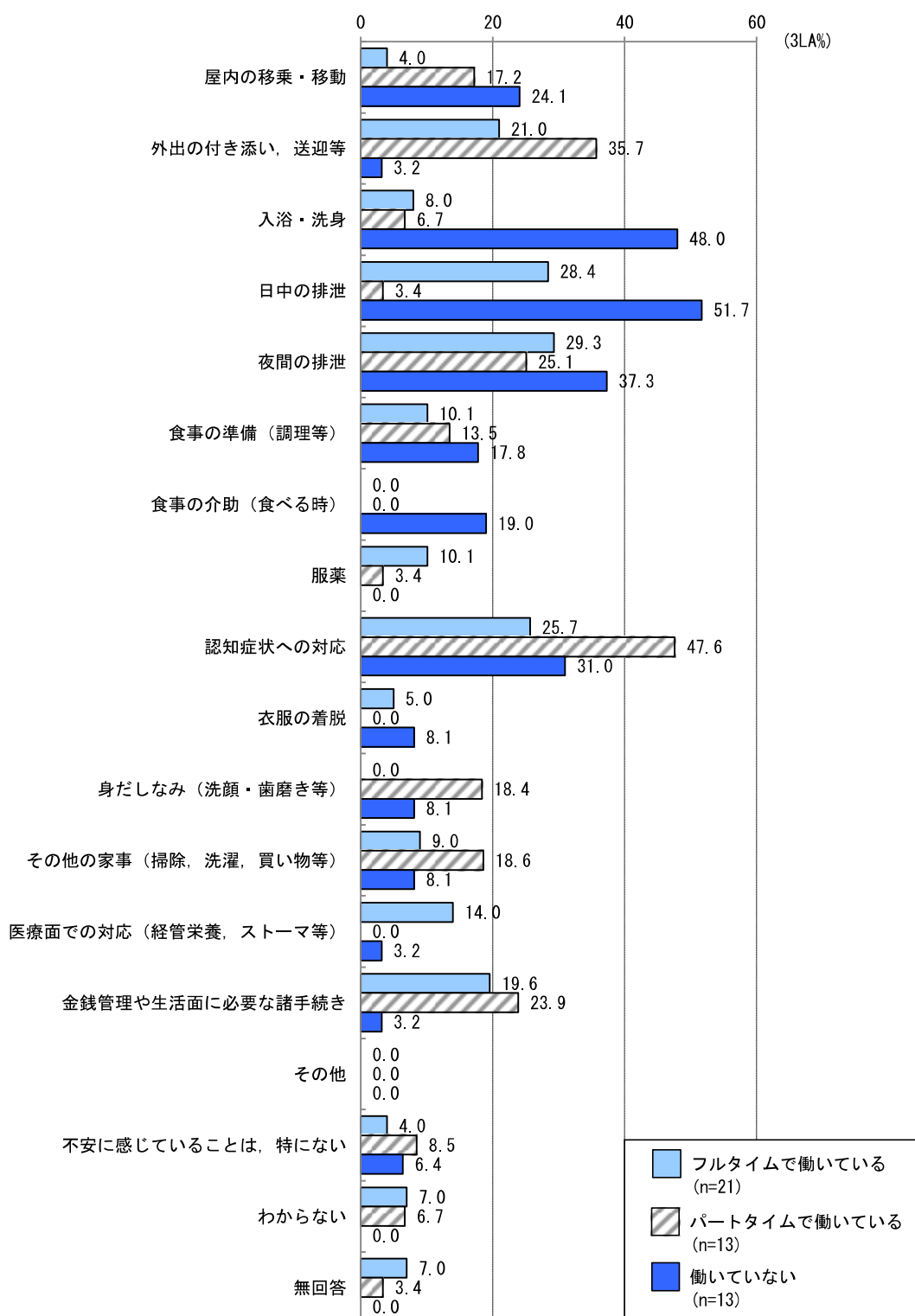
要介護者の有無別でみると，“介護している”人では「認知症状への対応」が 35.4%で最も多く、次いで「日中の排泄」が 29.8%、「夜間の排泄」が 29.4%となっています。“介護していない”人では「認知症状への対応」が 25.6%で最も多く、次いで「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が 25.1%、「入浴・洗身」が 22.8%となっています。また「不安に感じていることは、特にない」割合は“介護していない”人のほうが7.0ポイント高くなっています。(図5-12-1)

【図5-12-1 要介護者の有無別 不安に感じる介護等】



介護者の勤務形態別でみると，“フルタイムで働いている”人は「夜間の排泄」が最も多く、次いで「日中の排泄」「認知症状への対応」が多くなっています。“パートタイムで働いている”人は「認知症状への対応」が最も多く、次いで「外出の付き添い、送迎等」「夜間の排泄」が多くなっています。“働いていない”人は「日中の排泄」が最も多く、次いで「入浴・洗身」「夜間の排泄」が多くなっています。(図 5-12-2)

【図 5-12-2 介護者の勤務形態別 不安を感じる介護等】



- 若年者調査の結果 -

収入のある仕事の参加頻度別でみると、“週4回以上”の人では「認知症状への対応」が27.0%で最も多くなっています。(表5-12-3)

【表5-12-3 収入のある仕事の参加頻度別 不安を感じる介護等】

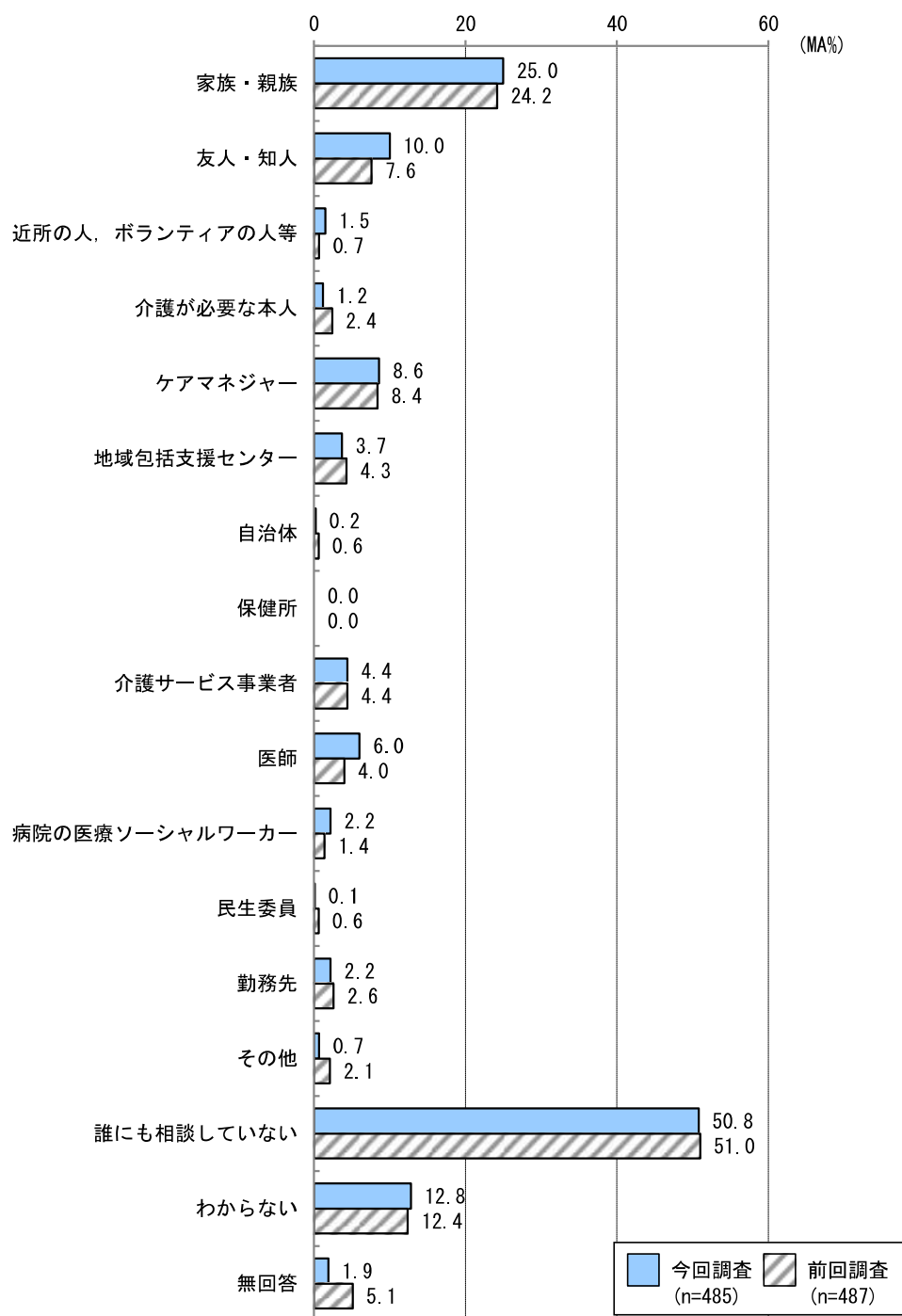
(単位: 3LA%)

	屋内の移乗・移動	外出の付き添い・送迎等	入浴・洗身	日中の排泄	夜間の排泄	食事の準備(調理等)	食事の介助(食べる時)	服薬	認知症状への対応	衣服の着脱	身だしなみ(洗顔・歯磨き等)	その他の家事(掃除・洗濯・買い物等)	医療面での対応(経管栄養・ストーマ等)	金銭管理や生活面に必要な諸手続き	その他	不安に感じていることは、特にない	わからない	無回答
週4回以上 (n=241)	10.9	22.2	19.9	19.8	22.7	12.7	3.3	1.9	27.0	1.6	0.4	11.9	5.3	26.6	0.7	13.6	15.4	1.1
週2～3回 (n=38)	19.8	21.1	30.8	27.1	35.3	24.3	1.1	1.1	25.1	3.9	0.0	15.4	7.7	15.3	0.0	5.0	12.8	5.6
週1回 (n=3)	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	64.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	35.8	0.0
月1～3回 (n=6)	0.0	45.9	28.0	36.2	75.0	0.0	0.0	29.1	7.1	17.9	0.0	0.0	0.0	7.1	0.0	25.0	0.0	0.0
年に数回 (n=5)	21.0	0.0	0.0	0.0	8.3	0.0	0.0	0.0	21.0	21.0	0.0	0.0	8.3	16.7	0.0	8.3	54.0	0.0
参加していないが、 今後参加したい(n=111)	6.9	9.4	26.0	24.5	26.1	15.3	2.5	2.3	24.4	0.0	3.1	7.4	5.9	24.5	1.3	12.0	18.5	2.1
参加していないし、今後も 参加する気はない(n=61)	18.3	19.5	24.9	23.4	17.3	12.5	2.7	4.5	28.6	0.0	0.0	19.4	4.2	26.0	2.0	12.3	10.1	2.4

(13) 介護についての相談相手

問5 Q10 あなたは、介護について誰かに相談していますか。〈あてはまるものすべてに○〉

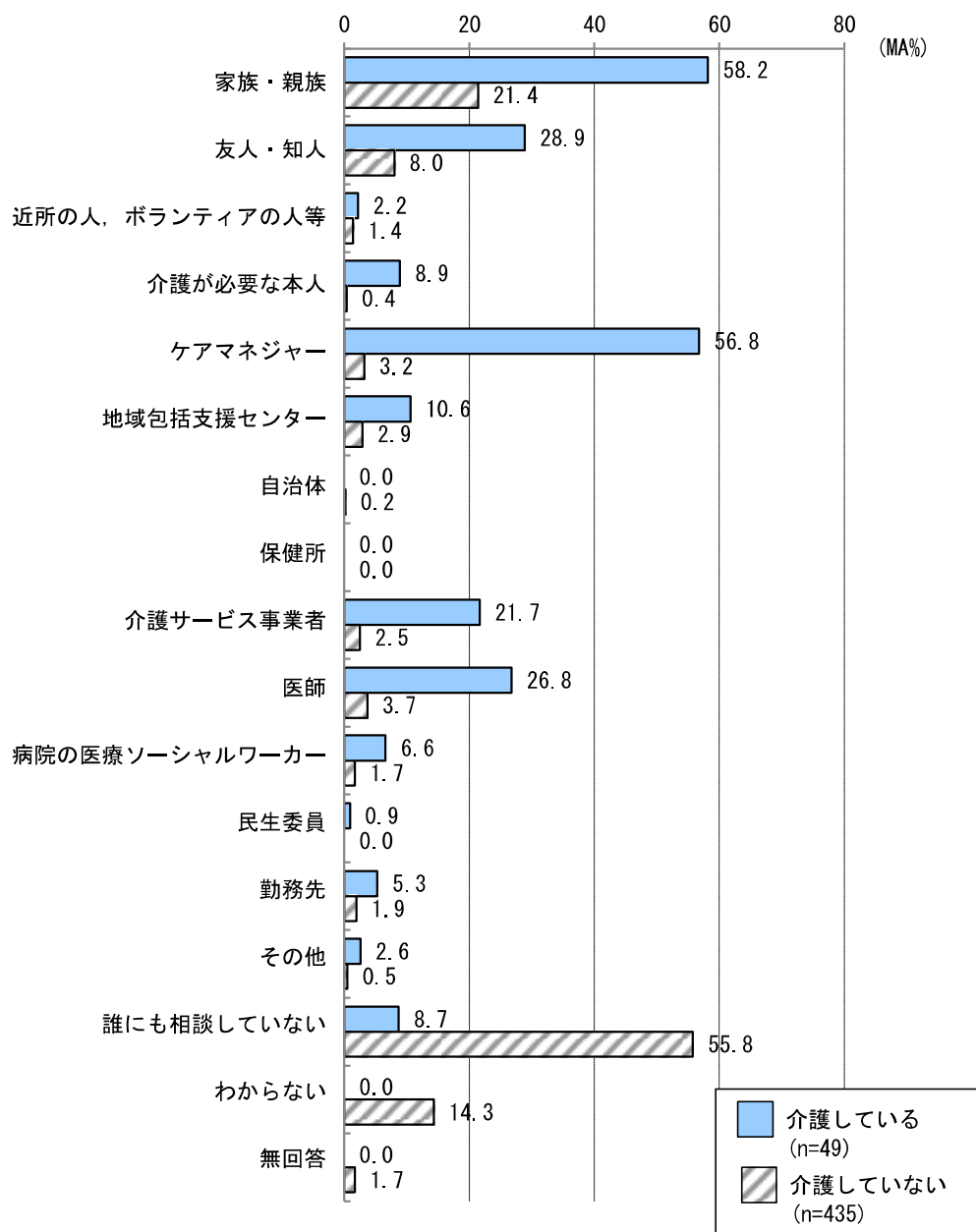
【図 5-13 介護についての相談相手】



介護についての相談相手については、「家族・親族」が 25.0%で最も多く、次いで「友人・知人」が 10.0%となっています。一方「誰にも相談していない」は 50.8%となっています。前回調査と比較すると、大きな差異はみられません。(図 5-13)

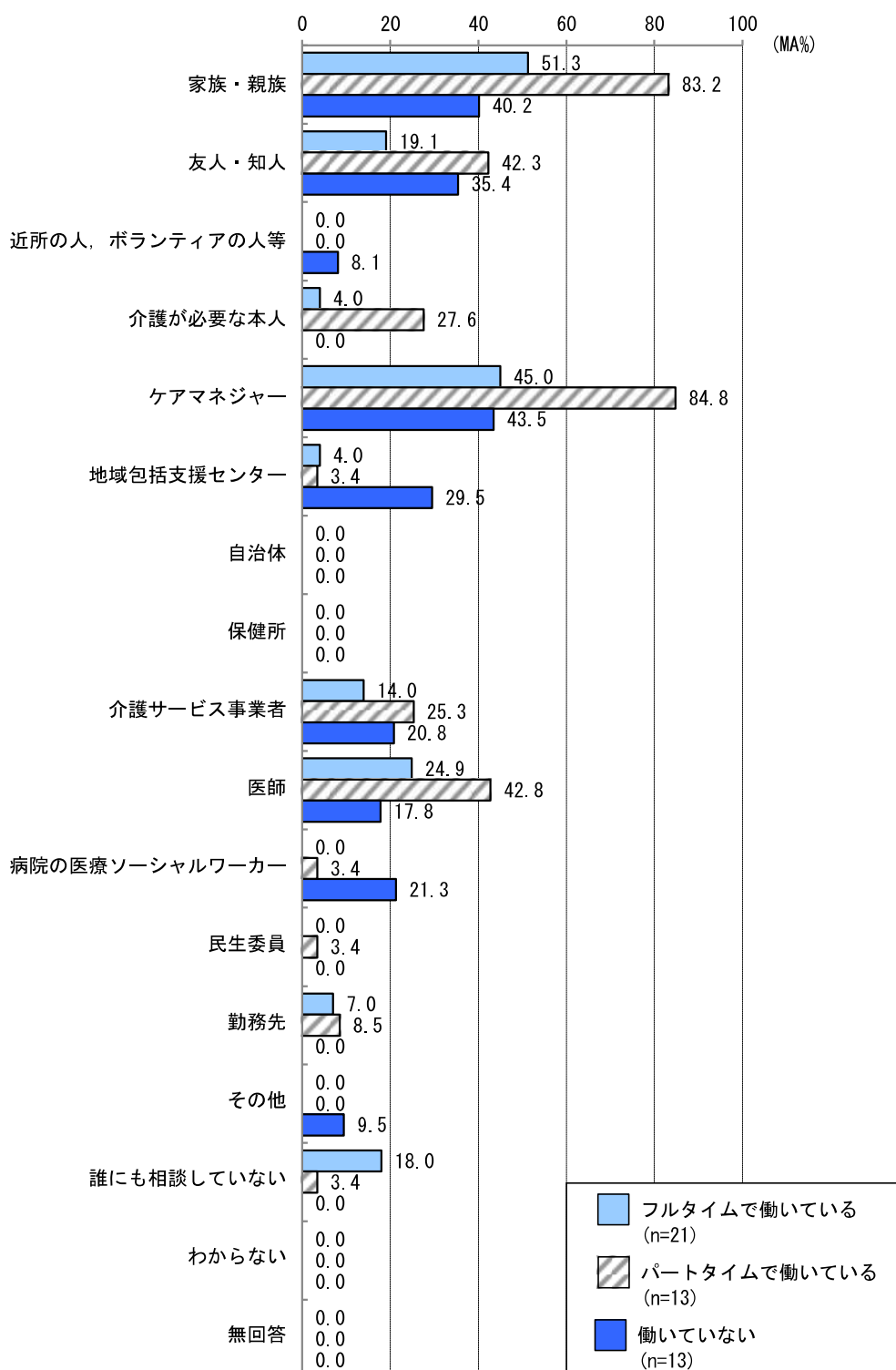
要介護者の有無別でみると、“介護している”人は「家族・親族」が最も多く、次いで「ケアマネジャー」「友人・知人」が多くなっています。“介護していない”人では「誰にも相談していない」が最も多く、次いで「家族・親族」が多くなっています。(図 5-13-1)

【図 5-13-1 要介護者の有無別 介護についての相談相手】



介護者の勤務形態別でみると、“フルタイムで働いている”人は「家族・親族」が最も多く、次いで「ケアマネジャー」「医師」が多くなっています。“パートタイムで働いている”人は「ケアマネジャー」が最も多く、次いで「家族・親族」「医師」が多くなっています。“働いていない”人は「ケアマネジャー」が最も多く、次いで「家族・親族」「友人・知人」が多くなっています。(図 5-13-2)

【図 5-13-2 介護者の勤務形態別 介護についての相談相手】



- 若年者調査の結果 -

収入のある仕事の参加頻度別でみると、いずれの参加頻度も「家族・親族」が最も多くなっています。(表 5-13-3)

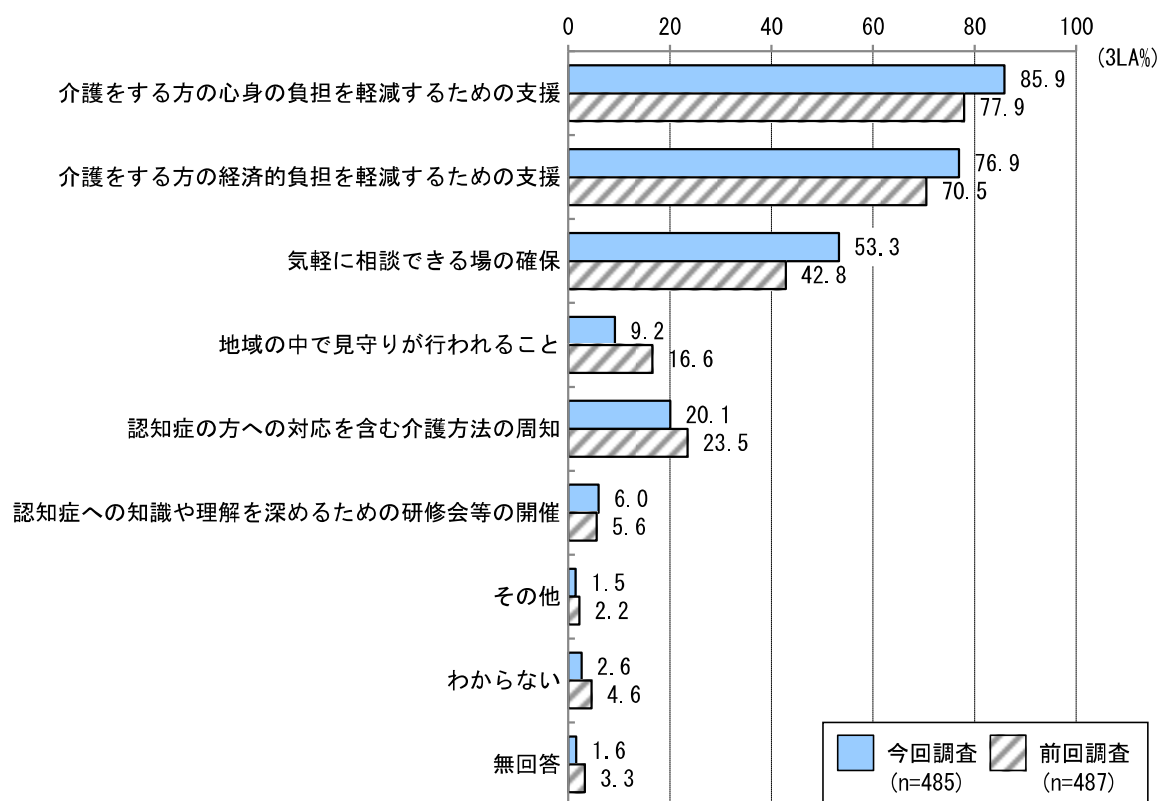
【表 5-13-3 収入のある仕事の参加頻度別 介護についての相談相手】

	(単位: MA%)																
	家族・親族	友人・知人	近所の人・ボランティアの人等	介護が必要な本人	ケアマネジャー	地域包括支援センター	自治体	保健所	介護サービス事業者	医師	病院の医療ソーシャルワーカー	民生委員	勤務先	その他	誰にも相談していない	わからない	無回答
週4回以上 (n=241)	22.8	8.0	0.7	1.4	7.7	2.0	0.0	0.0	5.1	5.8	0.6	0.0	2.6	0.9	55.8	12.6	0.8
週2~3回 (n=38)	19.9	12.7	0.0	4.5	12.1	11.6	2.8	0.0	11.0	7.7	3.9	1.1	7.7	0.0	49.3	13.2	4.5
週1回 (n=3)	35.8	0.0	0.0	0.0	35.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	64.2	0.0	0.0
月1~3回 (n=6)	92.9	56.7	17.9	0.0	42.9	17.9	0.0	0.0	0.0	64.9	17.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
年に数回 (n=5)	32.9	16.7	0.0	0.0	21.0	29.4	0.0	0.0	21.0	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0	37.7	0.0	0.0
参加していないが、 今後参加したい(n=111)	23.0	11.1	1.3	0.4	9.0	4.1	0.0	0.0	3.2	5.0	5.8	0.0	0.0	0.0	46.2	14.8	1.7
参加していないし、今後も 参加する気はない(n=61)	29.3	6.9	1.7	0.7	4.5	2.4	0.0	0.0	0.7	3.1	0.0	0.0	2.4	2.0	51.6	12.2	2.4

(14) 家族等の介護をするうえで、あればよいと思う支援

問5 Q11 あなたは、家族等の介護をするうえで、どのような支援があれば良いと思いますか。
 <〇は3つまで>

【図 5-14 家族等の介護をするうえで、あればよいと思う支援】

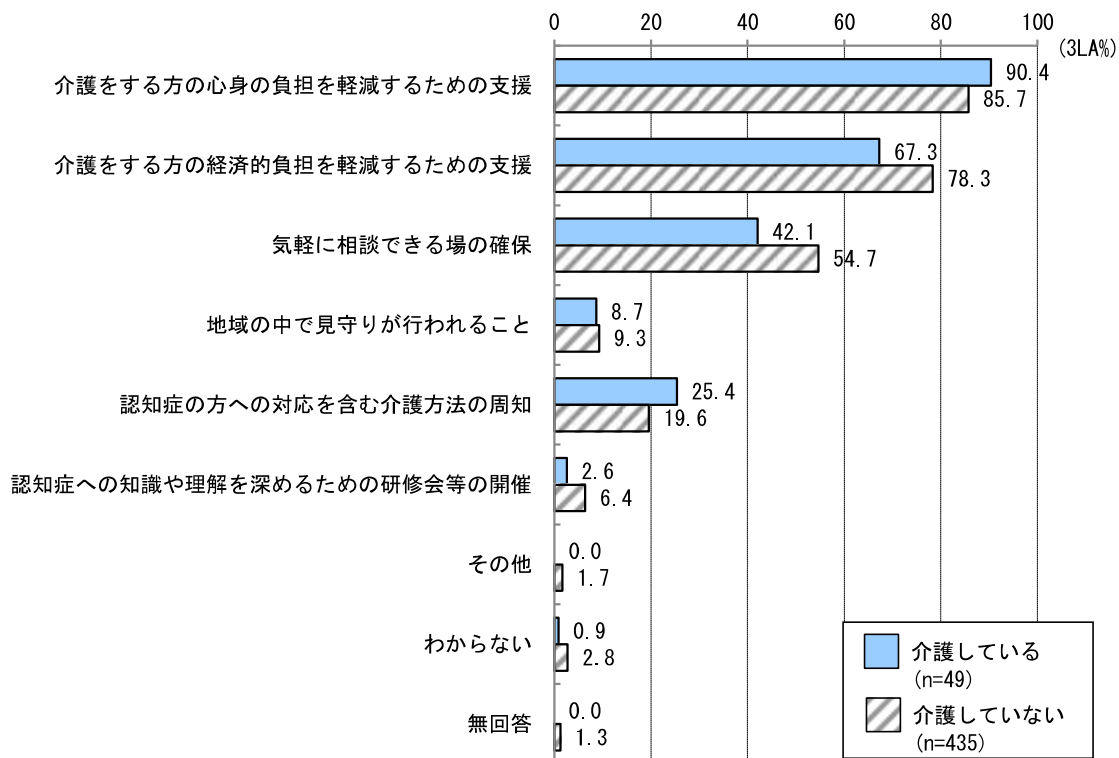


家族等の介護をするうえで、あればよいと思う支援については、「介護をする方の心身の負担を軽減するための支援」が85.9%で最も多く、次いで「介護をする方の経済的負担を軽減するための支援」が76.9%となっています。

前回調査と比較すると、「地域の中で見守りが行われること」の割合は7.4ポイント低くなっています。(図 5-14)

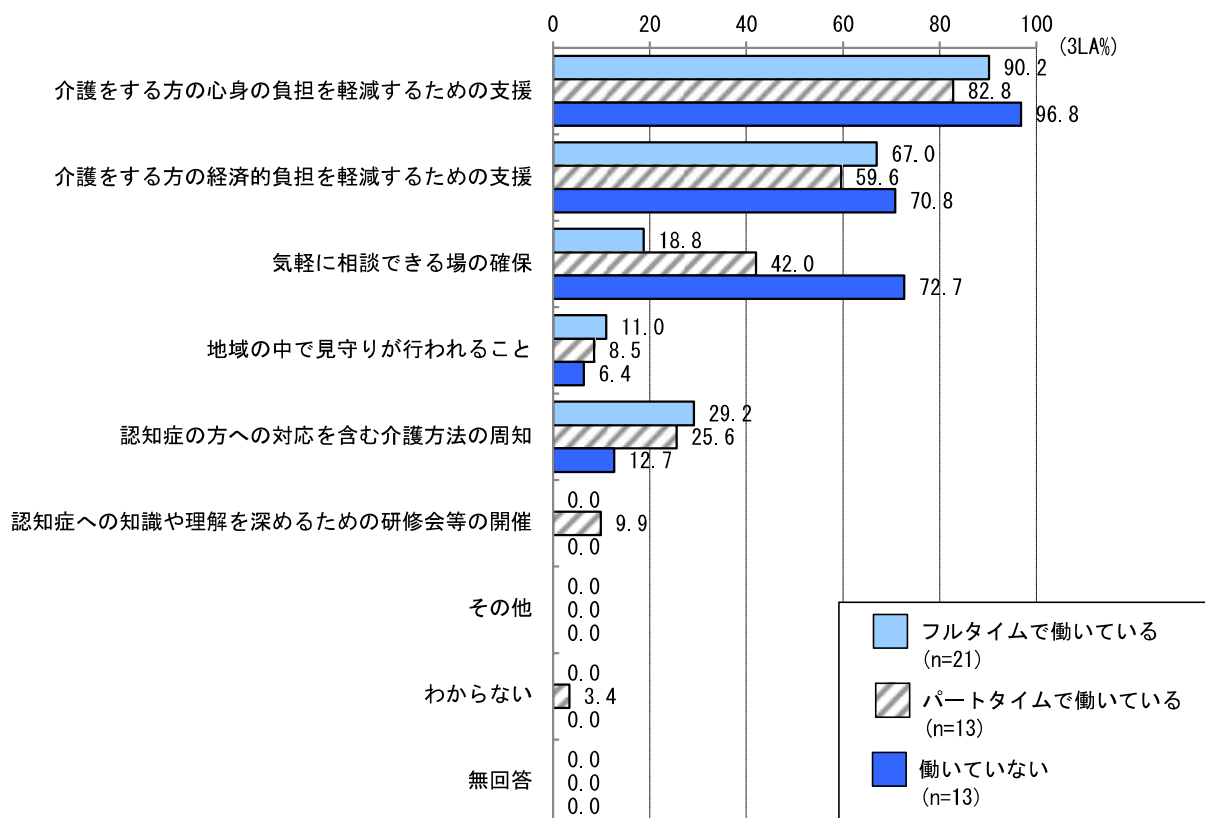
要介護者の有無別でみると、「気軽に相談できる場の確保」の割合は“介護していない”人のほうが12.6ポイント高くなっています。(図5-14-1)

【図5-14-1 要介護者の有無別 家族等の介護をするうえで、あればよいと思う支援】



介護者の勤務形態別でみると、“フルタイムで働いている”人は「介護をする方の心身の負担を軽減するための支援」が最も多く、次いで「介護をする方の経済的負担を軽減するための支援」「認知症の方への対応を含む介護方法の周知」が多くなっています。“パートタイムで働いている”と“働いていない”人は「介護をする方の心身の負担を軽減するための支援」が最も多く、次いで「介護をする方の経済的負担を軽減するための支援」「気軽に相談できる場の確保」が多くなっています。(図 5-14-2)

【図 5-14-2 介護者の勤務形態別 家族等の介護をするうえで、あればよいと思う支援】



- 若年者調査の結果 -

収入のある仕事の参加頻度別でみると、いずれの頻度も「介護をする方の心身の負担を軽減するための支援」が最も多くなっています。(表 5-14-3)

【表 5-14-3 収入のある仕事の参加頻度別 家族等の介護をするうえで、あればよいと思う支援】

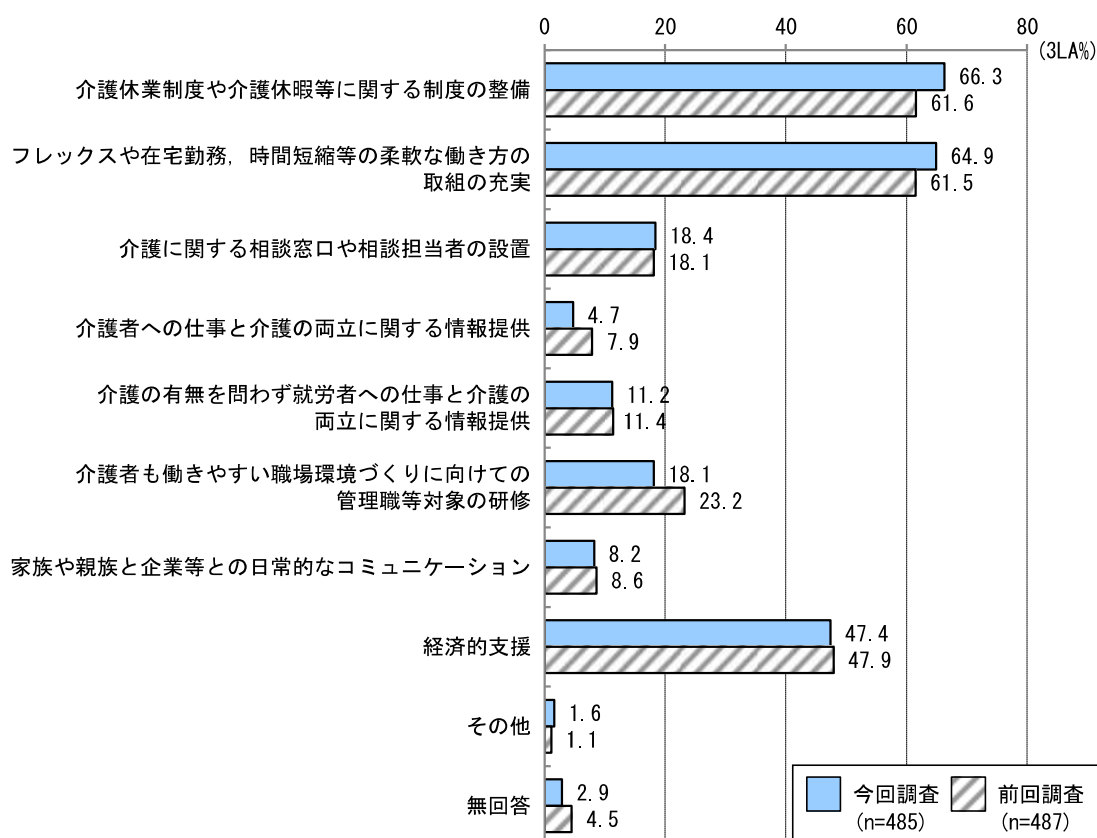
(単位：3LA%)

	支負介 援担護 をを 軽減 する する 方の ため 心身 の	支負介 援担護 をを 軽減 する する 方の ため 経済 的	確気 保軽 に 相 談 で き る 場 の	わ地 れ域 の 中 で 見 守 り が 行	含認 む知 介症 護の 方方 法法 への 周対 知応 を	等を認 の深 開め 催症 への ため の知 識の 研や 修理 会解	そ の 他	わ か ら な い	無 回 答
週 4 回以上 (n=241)	89.9	77.1	54.5	8.9	22.2	6.4	2.0	1.6	0.4
週 2～3 回 (n=38)	77.8	77.4	58.6	1.1	17.5	6.1	3.2	5.6	4.5
週 1 回 (n=3)	85.8	50.0	35.8	0.0	14.2	0.0	0.0	0.0	0.0
月 1～3 回 (n=6)	100.0	53.0	70.9	0.0	0.0	17.9	0.0	0.0	0.0
年に数回 (n=5)	91.7	79.0	37.7	8.3	24.6	0.0	0.0	0.0	0.0
参加していないが、 今後参加したい(n=111)	86.2	81.9	51.0	10.4	15.7	6.3	0.0	1.6	1.0
参加していないし、今後も 参加する気はない(n=61)	80.9	75.3	50.0	14.6	23.0	5.2	1.7	4.9	3.1

(15) 介護と仕事の両立のために企業等に求める支援

問5 Q12 あなたは介護と仕事を両立するためには、企業等にどのような支援策があれば良いと思いますか。〈〇は3つまで〉

【図 5-15 介護と仕事の両立のために企業等に求める支援】

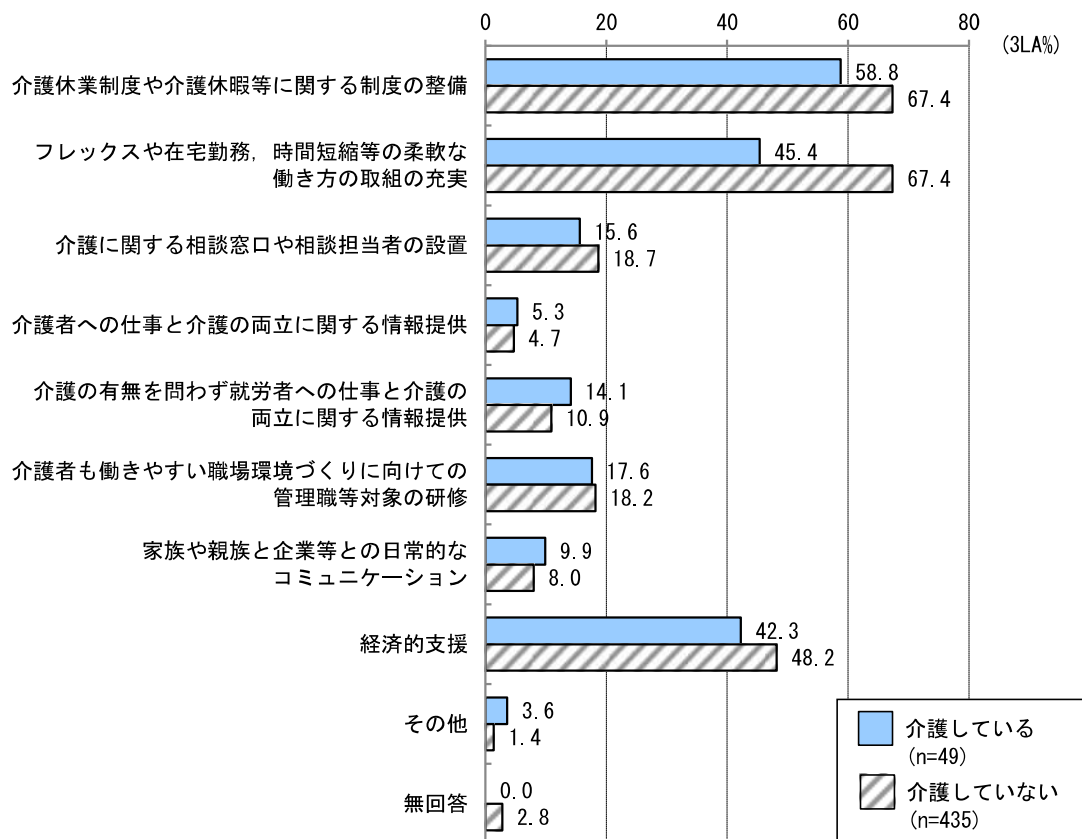


介護と仕事の両立のために企業等に求める支援については、「介護休業制度や介護休暇等に関する制度の整備」が66.3%で最も多く、次いで「フレックスや在宅勤務、時間短縮等の柔軟な働き方の取組の充実」が64.9%、「経済的支援」が47.4%となっています。

前回調査と比較すると、「介護者も働きやすい職場環境づくりに向けての管理職等対象の研修」の割合は5.1ポイント低くなっています。(図 5-15)

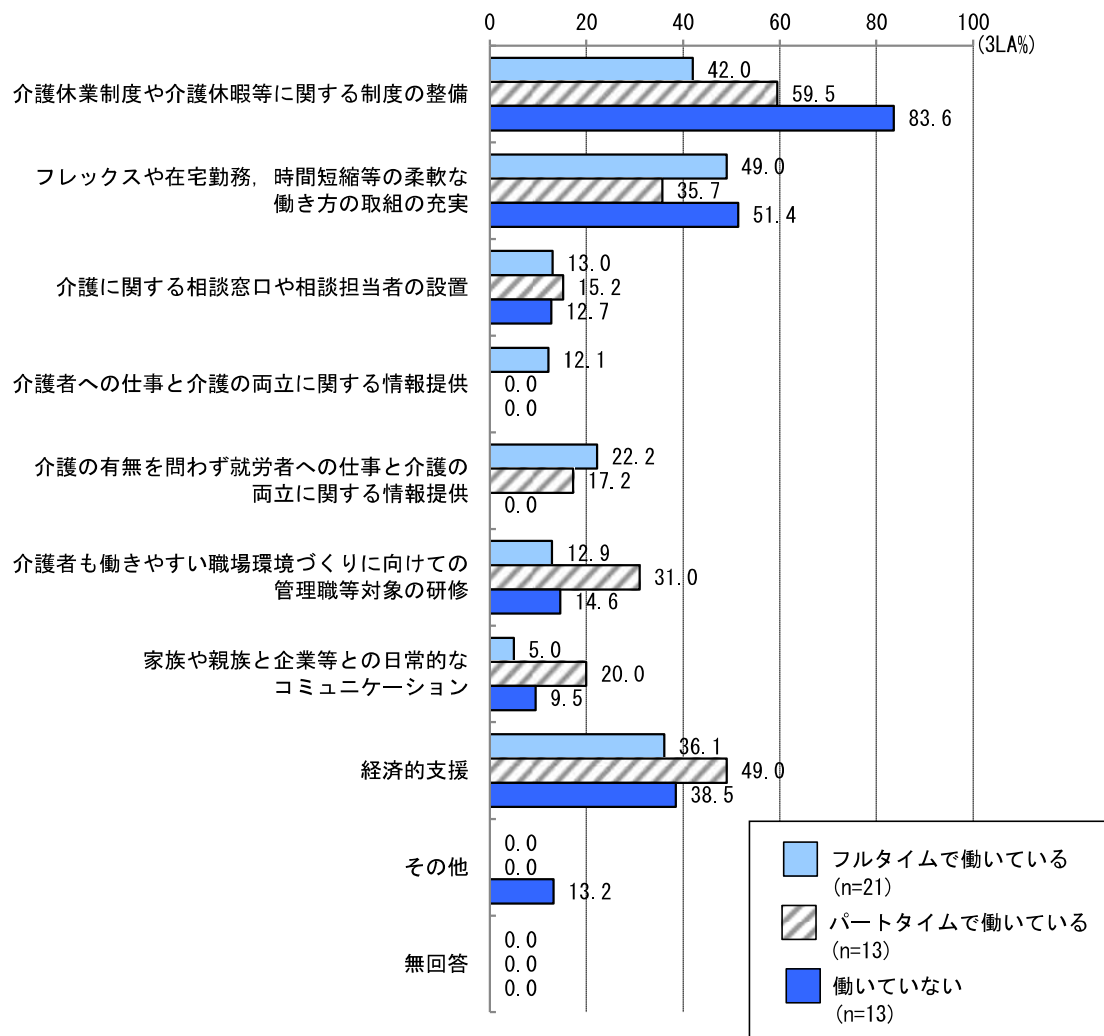
要介護者の有無別でみると、介護しているしていないに関わらず、「介護休業制度や介護休暇等に関する制度の整備」「フレックスや在宅勤務、時間短縮等の柔軟な働き方の取組の充実」「経済的支援」が多くなっています。「フレックスや在宅勤務、時間短縮等の柔軟な働き方の取組の充実」の割合は、“介護していない”人のほうが22.0ポイント高くなっています。(図5-15-1)

【図5-15-1 要介護者の有無別 介護と仕事の両立のために企業等に求める支援】



介護者の勤務形態別でみると，“フルタイムで働いている”人は「フレックスや在宅勤務，時間短縮等の柔軟な働き方の取組の充実」が最も多く，次いで「介護休業制度や介護休暇等に関する制度の整備」が多くなっています。“パートタイムで働いている”人は「介護休業制度や介護休暇等に関する制度の整備」が最も多く，次いで「経済的支援」が多くなっています。“働いていない”人は「介護休業制度や介護休暇等に関する制度の整備」が最も多く，次いで「フレックスや在宅勤務，時間短縮等の柔軟な働き方の取組の充実」が多くなっています。(図 5-15-2)

【図 5-15-2 介護者の勤務形態別 介護と仕事の両立のために企業等に求める支援】



- 若年者調査の結果 -

収入のある仕事の参加頻度別でみると、「週4回以上」の人は「フレックスや在宅勤務、時間短縮等の柔軟な働き方の取組の充実」が71.3%で最も多くなっています。それ以外の人では「介護休業制度や介護休暇等に関する制度の整備」が最も多くなっています。(表5-15-3)

【表5-15-3 収入のある仕事の参加頻度別 介護と仕事の両立のために企業等に求める支援】

(単位: 3LA%)

	介護休業制度や介護休暇に関する制度の整備	時間短縮等の柔軟な働き方、フレックスや在宅勤務	介護に関する相談窓口や相談者の設置	介護者への仕事と介護の両立に関する情報提供	介護の有無を問わず、就業に関する情報提供	介護者も働きやすい職場づくりに向けた研修	シヨンの日常的なコミュニケーション	家族や親戚と企業等との連携	経済的支援	その他	無回答
週4回以上 (n=241)	65.6	71.3	17.5	5.4	13.5	22.1	6.3	43.2	1.7	0.9	
週2～3回 (n=38)	66.7	64.6	21.5	5.6	12.1	21.7	9.3	35.4	0.0	7.7	
週1回 (n=3)	85.8	50.0	35.8	0.0	14.2	14.2	0.0	35.8	0.0	0.0	
月1～3回 (n=6)	64.9	63.8	7.1	0.0	7.1	17.9	7.1	53.0	0.0	0.0	
年に数回 (n=5)	100.0	100.0	0.0	0.0	8.3	29.4	24.6	37.7	0.0	0.0	
参加していないが、 今後参加したい(n=111)	65.6	56.4	17.8	5.0	6.6	14.5	13.9	63.5	1.9	0.0	
参加していないし、 今後も参加する気はない(n=61)	70.2	56.3	21.0	2.7	11.8	7.3	6.5	43.6	1.7	8.4	